

せ

せ せの発音は、せではなく、しえ、せえに近い発音が多い。又、しに近い。()内はしえに統一した。しえんしええ(先生) しえんくら(千遍) [会話] 和具の人は せ 言う事をよお(よく) 発音せん(出来ない) 人な(が) だいぶん(多く) 有るやがな(有るでしょう)。しえんしえ言うたり。せんかい(しなさい) 言うとこ(所) を、しえんかい言うてみたり、せ言わんと(言わずに) しえ言うのなあ(言います)。発音な(が) 違うんなあ(違います) 先生言わな(言わなければ) はざんのん(いけないのに) しえんしえ言うて しえ言うながな(言うのです)。

…**せ** 【接尾語】 動詞の末尾について、しなさいの意を表す。

せあい(しえあい) 【名詞】 海の瀬と瀬との間(志) [会話] 瀬と瀬の間を セアイ言うしなあ(言います)。砂と瀬とのあい(間) は セアイ言うんなし(言うのです)、砂地のとこ(所) を なんも(全く) 島が(が) 無いとこ(所) を、まあ(間) や(と) 言うの(言うのです)。

せいの発音はせえに発音される。

せい(しえい) 【名詞】 背 せえ参照

ぜいがこ(じええがこ) 【名詞】 蝨虫 [会話] たあ(田)の虫 言うと、うんかも有るし、それから はあ(葉) 食うがったぎ(蝗) もやし(もですし)、ゼイガコも 皆 稲食べたる(食べてしまう)。

せいきづく(しえきづく) 元気になる 勢いづく 病人などが回復する [会話] 表のもんら(太平洋の漁師) 言葉も荒いし、する事も荒いし、樽 漕ぐよおん(ように) になると、皆な(が) へんやあ あへんやあ 言うたり、やんえ やんえ言うたり そして やんやん言うて、セイキジイテ来ると いきって来ると(力んで来ると)。

せいしゅ(しええしゅ) (せえしゅ) 【名詞】 施主 せえしゅ参照

せいしょ(しえいしょ) (せえしょ) (清書) 【名詞】 1) 一度書いた物を新しく丁寧に書き直すこと 特に習字で先生に提出し、批判を請うなどのため、きちんと書く事。又、その書いた物、せえしょ 2) 習字 [会話] 1) セイショ書いて言うて、がっこ(学校) い(へ) 行く じぶん(頃) にや(には)、セイショや(だ) 言うと、どいらい(大変) 緊張しよおったやん

かい(して居たのです)。習字をなあ、先生ん(に) 出すのんなあ(のに)、セエシヨ書いて、つね(いつも)は、落書きになあ、けえこ(稽古) しとんねけど(しているのだが)、先生にやんのをなあ(やるのを)。2) そして 習字を習う事、自体を今日は セエシヨのひい(日) や(だ) 言うて言いおったね(言って居たのです)。今しや(今は) セエシヨして 先生に出さな(なければ) 言うやろ(言うでしょう) 練習しといて(しておいて)、それ、そいな(そんな) こた(事は) 言わんと(言わずに)、今日は セイシヨの時間 やなあ(だ) 言うて。

せいしよがみ(しえしよがみ) (せえしよがみ) 【名詞】

清書紙 せえしよがみ参照 (志(志島、鶴方、立神、甲賀、国府))

せいせいする(しええしええする) (清々) (晴々) 気が晴れて、さっぱりする 心に何のわだかまりも無く快い。せえせえする [会話] セイセイスル言う。気が晴れ晴れしたね(したのだ) 言うのを、セエセスル。言いたい事、言うたや(言ったら) 気な(が) セイセイシタレ(しました) 言うてな。ごおなわいとる(腹が立っている) もの(の)で、言うたると(てやると) セイセイシタヨオ 言うてな。セエセエシタ言うのも セエセスル言うのも、一緒やわい(です)。今日は、まあ ええ(よい) ひい(日)で セエセエスナア(します) 言うて天気な(が) ええひいんなあ(に) 晴れ晴れと セエセスルよおな ひいやなあ(だ) 言うて。

せいよおてのぎ(しえいよおてのぎ) (せえようてのぎ、

せいやうてのぎ) 【名詞】 タオル [会話] タオル。

セイヨオテノギ や(だ) 言うて、セイヨオテノギな(が) 流行って来たんでわれ(来たそうだ)、おらも(俺も) あいなな(あんなのが) 欲しなあ。

せいろ(しええろ) (せえろ) (蒸籠) 【名詞】 1) 井樓

セイロウ(蒸籠)の末尾母音省略 蒸 宋音 セイ 蒸し器 せえろ参照 2) 物を干す 木枠の付いた箕の子

せえ(しええ) (粹) (瀬) 【名詞】 浅い所 海底の岩礁

瀬 暗礁 せの二拍化 (志(国府、志島、越賀、御座、浜島、片田、船越、畔名、立神、甲賀、安乗)、北、松、尾) [会話] 沖のセエや(です)。島の有るとこ(所) を、島の事を セエ 言うの(言うのです)。

沖のせのせの せのせの沖で。島な (が) 有るとこなあ。上に飛び出しとる (ている) とこ (所) でも、セエな (が) 出とる (出ている) とか、底ん (に) のおも (の) セエな (が) 有って、そこやま あわすの (に) (探し出してその場行き着く)、山 見とて (見ていて) 底の島合わす。そやけど (しかし) おおかた (大体) 沈んどん (沈んでいる) とこを セエ 言うなあ (言います)。出とると (出ていると) 島や (だ) 言うなあ。隠れとる (隠れて居る) とこを あすこ (あそこ) にセエな (が) 有るよおな (ようだ)。そのセエを探して、漁師の人ら (は) 上手なんてや (なのです)。こんだけ (小さい) とこ (所) でも、そや (それ) そこい (に) セエな 来るよって (から) 見とれよお 言うと、ちゃんと来んね (来るのです)。

せえ (しええ、せい) 【名詞】 1) 物事をやり抜く心身の元気、又は根気 体から出る力、元気 (志 (浜島 布施田)、鈴市、津、張、伊、北、尾) 2) 栄養 滋養 (志 (浜島)) [会話] 1) セエ出す、仕事にセエな (だ) 言うの。セエ出す、遊んどらんと (遊んでないで) セエ出してせえよお (しなさい) 言うてなあ (言って)。セエ出してせえ (しろ) 言うのは 早よ (早く) せえ (しなさい) 言うのも言うしなあ (言いますし)。セエな (だ) 言うのは、何でもよお (よく) する言うのなあ (のです)。仕事よお する人をセエな (だ) 言うの。あや (彼は) セエな人や (だ)、よお 働いて、何でもよおして セエな人やなあ (だ) 言うの (言うのです)。

せえ (しええ) 【背】 【名詞】 身長 高さ (志 (布施田)、鈴郡、鈴市、阿、伊) [会話] セエ (背) な (が) たっこお (高く) なったかい (なりましたか) 言うの。セエ な (が) たっこおなった。おおた (まあ) どれらい (大変) セエ な なんご (長く) なって来たんよお (来ました) 言うて、喜びおった (居ました)。身長のをなあ セエな (が) なんがなって来て、きもん (着物) な (が) 短こなって (短くなって) のやげ (縫い上げ) 降ろさな (降ろさなければ) はざん (いけない) 言うて。人間で言うと 身長やけど (だが)、きい (木) やなんやも (とかも) セエ 言うな (言います)。きい (木) でも言うやんかい (言います)。おおた あのかい 見よまあ (見なさい) どれらい セエな たっこお なって来たない (来ました) 言うやんかい。立つとる (立っている) もんで (ので) なごなつとる (長くなっている) もん (物)

を、セエ な (が) 高い言うなあ。丈とかなあ セエや (と) 言うてなあ。

せえ (しええ) 1) しなさい 動作を命ずる (志 (畔名、志島、国府、浜島、御座、鶴方、神明、立神、安乗)、鳥、員、四、安、鈴市、多、張、尾、熊) 2) 持ち分として取っておきなさい [会話] 2) これ セエ言うてなあ 何か物な (が) 欲し時でも、これセエ (しなさい)、のおん (お前に) やるわい (あげます) 言うて。セエ言うのは お前 (貴方) の当り (取り分) にしとけ (しておけ) 言う事やなあ (です)。こや (これは) のおな (お前が) シエエ (持っていないさい・貰っておきなさい) そや (それ) 言うて、のおの (お前の) 当りやどお (です) 言や (言えば) ええんけど (よいのですが)、のおな シエエ 言うて なんやか (なんだろう) 思う。

せえいっばい (しええいっばい、せいっばい) 【副詞】 精一杯 力のある限り 出来る限り [会話] セエイッパイ 今日、仕事したや (ら)、くたばったよお (疲れた) 言うて。いっしょけめん (一生懸命に) なってする事、セエイッパイ。力一杯わがと (自分) な (が) 出来る限りする言う事をなあ。セエイッパイした 言うてなあ。わがとな 力の限りした言う事、セエイッパイ。

せえいれる (しええいれる) 1) 心をこめて励む 努力する 熱心にする。2) 元気つける 励ます [会話] 2) セエイレル 言うてだ、やいきづけん (元気づける) のを言うんやるなあ (言うのでしょうか)、ちよいと (少し) まあ あいら (彼等は) なめって (疲れて) 来とるよって (来ているから) セエイレタラナ (なければ) はざんわれ (いけない) 言うて。はよ (早く) 頑張れよ よさ (夜) や (は) ごっつお (御馳走) して待つとる (ている) よってん (から) とか言うて、せえつけん (る) のなあ (です)。1) セエイレル、わがと (自分) が努力する、せえいっばいする言うてなあ、わがと する事をなあ せえ出してせなまあ (しなければ) 言うて。

せええ (しえええ) しなさい 女性言葉 [会話] たしまい (不足を補う物) にセエエ 言うて、しそい (志添) みたいな (のような) 事すると。

せえか (せいかわ) (しええか) 【名詞】 生花 造花に対して本当の花 自然の花 [会話] セエカ 言うたら、花の事かい (ですか)。今しや (今は) セエカ や (だ) 言うけど (が)、昔や (は) 花も とてこい (取って来い) 言うてな。椿の花、へしよって (折つ

て) 来い言うて。葬式ん (に) なると椿の花をなあへしよって (折って)、年忌やどけは (などは) 椿をどんと (沢山) へしよって 来といて (来ておいて) 置いといてなあ (ておいて) 参ってく (て行く) もん (者) な (が) その花 一枝つ 持って参りおった (参って居ました)。葬式でも、なぬか (七日) のはなおりや (だ) よって (から) 椿のきい (木) も、よっけ (沢山) とてきとかな (取って来ておかなければ) 言うて、もて (持って) 来て そして一本つ 持って参いて、葬式い (に) 行く時や (は) 椿い (へ) 花、こさえて (作って) 飾ってのお もてくのは (持って行くのは) そんな (それが) セエカ やったの (でした)。ちり紙、花こしらえて (作って) 付けてなあ。

せえかく (せいかく) (しええかく) 【名詞】 性格 その人固有の性格 [会話] そのにげ (人間) のせえひつ (性質)。セエカな (が) わり (悪い) 言うのな (です)。あや (彼は) まあ セエカな (が) わり いてなあ (悪くて) 言うて、せえひつ や (です)。

せえかつ (しええかつ) 【名詞】 生活 その家の経済状態 生き方 [会話] セエカツ 言うな (のは、その日の暮らしの事な (です)。昔や (は) そいな (そんな) セエカツ 言わせんけどな (言いません)。暮らしや (とか) しんしよもち や (だ) 言うて しんしよもち な (が) ええ (よい) とか、わり (悪い) とか言うて、今しや (今は) セエカツな (が) 贅沢な (だ) とか なんとか言うけど (が)、昔や (は) しんしよもち な (が) 派手な (だ) とか、しんしよもち な (が) 下手なよってん (だから) とか、言うてな。しよたいもち な (が) わり 言うのを、しんしよちな (が) わり 言うてなあ。

せえがない (しえがない) (精無) 1) 元気がない (員) 2) 気が入っていない やる気がない 張り合いがない (阿、張、名) せえなない参照 [会話] 1) 元気が無いのを セエガナイな (です)。まあ な めつとして。元気の無い事を セエナ (が) ナイ。2) いっしょけんめ (一生懸命) しやせん (しない) 言うな (言うのは)、怠けとる (怠けて居る)、怠けもん (者) や (だ) 言うし、いっしょけんめ 仕事する ひた (人は) せえ な (だ) 言うてなあ。よお (よく) 働いて こまごまする人 あや (彼は) せえで言うし (言います)。

せえがん (しえがん)。 **せえがんじゅんさ (しええがんじゅんしゃ、せいぐわんじゅんさ) (請願巡査) 【名**

詞】 町村協議、銀行、会社、又は個人でその費用を収めて巡査の配置を請願する制度、又はその巡査 [会話] セエガンジュンサ言うて、昔や (は) 座賀いも (にも) 海岸の方をな 見廻る人を、セエガンジュンサ。〇〇爺な (が) 座賀のもり (番人) しとて (して) いて、その セエガンを乗せて、行たり来たりすると、〇〇言うて セエガンジュンサな (が) 呼ぶのな (です)。どどろ (雷) な (が) 鳴るよおな声やな (だ) 言うて、どいらい (大きい) 体格のええ (よい) 巡査な (が) おったわい (居ました)、セエガンジュンサや (だ) 言うて。村からたのどたのな (頼んでいたのです)。セエガンジュンサ 言うのな (です)。本当のけえさつ (警察) は 今しの (今の) 角万の、あしこな (あすこが)、けえさつで、セエガンは 舟戸の方ん (に) おったな (居ました)。村から、それをたので (頼んで) 座賀を見まわん (見廻るのに)、巡査をたのどたの (頼んでいたのです) 浦をなあ、御木本へ 座賀 貸した (ていた) もんでな (ので) その時ん (に) セエガンジュンサを たので (頼んで) 座賀をみまあよ おったの (見廻って居たのです)。

せえき (しええき) 【名詞】 せいき 生氣 精気 いきいきした勢い 活気 充実した気力 [会話] セエキな (が) 強いなあ。セエキな (が) つく様に、人参 こ おて (買って) 喰えとか、鰻 喰え、言うて 鰻 喰うと セエキな (が) つくてやら (とか) 人参を喰うとセエキな (が) つくてやら 言うて。

せえきづく (しええきづく) 元気が出る 気負う 勢い がよくなる。せいきづく参照 [会話] セエキツイテ来た言うて、元気な (が) 出て来るとな (なあ、がいな (大変) セエキツイテ来たやんか (でないか) 言うやんかい (言います)。体な (が) 弱いもん (者) な (が) 元気ん (に) なる、まあ セエキな (が) ツイテ来て、あやれ 言うてな、山の芋、喰うたんか (食べたのか)、そや (それは) 言うてよお (よく) 言よ おったやんかい (言って居ました)。山の芋喰うと セエキな (が) ツク 言うて。

せえきゆう (しええきゆう、せいきう) 【名詞】 請求 要求 催促

ぜえきん (じええきん) 【名詞】 税金 ぜいきん 租税として国、又は地方自治体に収める金銭 (鳥 (神島)、鈴郡、度) [会話] ゼエキン 言うのは、昔や (は) こおそお やな (です)。こおそおも せん とおつて (せずに居て) よお 拂わんね (拂えないのだ) 言う

てな、督促状な (が) くんね (来るのです)。二十五日ん (に) なると終いで 二十四日ん (に) なると “よおい こおそ もて ござれよお” 言うてなあ、ふれて (触れ廻って) くんね (来るのです)。二十五日な (が) 期限やもんで (なので) それ迄 よお納め んで (納めない) まあ こおそする ぜん (銭) な (が) の お て (無くて) 言うて、昔や (は) 難儀し よおったね (して居たのです)。昔や (は) 現金な (が) そえん (そんなに) 入 いらせんもんなあ (入らないので) 一本釣り、じょおし (漁師) ん (に) いた て て (行っても) 一日ん (に) 一円もな や (なれば) 大きな事や (です)。大漁したれ (しました) 言うて、一円五十銭か、二円や (だ) 言うて 普通なら、五十銭か、一円な あ (です)。一日働いても、そん だ け (それだけ) や よ っ て (だから) こおそお や (だ) 言うてもだ、五十銭か一円でまあなあ 四回すん の ん (するのに) そん だ け で (それだけで) 済むね け ど (ののだが)、そのぜん (銭) な (が) なかなか稼せ が れ や せん ね (がれないのです)。そん で (それで) こおそお も よ お せん と (出来なくて) 督促状も ろ て (貰って) 言うて よ お 言 よ お っ た わ い (よく言って居ました)。役場から請求状、お こ す ん ね (寄こすのです)。こおそお も て (持って) 来い言うて、そん で も (それでも) そのじ ぶ ん (頃) の 五十銭か一円な (が)、なかなか 大金や っ た ん よ っ て ん な あ (だったのです)。一日、養殖の貝掃除ん (に) い て な (行つては) 三十五銭、海女に い て も (行つても) 一日、七十銭つ も ろ て (貰って)、秋ん (に) い た て て (行つても) 伊勢秋で、尻からけ ぶ り (煙) な (が) 出る程、朝五時から よ さ り (夜) 五時迄 働いて十七銭も ろ て (貰って)、そん だ い (その代わり) うどん一杯う と 三銭でよ か っ た ん て や (よかったのです)。

せえぐすり 【名詞】 精薬 精力をつける薬

せえけつ (しええけつ) 【名詞】 せいけつ 清潔 きれいで汚れないこと [会話] セエケツ 言うて、美しするな あ (のです)。セエケツん (に) せ な (しなれば) は ざ ん わ れ (いけない) そ げ ん (そんなに) き た の お (なく) し と ら ん と (していなくて) 言うてな、今 し や (今は) 言うけ ど (が)。昔や (は) そ い な (そんな) 事 し と ら ん と (していなくて) 立派ん (に) そこらも せ え ま あ (しなさい) 言うて、掃除も、掃いたり拭いたり、じ っ ぱ ん (立派に) し と け ま あ (しておきなさい) 言うて。

せえげん (せいげん) (しええげん) 【名詞】 せいげん 制限 ある限度や範囲から出ないように抑える事 [会話] セエゲンして 言うてまあ こ っ か ら (ここから) 此処い (へ) 迄 言うて き り (区切り) き っ て (つけて)。

せえご (しええご) 【名詞】 せいご すずきの幼魚 全長25cm位迄 満一年未満のもの (志、桑郡、桑市、員、鈴市、安、阿、度、伊) [会話] セエゴ 言う魚な (が) 有 る や ん か い (有ります)。

せえこお (しええこお) 【名詞】 せいこう 成功 富や社会的地位を得る事 [会話] セエコオした、出世した、息子な (が) 出世してなあ言うの (のです)。セエコオしてなあ 言うの (のを)、え ろ お (偉く) なつてなあ言うてなあ。出世した て て (しても) なん も (少しも) 親らは と く ん (に) な ら せん し (ならない)、媿 (妻) や、子らこそ え え け ど (よいが) 言うて よ お (よく) 愚痴言 よ お っ た (言っていました)。息子な (が) セエコオ し た て て、親は なん も や わ い な あ (なにもです)。家ん (に) お っ て (居て) わ り (悪い) も ん (物) 喰うて、働いて し と る (している) だけで、媿 (妻) や子らは まあ 一緒ん (に) い て (行つて) と と (夫) な (が) か せ ぎ や (稼げば) それで喰うてかれるけ ど (て行かれるが)。親らは、なん も や わ い。そや よ っ て (それだから) 息子な (が) セエコオして え え な あ (よい) と く や な あ 言うた て て (言つても) 親ら、なん も や わ い 言うて。

せえこん (しええこん) 【名詞】 せいこん 精魂 一つの事をする気力 根気 [会話] セエコン こめて せ な は ざ ん (しなければいけない)。セエコンこめて し た も ん を (ものを) こ げ ん (こんなに) し も た て (悪くしてしまつて) 言うや ん か い (言います)。いっ し よ け め (一生懸命) で し た 事 を 言うの な あ (での)。せえ こめて し た の を まあ、水の泡ん (に) し た た れ (してしまつた) 言うて、いっ し よ け め で お ら な (俺が) つ め だ め し た (儉約して貯えた) も ん (物) を 言う事や ろ な あ (でしょう)。あん で (あれで)、セエコンこめて こ ん し て (こんなに) し て 買い 求 め た も ん (物) を、息子らな (が) 皆 売り は る た て (はらつてしまつて) 言う時な (が) 有 る や ん か い な あ (有ります)。つ め づ め (儉約して) と、貯め た も ん (物) を 言うて こ お と (質素) にする事をなあ つ め づ め す る。

せえさい (しええさい、せいさい) (精差) (精際) 【副

詞】 精一杯多く、よく見積もっても せいぜい たかだか やっと かるうじて出来るだけ (志 (布施田、甲賀、国府、安乗) 鳥、伊、鈴市、三、松、上、阿、張、尾、南、熊) [会話] セイサイ これだけのもの (物) やるなあ (でしょう) 言うの。セイサイ言うのな (言うのは) これぐらいのもの やる (だろう)、見当 (目測) で言うんやるなあ (言うのでしょうか)。おおても (多くても) すくのおても (少なくとも) 見当を見る時なあ (に)、えごつと (十分に) わかやせんけど (判らないが) まあ それ位やるなあ (だろう) 言う時 よお (よく) 使うなあ (使います)、めはちぶ (目八分) で。めはちぶ言うなあ (言うのは) 秤 かけんと (掛けずに、秤で計測せずに) めっそおで 見んのなあ (見るのを) めはちぶ。こや (これは) この位やったら (だったら) 百め (匁) 位 あんなゆるなあ (有るのだろう) 言うの (のを) めっそ言うの (のです)。めはちぶ言うの (のも) めっそおも一緒やなあ (です)。

せえじ (しええじ、せいじ) **【世事】** 炊事 **【名詞】** 炊事 **【副詞】** せえじもと参照 (志、南)

せえしえん (しええしえん) しない しません [会話] しやせん (しない)、なんも (少しも) 仕事しやせん ねもんな (しないのだから) 言うてな、なんもしやせん ねもんな、ぜん (銭) も なんも (全く) よお稼ごかれ (稼げない)、なんも (なにも) せんと (せすずに) あそで (遊んで) ぼっか (ばかり) おってなあ、ぜん (銭) な (が) どっから (何処から) くんねてど (来るのだ) 言うて。セエシエン 言う人も有るけどな しやせん (しない) 言うて。

せえしだい (しええしだい) 努力次第 働けばそれに伴って、収入が有る。(志 (布施田))

せえしつ (しええしつ) **【名詞】** 性質 **【副詞】** せいしつ 生まれつきものたち もって生まれた気質 [会話] 生まれつきをなあ あんな (彼の) セエシツは、生まれつき あげな (あんな) づぼら (怠け) の セエシツ やもん なあ (だから) とか、弱いセエシツ や (だ) とかな、生まれつき あげな (あんな) セエシツ やもん (だから) 言うやんか (言います)。

せえじどこ (しええじどこ) **【名詞】** 台所 (南)

せえじもと (しええじもと) **【名詞】** 流し 炊事場 [会話] セイジモトや (と) 言うて、流しもと (流し場) 言うのなあ、セイジモトな (が) 汚のおて (汚くて) 言うて、セエジを せな (しなければ) はざん のおで (いけないので) 言うて 勝手せな (炊事しな

ければ) はざん (駄目だ) 言うのを。

せえしゆ (しええしゆ、せいしゆ) **【施主】** **【名詞】** 施主 参照

せえじゅうろお **【名詞】** 海魚 めだい 体は側篇。食道裏は左右一對のソラ豆状。老幼で体型や色色が変わる。だるま参照 (志)

せえしよ (しええしよ) **【名詞】** 清書 **【副詞】** せいしよと同じ

せえしよがみ (しええしよがみ) **【清書紙】** **【名詞】** 半紙 (志 (志島) 南) [会話] 習字のなあ (です)。がっこ (学校) 行く時分 (頃) に セエシヨガミ 買わな (買わなければ) はざん (いけない) 言いおったなあ (言いました)。セエシヨガミ買わな 言うて。忠勇半紙や 天上紙 や (とか) 言うて、一銭で買うと十何枚 言うて 買われおった (買えて居ました)。つるつるの紙をなあ、忠勇半紙や (と) 言うて、図画描く時は 木炭紙を 買わなはざん (いけない) 言うて、木炭紙 言いおった (言っていました)。

せえしん (しええしん) **【名詞】** 精神 **【副詞】** せいしん 心、又は心の働き [会話] セエシンな (が) わり (悪い) よってん (から) 言うて、心やわいなあ (です)。セエシンのこたなあ (事は)。昔の人ら 言うやんかい (言います)。あんななあ (彼が) なんな (なんで) 出世しよおどれ (するものか) セエシンな (が) わりもん なあ (悪いから)、言うて。親んも (にも) 孝行もよおせな (しなければ)、人らにも、義理もしやせんし (しないし)、人に情け掛ける事も知らんしするのなあ (です)。

せえじん (しえいじん) **【名詞】** 成人 成年に達する事

せえすい (しええすい) **【名詞】** せいすい 清水 きれいな水 [会話] 塩、撒いたり、セエスイで清めるとか、言うてな。不浄なとこをなあ (所を) 荒塩で 清めるとか セエスイで 清めるとか 言うてな。

せえせえ (しええしええ) **【副詞】** 1) せいせい 晴晴 晴れ晴れとしているさま 心にわだかまりがなく快いさま。2) 生生 せいせい 生き生きとしているさま 生きかえったような気持ちのさま

ぜえぜえ (じええじええ、ぜいぜい) **【副詞】** 運動した後、喉が喉にからまった時など呼吸が困難になった時を表す語。運動の後の激しい息使いのさまや、痰などが咽喉にからまったり、咽喉がはれたりして、呼吸するたびに出る音を表す語。ぜいぜい [会話] 咽な (が) ゼエゼエする 言うけどな (言います)。咽な なあ (が) 咳もせかせんねけど (しないのだが) なん やら (なにか) ぜりぜりと気色 (気持ち) な (が) わ

りなあ(悪いです)、風邪引きん(の)時なあ(です)。いたないんけど(痛くないのだが) 詰まったよおな、せいでも(咳しても) 出て来やせんしなあ(来ないし)、どいらい(大変) 気持ちな(が) わり(悪い) もんや(ものです) ぜりぜりすんな(するのは)、風邪引く前ん(に) あえんして(あんなにして) くんのなあ(来るのです)。

せえせえする(しええしええする) 1) 気分が晴れ晴れとする(鳥) 2) 生き返ったような気持ちになる [会話] 1) おおたまあ(ああ) あれ まあ(もう) 苦に しとたのん(していたのに) したたや(してしまったら) セエセエシタナア(しました) とか、ごおなわく(腹が立つ) 事 人ん(に) 言うたると(言ってみると)、おおた 胸な(が) セエセエシタナ(しました) 言うんなあ(言います)。腹の立つとる(立っている) 時ん(に) 人に愚痴こぼしたると(こぼしてみると)、おおた 言うたたや(言ってみたら) セエセエシタよお(しました) 言うやんかい(言います)。気な(が) 晴れ晴れした言う事やなあ(です)。セエセエスル言う事は。

せえせき(しええしえき、せいせき) 【名詞】 成績 せいせき 成し遂げた結果 出来栄え [会話] がっこ(学校) な(が) よお(よく) 出来て、セエセキな(が) ええ(よい) 言うてな。そして 仕事もよおして、セエセキな ええ この仕事あ(は)、どいらい(大変) セエセキな(が) よかったなあ(よかった) 言うて。上手ん(に) するとなあ、反対ん(に) わり(悪い) と セエセキな わり、あやなあ(彼は) セエセキな(が) わり、勉強もなんも(少しも) しやせんねもんなあ(しないのだから)。珠入れな(が) 今年や(は) セエセキな(が) わりいて(悪くて) まあ 言うてなあ、巻きな(が) わり とかなあ 今年や(は) 珠な セエセキな(が) わりいて(悪くて) なんも(全く) はざんよお(駄目です) 言うて、珠入れの人らな(が) よお(よく) 泣くやんかいなあ(泣き事を言います)。

せえぜん(しええぜん、しええじえん) 【名詞】 生前 せいぜん 生きていた時 死ぬ前 [会話] 生きとる(ている) 前の事を、セエゼン 言うやんかいな(言います)。昔の人ら、死んでく(でいく) 前ん(に) とか、死んでた(でいった) 後で とかな 言うけど な(が)、セエゼンとか、せえご(生後) とか言うよおな事、言わらったなあ(言いませんでした)。あの人ら、生きとる(ている) うちん(間に) しや(すれ

ば) ええけど(よいが)、死んでてからなあ(で行ってから) なん(何) しよお 言うたてて(言うても) はざよかれ(いけない) 言うてなあ。死んでく(で行く) 前ん(に) そいなこた(そんな事は) 言うたり、したり すんのなら(するのなら) ええけど、言うてなあ。死んでから、言うたてて(言っても) 死んでから 泣く法螺の貝 言うて言うの(のを)、そいな(そんな) 事 言よおった(言っていました)。

せえぞお(しええぞお、せいぞう) 【名詞】 製造 せいぞう 原料を加工して製品にすること [会話] なんやかや(いろいろ) こしらえんのなあ(作るのです)。あしこで(あすこで) セエゾオ しとられ(している) 言うて、きんこ(芋の煮切干し) の セエゾオしとんねよお(しているのです) 言うて。きんこ炊きしとんねよお 言うて。

せえぞろい(しええぞろい) 【名詞】 勢揃い せいぞろい せいぞろえ 大勢の人が一か所に寄り集まる事 [会話] セエゾロイや(だ) 言うて、みんな(皆) な(が) 来ると、みんな な 集まって、活気ついとんのを(ているのを)、セエゾロイや(だ) 言うやんかい(言います)。セエゾロイやなあ(だ) 今日、まあ なしたんど(どうしたのだ) こや(これは) 言うてなあ。

せえたかによつぽ(しええたかによつぽ)。 **せえたかのつぽ** 【名詞】 背の高い人 によつぽはのつぽの訛 [会話] せえ(身長) の たっかい(高い) 人も、によつぽ セエタカニョッポ 言うてなあ。

せえだく(しええらく) せえらくに同じ 苦労する 難儀する ら行の発音がだ行になったもの

ぜえたく(じええたく) 【名詞】 贅沢 ぜいたく 必要以上に金銀などを費やして物ごとを行う事 普通以上である事 [会話] なんもかも(すべて) 裕福になって、ゼエタクして 楽して(楽しくて) 毎日 生活しとると(していると) じゅうじよ(十分に幸せ) の世や(だ)。

せえだして(しええだして) 一生懸命になって

せえだす(しええだす) (精出) 【自サ五】 精を出すさま 熱心にするさま 一生懸命に 早く仕事をしてしまう事 (志、松、尾) [会話] いっしょけんめ(一生懸命) 働く事なあ(です)。元氣よお(よく) 働いて あや(彼は) セエダス 言うてなあ(言います)。セエダシテせえよお(しなさい) 言うど、はよ(早く) せえ(しなさい) 言う事、はよ したれまあ(してしまいなさい) 言うて、はよ したらな(してやらなけ

れば はざん (駄目だ) 言う事も、セエダシテ しええ (しなさい) 言うなあ (言います)。力一杯 セエダシテ働け 言うのも 言うしなあ (言いますし)。
そして はよ したれ (してやれ) 言うのも セエダシテ したれ。

せえだすのお (しええだすのお) 働いて居る人への挨拶 (南)

せえつけたる (しええつけたる) 元気づける はげます
せえつける (しええつける) 栄養を取らせる [会話] セエツケル 言うと、体に栄養やって (与えて) セエツケエまあ (つけなさい) 言うて。元気をなあ。元気出せえ とか、体も丈夫にせんならんよって (しなければいけないから) 滋養やって (与えて) セエ ツケエ (つけなさい) 言うて。

せえったい (じえったい) (絶対) 【名詞】 どう言う場合でも必ず 断じて なにがなんでも (北) [会話] ゼエツタイ言うな (のは) めったやれ (だ) 言うねなあ (言うのです)。めったな事 そんな (それが) 出来よかれ (出来るものか)、めったん (に) なるかれ (ならない) 言うてなあ、めったん なるかれ 幾らもがいても (働いても) めったん (に) ならせんど (出来ないぞ) 言うね (言うのです)。ゼエツタイならせん (ない) 言うのを。

せえて (しええて) 急いで

せえと (しええと) 【名詞】 生徒 せいと 学校などで 教えるを受ける人 (三) [会話] がっこ (学校) のセエト、がっこのこらら (学校の子供達) 言うて、婆らなあ がっこのこらら ななれ (が) よけ (沢山) 来てなれ言うて、がっこのこらら 言よおったけど (言っていました) セエトの事を。

せえとる (しええとる) 急いでいる

せえな (しええな) よく働く事 (志 (布施田、志島、甲賀)) [会話] セエナ言うのは よお (よく) 働く事 なあ (です)。よお (よく) 働いて こまごます人 セエナ人や (です)。

せえなない (しええなない)。 **せえなねえ (しええなねえ)** 1) 元気が無い、勢いが無い 2) 気が入らない、根気がない 3) 誠意が無い (志 (布施田)) [会話] 1) セエナナイ 言うのを、元気な無いとか 勢いが無いとかなあ。がいな (大変) 今日は セエナナイやんか (でないか)、元気な無いやんか 言うてな。

せえねん (しええねん) 【名詞】 青年 せいねん 年の若い人 青春期にある男子、又は女子 (志 (志島)、鳥 (国崎)) [会話] 若い衆の事を、セエネン言うて、

男を言よおって (言っていて)、男でも、おなご (女) でも、若いもん (者) は、若い衆や (だ) 言うてな。

せえの (しええの) しなさい (度)

せえの (しええの) 【感動詞】 重い物を持つ時の掛け声 (南)

せえばつ (しええばつ) 【名詞】 征伐 せいばつ 退治すること

せえひつ (しええひつ) 【名詞】 性質 性格 (北) [会話] そのにげ (人間) のセエヒツ、性格な (が) わり (悪い) 言うのなあ (です)。セエヒツや (です)。

せえまあ (しええまあ) しなさい せえ 成 なしとげる 出来上がる つくり上げる 育て上げる 育つ まあ 相手にある行動を促す語 [会話] これ シエエマア 言うてなあ (言って) したれ (してやれ) 言う事を、後で “ま” 付けんの (付けます)。セエマア言うし したれまあ 言うのも一緒や (です)。仕事ん (に) でも これセエマア言うやんかい (言うてはありますか)。セエマア言うのは 仕事せえ (しなさい)。饅頭と飴菓子があると はあ (歯) な (が) わりよってん (悪いから) 饅頭ん (に) しとけ (しておけ) 言うの (のを) 饅頭にセエ言うの。

せえまい (しええまい) しない したくない まい 打ち消しの推量の意を表す ないだろう 打ち消しの意志を表す ないつもりだ (志 (甲賀、国府)) [会話] セエマイ言うのは わがと (自分が) したない (したくない) 事をなあ、したないと こいな (こんな) 事 シエエマイ したない (したくない) やめとく (やめておく) 事なあ。やめとこ (やめておこう) 思てなあ (思って) やめとく (やめておく) 事なあ シエエマイ言うてなあ (言います)。まあ あいな (あんな) 事 セエマイ 今度から言うね (言うのです)。

せえまいや (しええまいや) しないでおきましょう [会話] あいな事 (あんな事) セエマイや言うて、嫌いな事な (が) 有ると

せえまん (しええまん) 【名詞】 海女の魔除けの印 ~~✕~~ 陰陽道 阿部清満に関係するか (志、鳥、伊)

せえや (しええや) しなさい

せえよお (しええよお) しなさい (度) [会話] こげん (こんなに) セエヨオ 言うて、おせても (教えても) よお (よく) せざったりすると (出来なかつた) 世話な (が) やける。

せえよお (しええよお、せいやう) 【名詞】 静養 せい

よう 心身を静かにして療養する事 心身を静かな状態に置く事 [会話] セエヨオは 養生 出養生に いとんねてわれ (行っているそうだ) 言よおった (言いました)。出養生 いとる (行っている) 言うてな病院へ行くとなあ。

せえよおざら (しええよおざら、せいやうざら) 【名詞】

西洋皿 西洋風の皿 底が浅く縁の大きいもの (南) [会話] 洋食皿の事を、セエヨオザラや (だ) 言よおったなあ (言っていました)。セエヨオザラで喰うて言うて、わしらな (私の) 子供のじぶん (頃) セエヨオザラ言うまん (物は) 無かったけどなあ (有りませんでした)。てびき (大皿) や (だ) 言うて、ひらくたいのを (平らなのを) 言よおったけど (言っていました)が、ちよいと (少し) 模様な (が) こまかいの (小さいのが) してすんの (するのを) こや (これは) セエヨオザラやなあ (だ) 言うて。

せえよおてぬぐい。せえよおてぬぐい (しええよおてぬぐい、せいやうてぬぐい)。

せえよおてぬぐい、せいやうてぬぐい。せえよおてぬぐい、せいやうてぬぐい。せえよおてぬぐい。せえよおてぬぐい 【名詞】 タオル 西洋手拭 (上、阿、張) [会話] タオルの事なあ (です)。タオルな (が) はやり出して来たおりん (時に)、セエヨオテヌグイで言うてなあ、あんで (あれで) 十七、八のじぶん (頃) やったねやるなあ (だったのでしょうか)。セエヨオテヌグイ よお 買わんで (買えなくて) 言うて、磯 (海女) い (に) 行くのん (のに) しおとり や (だ) 言うてな、あんで (あれで) 鉢巻すると 頭のしじく (髻) な (が) おってこんで (落ちて来なくて) ええんでや (よいのです)。しおとり ん (に) セエヨオテノグイ 買う 言うてな、と (すると) わしら (私は) まあ、よお買わんねよお (買えません) 言うてな。セエヨオテノグイや (だ) 言よおったね (言って居たのです)。ひとふり (一本) な (が) 二十銭位でかよおった (買えました)。そして、それ鉢巻ん (に) するとなあ 海からあがって来ると しじく (髻) な (が) 首たまい (へ) おってこんで (落ちて来なくて) よおてなあ (よくて) それ しおとり や (だ) 言うてなあ、しおとりん (に) すんのん (するの)に セエヨオテノグイ よお買わんねよお (買えないのです) 言うて。

せえよおりよおり (しええおりより、せいやうれうり) 【名詞】

西洋風の料理
せえらく (しええらく) 【名詞】 苦勞する、難儀する事 せいらく、政略の転じた語、探し求める事 (志 (布施田)) [会話] セエラク したれまあ (しました) 言

うなあ。セエラクした せいだく (せめさいなむ) 言うのを セエラク言うね (言うのです)。だく よお (よく) 言わん (言えない) 人な (が) あんね (有るのです)。せいだく言うのは 一生懸命にしてなあ おおた (ああ) これ しのくうて (しにくくて) セエラク しもて (しながら) したない (しました) 言うてなあ。しいのくい (しにくい) 事を、いっしょけんめ (一生懸命) でなあ。いっしょけんめ になった言う事やなあ (です)。精出した 言う事。物探すのも セエラクして 探した 言うて、いっしょけんめ になる 言う事やるけどなあ (でしようが)。

せえらし (しええらし) (勢) 【形容詞】

大きい事 少しく大きくなってくこと 一人前近くなる事 少し程度がよい事 (志 (布施田)) [会話] ちよいと (ちよいと) セエラシな (です) こや (これは) 言うて、ちよちやい (小さい) のおと おっきい (大きい) のおと (の)と ごちゃごちゃにあつてもなあ。こや ちよいと セエラシよって (から) すんのけとけ (除いておけ) とか、セエラシのおを (のを) あれん (彼に) やんのん (やるのに) そや (それは) 言うて、ちよいと おっきい 事をなあ セエラシ。子供やどけな (などが) ちよいと おっきい なって来る 大人になりかけて来た、せえ (背) な (が) おっきい のを、あや (彼は) ちよいと おっきい 言うけど、セエラシとは 言わせんけど (言わない)、そや けど (しかし) ちよいと ひねこし (賢く) なって来ると、あや (彼は) セエラシなって来たなあ言うんやんかい (言うのです)。植物でも、おっきなって (大きくなって) 来ると ちよいと セエラシなって来たよって (から) 植え替え せんならん (しなければいけない) 言うて、おっきい なって来た事を。そおすると お父さん お母さんも よお (よく) 言わざったのに (言えなかったのに) お父さん お母さん言うたり (言ったり)、まま (御飯) やたら (とか) なんやら御飯の事でも 言うて来るやんない (でしよう)。そすと (そうすると) セエラシなって来たなあ (来ました) 言うて、そげな (そんな) 時にも使う。畑のもん (物) でも ちよいと 成人 (成長) して来ると セエラシなって来たよって 植え替えたり 誰かにやる わい (あげます) とかなあ、ちよいと セエラシなって来ると そいな (そんな) 時にも 使う。成長して来た時に 使うのなあ。

せえりよく (しええりよく) 【名詞】

勢力 せいりよく 勢いと力 威勢 [会話] セエリヨクな (が) つ

よおて(強くて) まあ言うてな。荒い言葉使うと、あや(彼は) まあ セエリョクな(が) つよおて、鼻息な(が) あろおて(荒くて) 言うてな、そして 金持ちん(に) なった人を セエリョクな(が) つよお(強く) なるて言うしなあ。

せえれつ(しええれつ)【名詞】 整列 せいれつ 正しく列を作って並ぶこと [会話] セエレッツせな(しなれば) そや(それ) いがんどうやんか(歪んでいるでないか) 言うて、がっこ(学校) い(へ) 行くのん(に) てえ(手) つなんで(つないで) 行きよおったね(行って居たのです)。子供のじぶん(頃) にや(には)、より場 言うてなあ みんなな(皆が) 朝そこい(そこへ) 寄っついて(集まっておいて) てえ(手) つなんでなあ、今し(今) みたよん(のように) 車は無いしなあ そげん(そんなに) 危ないしなあ そして おっそい(遅い) 子らな(が) 有ると がっこ い(へ) 行くど(行くぞ) 言うて 男の子らな(が) どいらい(大きな) 声で おめくね(叫ぶのです)。そすと、まあなあ 皆 寄って来て、そして、皆 寄ったら 二人いつ(づつ) てえ つなんで 行きよおったね。

せえろ(しええろ) (井樓) (蒸籠)【名詞】 1) 木枠に簀を張って作った魚などを乾燥させるための道具 せいろうの訛(志) 2) 木枠に簀を張って、物を蒸す道具 蒸籠 せいろ参照(鈴市、松、多、度、伊、尾、南) [会話] 1) きんこ(芋の煮切干し) 干す セエロ。きい(木) の枠して 竹の簀 編むの(のを) セイロ なあ(です)。昔 干物 干しおった(干していた)。今しや(今は) 干物やなしに(でなくて) 芋の干物や(です)。きんこや(です)。昔や(は) 魚ばっか(ばかり) 干しおった(干して居た) けど、今しや きんこ 干すので、魚 干すな(のは) いらんけど(要りません)。餅や(とか) なんや 入れん(入れる) のは かけご。2) 蒸す時んなあ(ののは) じゅう じゅうの底へ 敷くのを 簀 餅、蒸す、じゅう あや(あれば) じゅうやなあ(です)。

せえろがん(しええろがん)【名詞】 正露丸 胃腸薬 せいろうがん 腹痛、下痢に使用する [会話] セエロガン、腹の下る時や(とか)、喰い過ぎたおりん(時に)、今しは(今は) だっぱ(ラッパ) の しゆるし なあ(しるしです) あれ 飲むと、ええんよお(よいのです)。喰い過ぎたおりん、あれ 飲むと ええん てわい(よいそうです)。喰い過ぎたよってん(から) 言うて 一つごつと(その度に)、医者い(へ)

行く訳ん(に) いかんしなあ(いかないので)、家で常備薬ん(に) 置いといて(ておいて)、ちょいと(少し) 胸な(が) やけんなあ(焼ける) おもた(思った) 時ん(に) 二つ三つつうつ(づつ) 飲むと、そんで(それで) 治ってくね(治って行くのです) 胸な(が) やけても。

せえろにくわれる 干した海藻などが簀にくっついて取れなくなる。

ぜえん(じえん)【名詞】 銭。ぜん参照 [会話] お金の事、ぜんや(です)。ぜに 言わんと(言わずに) ぜん、ゼエン 言うて。ゼエン稼ぎな(が) のおて(無くて) 言うて、ぜん稼ぎな(が) のおて しよん がつ(正月) も出来やせんわれ(出来ない) 言うてな、ゼエンな(が) 一銭も無いわれ(有りません) 言うてな。

せおこぜ(しえおこぜ)【名詞】 海魚 みのかさご おこじ おこぜ参照(志)

せおび【名詞】 背中合わせに背負う事、互いの背中をくっつけて負ぶ事 [会話] セオビは 背中と背中としてな 子ばな(を) あっちゃ(あちら) 向けて 盆になると よお(よく) 踊ってくるやんかい(来ます)。

せが(しえが)【名詞】 沖に有る島の沖側(志) [会話] 沖のことを セガ 言うのなあ(言います)。あの島のセガへ 行くとなれ(行けば) あじろ(秘密の漁場・自分の得意の場所) な(が) 有って言うわい(言います)。うちばらと言うと たか(陸) なし(です) し セガ言うとなあ 沖。あの島のセガな(が) おら な(自分の) あじろやれ(だ) 言うて よお(よく) 言うてや(言います)。内側の方は うちばらや(と) 言うし。

せかい(しえかい) (世界)【名詞】 1) 地域 あたり 1) 自分住んでいる地域 世間 2) 見聞 持っている知識 3) 交際の範囲(志) [会話] 1) セカイ 首ん(に) かけとんねよってん(ているのだから)、あやまあ(彼は) 言うてな。ちっさいから(小さい時から) セカイ 首ん(に) かけとんねよってんなあ 言うて、どこやかやい(あちらこちら) 方方い(へ) 幾らでも よお(よく) 働きん(に) 行く人をなあ、伊勢い(へ) 行き、津い 行き、熊野い いたり なあ(へ行ったり) 働きん(に) 方々へ行たり しよおった わい(行ったりして居ました)。そやもんで(それなので) セカイ 首ん(に) かけとんねよってんなあ (ているのだから) 言うて。セカイは狭いねよって(のだから) 言うて 自分住んどる(でいる) とこ

(所)を 言うんやろなあ (言うのでしょう) セカイ
ジュウ知らんもんな (者が) 有るかれ (無い) 言うて
なあ、よお言よおった (よく言っていました)。和具
中 言うのを セカイジュウ 知らんとこな (所が)
あるかれ あれん (彼に) 聞きゃ (聞けば) 判られ
(判る) 言うて。

せがい (清和井) 【名詞】 囲い 支え 水の流れや 土
砂崩れなどを防ぐためのもの。セガイ (堰之井) の義
(大言海) [会話] セガイ しとけ (しておけ) 言う
てな、つっぱり (支え) する事をなあ。波な (が) 来
たり、水な (が) 来たりすると、そやま (それ) セガイ
しとかな (しなければ) そや (それ) 波な (が)
寄せて来るとか、たあ (田) で 水な (が) 入れて来
るとか 言うのをな、なんか (何か) で かこうのを
なあ セガイ しとかな まあそや 言うて。蚊帳
吊って寝るとと (寝ていると) そや 蚊帳も セガイ
しとかな のら (お前達) 寝狂いして かあ 入れん
ど (入れるぞ) 言うてなあ、蚊帳の裾を きもん (着
物) で おそうねなあ (おそうのです)。寝狂いして
なあ 蚊帳の外い (へ) ころでたり (転んで行ったり)
足出してたり (ていったり) してなあ、かあ
(蚊) 入れるやんない (入れるでしょう)。そやもん
で (それで) 蚊帳い (へ) セガイ やったか (した
か) 言うて。抱え言うて ちよいと (少し) いごかん
(動かない) よおんなあ (ように) すんのを (するの
を) セガイや (だ) 言うて、セガイしとけよお (して
おきなさい) 言うて。そして 川裾も、セガイしたか
言うて。波な (が) えろおて (高くて) 波な (が) 入
れて来るよつて (から) セガイ したか言うて 土を
たあら (俵) い (へ) 入れてなあ 流れてかんよん
(て行かないように) 土俵言うてなあ それで セガイ
しよおったわい (して居ました)。抱えん (る)
のをなあ セガイしたか言うて どがかえ (土抱) も
一緒や (です)。

せかいくびんかけとる 方々へ行って居る 方々へ行く
世界を股にかける [会話] あやまあ ちっさい (小
さい時) から セカイクビンカケトンネよつてんなあ
(ているのだから) 言うて。どこやかやい (何処 此
処へ) 方々い (へ) 幾らでも よお (よく) 働きん
(に) 行く人を。

せがき (しえがき) (施餓鬼) 【名詞】 1) 餓鬼に飲食を
施す事 無縁仏に対する供養 (阿、北) 2) 海で死ん
だ人の死体のあがらない時にする供養 [会話] 2) セ
ガキの旗やなあ (だ) 言うて、海で死んでもなあ 死

骸 (死体) な (が) あがらんとなあ (見つからない
と) セガキするやんかい (します・するで有りませ
んか)。しんべどんの川の下でなあ よお (よく) セガ
キ しよおった (して居ました)。おっさん (和尚)
たのでなあ (頼んで) 供養して みんなな (皆が) せ
んこ (線香) 焚いてなあ。セガキする言うのは 海で
死んで、死体な (が) あがららったり (あがらなかつ
たり) すると、セガキ しよおった (して居まし
た)。葬式は葬式で すんねけどな (するのだが) 海
から死体な あがるよおに言うてな おっさん たの
で、供養 しよおったの (したのです)。

せかされる (しえかされる) 急がされる 仕事に追われ
る (態) [会話] はよしてくれえ (早くして下さい)、
あした (明日) まで こさえて (作って) くれえ (下
さい) とか、したてもん (仕立物) を もてくと (持
って行く) おおた ま、こや (此れは) あした い
んねよつて (要るのだから) あした迄 こさえて も
られるかい (もらえますか) 言うて、まあのお 言
うて、よなべかけてでも受けとると するやんない
(するでしょう)。そいな (そんな) のおなあ (の
を) セカサレル、いそがされんの (るのです)。医者
でも、住診に来てくれえ (下さい) 言うて、たった今
し (今) 来てくれな (くれなければ) まあ なんやら
(どうにか) してくわい (して行きます) 言うて、言
われんのを (るのを) 言うねわい (言うのです)。

せかす (しえかす) (急) 【他サ五】 1) 急がす (志 (浜
島)、鈴市、上、阿、北) 2) 催促する (南) [会話]
1) セカス。急がす言う事なあ (です)。はよ (早く)
これ 今日まで あした (明日) 迄 したてくれえ
(して下さい) とか言うてなあ。急がすのを セカス
言うてなあ。よけ (あまり) セカスと ろくな (充分
な) 事 しやせんど (しない) とか言うてなあ。

せかすな。せかすなまあ 急がせるな、せく参照

せかせか (しえかしえか) 【副詞】 動作、態度が忙しそ
うで落ちつきのないさま (志 (布施田)、阿、上) [会
話] セカセカして まあ言うて。なんか いそいそ
と落ちつかんと (つかずに) あれもして これもし
て、立ったり座ったり そんげん (そんなに) すん
(する) のを セカセカしてまあ 言うてなあ。いそ
いそとと言うて よお (よく) 言うわい (言います)。
あんな (彼が) セカセカしてのお (ねえ) 言うて、出
たり入ったりまあ セカセカと かしわして (忙しく
て) 落ち着きがない言う事なあ、かせわし言うのは。

せからし (しえからし) 【形容詞】 せき立てられるよう

で、気忙しい 忙しい (志 (浜島 布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥) [会話] せせかし (面倒だ・忙しい) 言うの (のを)、セカラシ言うの (言うのです)。こまかい (小さい) 事したり、ややくし (面倒な) 事するとなあ。めんどくさい (面倒臭い) のをなあ、クソセセカシ言うてなあ、めんどくさい事する時んなあ (に)。セカラシ 言うんも (言うのも) 一緒やわい (です)。意味は一緒やなあ (です)。せき立てられるような気持ちの事やね (です)。

せがれ (しえがれ) (倅) 【名詞】 1) 陰茎 (志 (布施田)) 2) 息子 (志 (甲賀)、鳥 (鳥羽、長岡)) [会話] 2) 小次郎かい、息子の事をセガレ言うのな (です)。おれげ (俺家) のセガレな (が) 言うて、おれげ (俺家) の あまな (が) 言うて。1) 男のもちもん (持ち物) も、セガレ言うなあ (言います)。セガレが夜中に立ったわや言うて そのセガレも有るし。

せがれた (しえがれた) 押された 押し出された [会話] 押されん (る) のなあ (のです)。セガレ たよ お (だった) 言うて。

せがれて (しえがれて) 追いつめられて 押されて 塞げられて (志) [会話] 押し付けられて、おおたまあの人な (が) 寄って来て セガレ テ、お と こ も (居る所も) ねえ ない (無いです) 言うてなあ せん で (押して) 来て言うて。

せかれる 急がされる

せがれる (しえがれる) 追いつめられる 押される 防げられる [会話] 押されて セガレ ル お と っ し ゃ (腹が立つ) 言うて。

せかんでも 急がなくても

せぎ (しえぎ) (塞) 【名詞】 川の水などを一時塞き止める所 堰き 防ぐもの せき (堰) の転か イセキ 堰 塞の転 [会話] 川のセギ、セギ せ な (しなければ) はざん わ (駄目だ) 言うて、止める事をな セギ し と か な (しておかなければ) 砂利 な (が) 押して来るとかな。なにかで 止める事を セギ や っ と け (しておけ) 言うてな。板かなん か で (何かで) セギ や っ と か な (しておけなければ)、じゃ れ (砂利) な (が) 押して来るとか、ご み く た (ごみ) な (が) 押して来るとか言うてな。竹で砂利受け組んでし と り お っ た (していました)。

せぎ 【名詞】 雪駄の一種

せきあげる (しえきあげる) 【自ガ下一】 1) 忙しくする 急上 (志 (布施田)) 2) 咳をして後に嘔吐する

咳上 3) こみあげる 急上

せきいし (しえぎいし) 【名詞】 石塔 石碑 (熊) [会話] 墓の石、石塔石。今 し (今) の石碑 セキ イ シ の事 石塔石

せききった (しえききった) 激しく咳をした 長時間咳をしていた [会話] 咳 な (が) よ け (沢山) 出て、よ ん べ ゃ (昨夜は) 咳まくって、せ い て (咳して) せ い て (咳して) セキ キ ッ タ ヨ オ 言うて。

せききった (しえききった) 非常に急いだ

せききってく (しえききってく) 咳を激しくする

せききってく (しえききってく) 急いで行く

せきこむ (しえきこむ) (急込) 【自マ五】 1) 急ぐ 慌てる せ っ こ む 参照 2) 咳を激しくする

せきしよ (しえきしよ) 【名詞】 晩酌 [会話] 関所、関所は箱根山、言うてなあ 関所、越さな (なければ) 行 か れ ら っ て (行けなくて)、一杯やるのも オ セキ シ ョ よ さ り (夜) の、セキ シ ョ 大事のも ん や (物です)。

せきする (しえきする) 1) せきとめる 防害する 2) 咳をする

せきせえ (しえきしええ) 1) 咳をしなさい 2) せきとめなさい

せぎせえ (しえぎしええ) 支えを当てなさい

せきせき 【名詞】 よく咳をする人 いつも咳をしている人 [会話] よ け (沢山) 咳する人を。セキ セキ 言うのは よ け (沢山) 咳 ば っ か (ばかり) せ い と ど な あ (咳していると)。

せぎせぎ 支え 支柱をする事

せきせく (しえきしえく) 咳をする (一、飯、北) [会話] セキ セク。風 邪 引 い た や (ら) 咳 な (が) 出て まあ 言うて、セキ セ イ テ 医者い (に) 見てもらわな (なければ) は ざ ん わ れ (駄目です) 言うて。

せきだ (しえきだ) (席駄) 【名詞】 竹の皮の草履の裏に獣の皮をはりつけた履き物 雪駄 せ っ た (志 (片田、甲賀、国府、安乗) 鳥 (鳥羽、坂手)、伊、員、三、鈴郡、鈴市、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、北) [会話] セキ ダ 言うと と お ば の 側 で み ご で 編 ん だ の お で (ので) それへ 皮 を 下 い (に) してなあ 裏 へ、と も (跟) の と こ (所) へ、か ね (金属) の も ん な (ものが) つ い と ん の お な あ (付いています)。セキ ダ の音で ち や ら ち や ら と 言 う や ん な い (言うでしょう)。足 の と も へ こ の 位 (1~2cm × 1cm) の か ね の も ん (物) を 付 け ん ね て や (付け

るのです)。他は 皮でつけてなあ。上は みごで 編んだ表で、足のとも だけ かねが付けてあんね (有るのです)。そすと (そうすると) 歩くと ちゃらちゃら言うて。‘芸者の親切あ (は) せったの裏の金 金のある時や (は) ねえ ちゃらちゃらと 金が無くなりや 切れたがる’ よお (よく) 唄いおった (唄って居ました)。みご言うな (のは) 藁の先になあ ひご 言うて 有るわな (有ります)。一番ほお (穂) なんのに (なるのに) 節な (が) あってなあ これを くくと (しごと) 節な (が) もじけて (もげて・取れる) 来んのな (来るのが) あるわい (有ります)。そすと (そうすると) それ とつといて (取っておい) それを 揃えとくとなあ (ておくと) それを くざけといて (水に浸して) 打つ (打ちます)。それで 草履作ってなあ セキダの表にすると じっぱ (立派) なんてや (なのです)、それを 表ん (に) して、かあ (皮) 裏へ当てて とも へ かね 付けんのなあ (付けます)。昔のセキダ。今し (今の) の おっさん (和尚さん) の履いとる (履いている) あんげなのおや (あんなのです)。あんげん (あんなに) ひらくたないし (平らではない・幅が広くない)。その裏へ かね 付けんの (付けるのです)。そんな (それが) 歩くとなあ 引きずると ちゃらちゃら言うて なんねてや (鳴るのです)。あれも伊達こきのうちやのお (です)。そやけど (それだけど) とも は じっきん (すぐに) うちやれてく (壊れて行きます)。破れてくもんで (いくので) いたんでかん よおに (破損しないように) しいおったんかいのお (したのでしょうか)。

せきだい (しえきだい) (席代) 【名詞】 座敷会場を借りる代金 席料 [会話] セキダイな (が) 要るやんか (要ります)。芝居みいん いたりなあ (見に行ったり)、するとな、場代 言う時も有るけどな (有ります)。そこ席い (へ) 座る料金、場代 言ううね (言うのです)。どてん (露天) 店する よんなるとなあ (ようになると) 皆 場代な (が) 幾ら 言うて いんねなあ (要るのです) 祭りん (に) なって。

せきたくる (しえきたくる) 【自ラ五】 1) 大変忙しくする 大変急ぐ 急がせる (上、阿) 2) 盛んに咳をする [会話] 1) はよ (早く)、してくれまあえ (して下さい) 言うのなあ (です)。セキタクラレテ 言うて 言う時も有るし、せかれて 言う時も有るし なあ。せめたくられて言うね (言うのです)。はよ (早く) してくれ 言うて、せめたてられて 言う時も有るし なあ。

あ。金 貸しとても (ていても) おこせ (返せ)、おこせ、言うて せめのせったくん (に) おおて (逢って) 言うて。セキタクルは 急がす (の) (です)。まはよ (早く) してくれ よさり (夜) いんね (要るのだ) とか、あした (明日) いんね よってん (のだから) 言うてな、たつた今し (今) おこせ 言う様な意味やわい (です)。ぜん (銭) おこせ 言う時や (は) おれぎや (俺家は)、金な (が) いんねよって たつた今し こさえて (作って) くれえ (下さい) 言うて、きつう (きつく) 言う時や (です)。²⁾ 咳 よ けする時も、咳な よ け出て よんべや せきま くつて、咳 せいて、せいて、せき き つ た よ お 言うたり なあ。セキタクッタレ 言うて セキタクル 言うて、た く る 言 う な (のは) もの す ご い (大変) よ け (沢山) する 言 う 事 や (です)。

せぎだされた (しえぎだされた) 1) 押し出された 2) 仲間外れにされた [会話] 1) 此の部屋 せぼお て (狭くて) おられやせん なあ (居られない) 言うて、セギダシテ (押し出して) 出したる (てやる) 人も有るし なあ セギダサレタ 言うて。

せぎだす (しえきだす) 1) 押し出す 2) 仲間はずれにする 3) 捻出す [会話] 1) セギダサレテ、ま あ 言うて、こん して (こんなに) して 話、し と て も (していても) いや な 人 は セギダス よん (ように) 言うてな、その 人 な (が) 嫌 がる 様 な 事 言 う て す ん の を (するのを) おり づ ら い (居るのがつらい) 様 な 事 を 言 う たり、し たり す ん の を な、そ い な (そんな) の お を (のを) セギダス 言うのも有るし なあ。部屋 な (が) せ ば い (狭い) の お で (ので)、お お た 此 の 部 屋、せ ぼ お て (狭くて) お ら れ や せん なあ (居られない) 言うて、セギダシテ 出したる (てやる) 人も有るし なあ せ ぎ だ さ れ た 言うて。

せきたてる (しえきたてる) (急立) 【他夕下一】 急がす 催促する たてるは強調の語

せきたんあぶら (しえきたんあぶら) 【名詞】 石油 (志)

せきたんばこ (しえきたんばこ) 【名詞】 石炭箱 石炭を入れておく箱 一斗カンが2ケ入る (鈴市) [会話] セキタンバコ、一杯詰めて言うて、き (木) の 箱 な (です)。石油 の 一 斗 缶 な (が) 二 つ 入 る よ お な、セキタンバコ や (だ) 言うて、それ も ろ て (もらって) 来 て、櫃 ん (に) こ し や え たり (作ったり) し よ お つ た ね (して居たのです)。

せきといし (しえきといし) 【名詞】 石碑 せ き と お い

し参照(鳥)

せきとお(しえきとお、せきたふ)(石塔)【名詞】 石塔
墓石(鈴市、伊、南)

せきとおいし(しえきとおいし、せきたふいし)(石塔石)【名詞】 1) 墓石、せきいし参照 2) 列の後ろにいる人 [会話] 1) 墓の石 セキトオイシ 石碑 せきいしの事なあ。昔や(は)セキトオイシや(だ) 言いおってのお(言っていました)。後へひざつとると(退いている)古いセキトオイシな(が)後へひざつとられ(退いている)言うな(言います)。石碑な(が) 新しのな(新しいのが)いくつも出来て来ると、古いセキトオイシはあとへ やられる(移される) もんでなあ(の)で。2) にげ(人・人間)でも 並んどると(並んでいる)後へすつこんどると(でいる)古いセキトオイシで へっこんどられ(へこんでいる)。

せきどめ(しえきどめ)(咳止)【名詞】 咳を止める薬 [会話] 白南天 セキドメ。白南天のもも(実)を煎じて飲むとなあ、なおんね(治るのです)咳な(が) でんの(出るのが)。そやけど(しかし)それ煎じて飲む程は、なつとらせんねてや(なっていないのです)。黒豆と、金柑と、こおりざと(氷砂糖)と煎じて飲んだりな、咳を止める薬、セキドメクスリなあ。

せきなでる(しえきなでる) 咳が出る 咳をする [会話] セキナデテ はざんわい(駄目です)。どやまくれて(多く) くんね(来るのです) ひとくらあつなあ(一度づつ)。

せきのやま(しえきのやま)(関山)【名詞】 精一杯 それ以上出来ないと言う限度 [会話] まあ こな(これが)セキノヤマ やなあ(だ)言うて、なんか むつかし(難しい)事するとなあ むつかし事 よおせん(出来ない) おもとんのを(思っているのを) いっしょよめん(一生懸命に)する 時ん(に)、まあ こんで(これで) セキノヤマやれ(だ)此れ以上出来やへんわれ(出来ません) 言うなあ(言います)。病気でも、峠ん(に)なると、こな(これが)セキノヤマやなあ(だ)言う時も 有るけどなあ(有ります)、この峠越すと ええんけど(よいのだが) こな(これが)セキノヤマで 此の峠よ 越さん(越せない)と はざんわい(駄目だ)言うてな。

せきひ(しえきひ)(石碑)【名詞】 墓石 石塔

せきひきる 新しい石碑(墓石)を作る 墓を建てる [会話] セキヒでも 新しの(新しいのを)キルと

和尚 頼んで 精入れて貰うやんない(でしょう)。

せきまくる(しえきまくる) 盛んに咳をする

せきまくる 急ぐ(上、阿) [会話] 咳 セキマクル言うて 咳 セキマクル言うたり、仕事をだ せえ(しなさい) せえ言うて セキマクル 言うてな 急ぐ。

せぎやい(しえぎやい)【名詞】 1) 塞ぎ合い 2) せめぎあい 互いに他を押し退けようとする事 せぎあいの詠(志(鶴方、甲賀、国府、安乘)) [会話] 2) よけ(あまり) せんで(塞いで・寄って) くんなまあ(来るな)言うて、人の おるとこ(居所)押し割ってて(ていって) せんどいて(でおいで) 入ってくのを(ていくのを)セギヤイか セギヤイか 言うて、みおと(夫婦) ふたんな(二人が) ひつついて寝やんと(寝ずに)後ろ向いて 寝とると(寝ている)と)。

せきゆ。せきゆあぶら【名詞】 石油(三、鈴市) [会話] 油なあ(です)。昔や(は) 菜種油も しおったけどなあ(しましたが)。今しや(今は) 灯油はセキユだけで。

せきゆや(しえきゆや)【名詞】 石油屋 油類を売る店 [会話] セキユヤ 今し(今)の、出光やたら(だとか) ガソリンスタンド セキユヤ。昔や(は) あぶら屋言うて 新太屋の方ん(に) うつとて(売っていて)、石油 だんぷ(ランプ) い(に) さすのん(入れるのに) がんがん(缶) さげて 買い き おった(買いにきました)。五位合、こおて(買って)来て だんぷ(ランプ) い(に) さいて(入れて)

せく(しえく)(急)【自力五】 急ぐ 早くしようとあせる あせっていらいらする(志(浜島)、桑市、員、鈴市、張、北、尾、南) [会話] 急ぐ事なあ(です) セク言うて。咳せくのも セク 言うなあ。急がすの おを(のを) せかす 言うて、早よ(早く) せえ(しろ) そら(それ) せえ 言うて、早よ せな(しなれば) おそなんねない(遅くなるのだ) 言うやんない(言うでしょう) そいな(そんな) 時んなあ(に) セカス言うて。

せく(しえく)(咳)【自力五】 咳をする声をセク(塞) 義(大言海)(員、鈴市、亀、安、一、飯、上、阿、張、名、南)

せぐ(しえぐ)【他力五】 1) 押し込む 座席が狭く、他の人を押し込むようにして間を空ける(志(浜島、布施田、立神、安乘)) 2) 流れを止める(志(立神、安乘)) [会話] 1) よけ(あまり) せんで くんなまあ(来るな)言うて、人の おる(居る) とこ(所)

押し割って(て行って) せんどいて (ておいて) 入ってく (いく) 言うて、押し割って(ておいて) 入ってくのなあ (行くのを)。せぎやいか (せぎあい) せぎやいか 言うて みおと (夫婦が) 寝とて (寝ていても) 結婚式しても 嫌で 結婚した ふたん (二人が) ひつついて 寝やんと (寝ずに) 後ろ向いて センドル (でいる) てやら (とか) 言うた やんかい (言うて居たでは有りませんか)。せぎやしとんね (して居るのだ) 言うてなあ。嫌な人のとこ (所) へ行くとお せぎやしして ふたん せぎ やいか せぎやいか しとる (している) 言うて。今 し (今) の 子ら (は) そいな (そんな) 事 無いけどなあ 嫌なも な (ものは) 嫌なし (です) はっきり言うけど、昔 それ よお (よく) 言わんも んで (言えないので) いや (否) でも おお (応) でも まあ そげん (そんなに) しとる (している)。2) 川やなんかの 流れを止める。ここへ 入って来んよ おに (来ないように) 言うてなあ。たあ (田) 植える時に みなくち (水の取り入れ口) 止めん (止める) のを 言うてなあ。川の水も センドケ (でおけ)、そや (それ) 家の田へ 水引くよおん (ように) 言うて、藁を 束ね (ておいて) そして 石や って (重しをして) セグ ね。板やったり (置いたり) 石や ったり してなあ セギオッタ (せきました) わが (自分の) たあ (田) へ 水引こ (引こう) 言うて。

せぐりあげる (しえぐりあげる) 【自ガ下】 こみあげる 嘔吐する

せぐる 【他ラ五】 1) 寄せる 移動させる 2) 胸につかえる 吐き気がする 嘔吐する (津、張、名) [会話] 2) セグッテキテ言うて、吐くのも セグル言うて、胸な (が) でんぐり (ひっくり) 返って来て、腹から セグッテキテ言う時な (が) 有るやんかい (有ります)。1) そして、なんやかやを (いろいろ) くり返えん (る) のを セグル 言うんな (言うのです)。こっちやい (こちらへ) セグッた れ まあ (てやれ) 言うて 寄せたれ (てやれ) 言うのをなあ 角 な (が) 有るととこ (所に) 引掛ったり しとる (している) 時でも こっちやい セグラ ナ (なければ) はざん われ (駄目だ) 言うてな こっちやい セグッた れ まあ 言うて 寄せえ (寄せなさい) 言うのをな。

せぐる (しえぐる) 【名詞】 鮑の一種 めたか参照 (志島、国府、安乗) 鳥 [会話] 鮑、セグロ、めたかい、のみ 打ち立てて言うて、めたかも、セグロも 一緒や わい (です)。めたかの事をなあ、セグロな

(が) おって (居て) 言うん よって (言うのだから)。めたか 言うて、めえ (目・呼吸孔) な (が) たつか いやん かい、あや (高いのです、あれは)。普通の貝は、おの こと、めおび と 言うの なあ (です)。おん (雄) と、めん (雌) や (です)。おの こ 言うの な (が) 男 で みい (身) な (が) ぼん とし とて (して) て かつ とお て (硬くて) くろ ろ お て (黒くて)、くろ (黒) 言う ね (言うのです)。くろ お お び くろ は ねえ (値) な (が) ええ ん やん かい (よいのです)。めお び は、やい こ い よ つ て ん (柔らかいから) あ ん で (あれで) お な ご (女) や ろ ん (でしょう)。めた か と めお び は また 違 う やん かい (違います)。い ご い と ん の (動いているの) でも、違 う やん かい。めたかは、あ お ぬ け て (あおむけて) 見ると、その み い (身) な (が) 違 う の (のです)。

せけん (しえけん) (世間) 【名詞】 世の中の状態 周りの状態 [会話] セケン言うて、世の中の事なあ (です)。セケン の 事 な (が) 判 らん 言う やん かい (言います)。世 の中 の 事 知 らん (知らない) 事。ど つ こ い も (どこにも) い た (行った) 事 あ ん ね な し (無いので) セケン シ ラ ズ や (だ) よ つ て ん あ (から) 言うてな、人の氣にあ た る (さわる) よ お な 事 も 幾らでも よ お (よく) 言うて、そ い な (そんな) 人 言うのを セケン シ ラ ズ や (だ) 言うてなあ。自分の周りの事も言うし、世 界 (世の中) 一般の事でもなあ セケン 言うてなあ。なん も (何も) 知 らん (知らない) 人を セケン な (が) せ ば い (狭い) 言うし、物を知 らん (知らない) のを あ や (彼は) セケン な (が) せ ぼ お て (狭くて) 言うて。人につきあいし の く い (しにくい) に げ (人間・人) を セケン シ ラ ズ や (だ) 言うて、セケン へ 出 た 事 な (が) の お て (無くて) 社 会 の 事 な (が) 判 らん (判らん) 言う事や ろ な あ (でしょう)。社 会 へ 出 る も な (者は) いろいろとまあ 世 の中 の 事 聞いてするけどなあ、家から外へ、あ ま だ れ (庇) 三寸出たこ た (事が) 無 い に げ や (人は)、あんまり か た く ろ し (堅苦しい) 事 言うとなあ セケン シ ラ ズ や 言う な あ (言います)。ひ ら け ん (開けない) お お ま か な (大様・度量の大きいこと) と こ (所) な (が) 無 い に げ (人) を セケン シ ラ ズ 言うてなあ。セケン シ ラ ズ と、セケン な (が) せ ば い (狭い) 言うのと一緒の事や (です)。セケン シ ラ ズ の も な (者は) セケン な (が) せ ぼ お て (狭くて)。出 た 事 な (が) 無 い も ん で (ので) いろいろな話も 聞 か せん も ん で (聞かないので) そ ん で

(それで) おおよおな とこ (所) が 無いのなあ (無いのです)、そいな (そんな) にげ (人) は。言うて見ると セケンの常識が無い、そいな (そんな) 事やなあ (です)。おおよおな (だ) 言うな (言うのは) 開けた にげ (人) を おおよおな (だ) 言うてなあ あんまし (あんまり) 細かい事を 気にせんと (せず)に がいに (大して) 気にせん (しない) にげ (人) を あや (彼は) おおよおでなあ言うて よお (よく) 言うやんかい (言います)。

せけんがせばい (しえけんがしえばい) 世の中の事を知らない 常識が無い 肩身が狭い (南) [会話] セケン セボオテ (狭くて) 言うて、じっきん (すぐに) 怒ったりすると、あや (彼は) まあ セケン セボオテ 世間知らんねよってん (のだから)、ちよいとした (少しの) 事も気にしたり、ごおわかしたり (腹立てたり) すると、セケンせばい。世の中の事 知らん言うんか 常識な (が) 無い、そして がいに (あまり) 物ん (に) 構わんよおなににげ (人間) を、あや (彼は) 応場で ええ (よい) にげやなあ (人間だ) 言うし、せけん知らずは じっきん (すぐに) 怒って来て、細かい事言うて すんの (するのです)。せけんしらずも、セケンナセバイも セケンガセバイも一緒の事やけどな。

せけんざわし (しえけんざわし) 【名詞】 周意の人にはよいが、家の中で意地悪する人 [会話] 家で渋柿セケンデサワシ セケンザワシな (が) 食らわりよかい (食べられようか) 言うて 家でなつとも (何とも) しょおなないの (しかたがないのを)。

せけんしらず (しえけんしらず) (世間不知) 【名詞】 世の状況を知らない 常識がない 経験が少なくして世間の事情や世渡りの道にうとい事 せけん参照

せけんせばい、**せけんなせばい** (しえけんなしえばい) 交際範囲が狭い 見聞が少ない せけん参照 (志 (布施田))

せけんなみ (しえけんなみ) 【名詞】 普通、一般と同じ

せけんのくち 【名詞】 噂 せけんのくちんかかる。せけんのくちんる 噂になる

せこ (しえこ) (世古) 【名詞】 横道 小路 サコ (狭) と関係有るか。他国にて小路 (コウジ) 亦是辻子 (ズシ) と言うなるところを神領ばかりにて世古と言うは何ぞや。答 是不図云ひたる俗諺の方言なり。凡て武家等の狩猟の時に賤卒に獣を追い出させ、或は遮り溜むるなり。その卒伍の勢を勢子と言う。此の勢子と言う者猟に臨みて谷陝 (タニアイ) 亦是木陰等の

大路ならざる所に伏置きて駆使する者なり。故に宇治山田の樹木の間などに人家ありて、町屋の比 (ナラ) ばざる時、横路などの隘き所は猟の時に勢子を伏せ置べき体の所なる故に背径などと云たるが世古と書きて今繁盛の町篠 (スジ) に為ても称し来るものなり。

(倭訓栞) 伊勢山田には小路をいへり。迫子 (セコ) なるへし。山田にて、横町を世古と言う。今も大世古、堤世古と言う名目あり・伊勢山田には小路をセコといへり。迫子なるべし。ズシ 辻子 途子 図子 中世近世の都市において、大路と大路を連絡する小路という都市において、十字の街頭を言う、辻のこと。近世都市において人家の密集する一面を言う 町のこと (志 (神明、浜島、布施田、鶴方、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、津、安、松、多、度、伊、熊) [会話] セコ言うて、入ってく (いく) 小道、裏道の事をなあ。セコミチ通って来た 言うてなあ (言います)。家の裏の方でも 家のそや (それ) セコの方に 置いてあるやんかあ (有るで無いか) 言うやんかい (言います)。ほっそおいとこ (細い所)、裏道の方をなあ セコミチ 言うて、人な (が) よけ (沢山) 通らん (通らない) 方を セコミチ。せばいし (狭いし)。

せこい (しえこい) 【形容詞】 ずるい (鈴市、津、安) [会話] すこい (狡い) 言うけど (言います)、セコイ言うのも あのひた (人は) どいらい (大変) セコイ人やなあ 言うて、すべがしこい (狡る賢しこい) よおな のおを (のを) すこよも (狡い人) やなあ 言うて、すべっこい (狡い) 事すると 人 誤魔かすの 上手な、すこおてなあ (狡くて) 言うて、人を まじくなくして (誤魔化して) 誤魔化すん (に) 上手なと (だど)、あや (彼は) まあ すこおて すべがしこおて (狡る賢しこくて) 言うのなあ (です)。

せこがこ 【名詞】 稲につく害虫 蝨虫 ぜいがこ 参照

せこぎり (しえこぎり) 【名詞】 小魚 (むろ鱈、いさぎ等) を輪切りにした物 ぜにぎり (志 (布施田、志島、甲賀)) [会話] セコギリ、たかべやどけを (など)、セコギリん (ん) して、鱈は、かあ (皮) 剥いて丸嗜みん (に) するけど (が)、たかべやどけ (など) かあ (皮) な (が) かったいもんで (堅いので) セコギリん (に) せななあ (しななければ)、食いついても かあ (皮) な (が) 引っ張つとて (ていて) 切れやせんもんなあ (ないのです)。鯛や鱈は、ぷつぷつと はあ (歯) で千切れるけど、たかべのかあ (皮) は、なかなか食いぎられやせん (切れません)。切り口入

れて すんのは、きりづけ じよおほおから (両方から) 切り目入れん (る) のを、たかべのきりづけ言うて。あれして 塩しといて食うと、塩な (が) 加減よお (よく) すると、ええねてや (よいのです)。セコギリ言うのは、ぷつぷつと丸切りん (に) すんの (するのです)。たかべやとか 鯖や (だ) とか 言うの、セコギリんしといて (しておいて)、鯖は まるっぱ (丸のまま) ぷつぷつ 切っといて (ておいて) 炊いて 喰うし、たかべは 酢味噌で食うのんなあ (に) セコギリ 言うのは ぷつぷつと まるくとお (丸く) 切ったんの (切つてやるのです)。ぜにぎり 言うのも セコギリも一緒やわい (です)。ぷつぷつと 切んね (切るのです)。

せごし (しえごし) (背越) 【名詞】 小さな魚を頭、内蔵を取り、中骨を残して、身を小刻にし、塩をしたもの せごしなます (北、尾)

せごず (しえごず) 【他サ五】 移動させる 隠して移す (志 (布施田)) [会話] 引っ越しする事を セゴス 言うなあ (言います)。なんやかや (何もかも) 皆 セゴシ してて (していって)、隠居してたや (していったら) 本家のもん (物) 皆 セゴシ してた (していった) 言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います)。親な (が) 弟の方な (が) かわいいもんで (可愛いので) 本家のもん (物) 皆 セゴシ してた (していった)。わり (悪い) 言葉やなあ (です) セゴス 言うのは、内緒で持てくんよって (持っていくのだから) 兄貴に隠してなあ 弟な (が) かわいいもんで 弟の家へ 皆 セゴシてた 言うて。

せこつく (しえこつく) 【自力五】 落ち着きが無くこせこせしている あくせくする [会話] 落ちつきな (が) のおて (無くて)、こそこそしとる (している)。こしょこしょ すると、こしょついて言うけどなあ (言います)。なんやかや (いろいろ) こごこごと セコツイテ いやらし (嫌な) 人やなあ (だ)、言う時も有るけど (有ります)。人のもん (物) を あっちゃ (あちら) なぶり (さわり)、こっちゃ (こちら) なぶり すんのを (するのを) こごこごと、セコツイテ好かん (嫌な) 人やなあ (だ) 言う時も有るなあ。

せこにたける (しえこにたける) (世故) ずるい 世慣れている [会話] セコニタケルかい (ですか)。すれっこい (狭い) 事 言わせんかい (言いませんか)。すれっこい事を すこい言うけどなあ (言いますが)。すれっこいなあ (です) 言うて。

せこみち (しえこみち) (世古道) 【名詞】 1) 細い道 (志、伊) 2) 背中 of 真ん中へこんでいる所 [会話] 2) 背中 of 背筋 セコミチ 汗をよお (よく) かくやんない (でしょう)

セコント 【名詞】 懐中時計 英 Second から せこんどと濁る所が多い (上、阿、張、南、熊) [会話] 時計 ここ (懐) から出してくんの (来るの) セコント 言うて、帯い (へ) さがらかしとりおたやんかい (吊してました)。セコント さげて あやあれ (あれ) 言うてなあ。そいな (そんな) 人 はいからやったんてや (でした)。はいからで セコント して言うて、縮緬の へこ帯して ここへ 鎖さがらしてなあ。一つ巻いて べつんも (特別) 伊達みたいに して しとたわい (してました)。セコントやなしに (でなくて) 臍んと下げて あやあれ言うて。

せざった (しえらった) しなかつた (志 (浜島、布施田)、鳥、度) [会話] しなかつた 言うのを セザツタ。なんも (なんにも) セザツタ 言うてなあ。あそんどて (遊んでいて) 今日はなんも セザツタナア、喋ってばっか (ばかり) おって (いて) 言うてなあ。子供らが 怒られると おら (私は) セザツタ 言うて、しょんべ (小便) たれたらざった (しなかつた)、寝しょんべ (小便) したらざった (しなかつた) とか、しょんべ セザツタ とか 起きて 来ると、おら (俺は) しょんべ セザツタ 言うてきいおたた (来ました)。

せざったなあ。せざったのお (しえらったのお) しなかつた。しませんでした。[会話] 此れ セザツタナア、こげん (こんなに) して しとかな (しておかなければ) はざん (いけない) のん (のに) 此れ セダツタナア 言う時に使う言葉や (です)。此を こげん して (こんなに) して しとけよお (しておきなさい) 言うて 言うてあんのん (有るのに)、セダツタナア 言うて、しとらんと (していないと) さいご (その時) セダツタナア 言うて、してなかつた セザツタナア。すんの (するのを) 忘れた時に せだったよお、まあ 忘れて言うてな。わがと (自分) セダツタ 時は 忘れたて (てしまつて) セダツタんよお 言うて、しませんでした。せえ (しなさい) 言うたねやったのん (のだったのに) 忘れたて ま セダツタよお

せざったよお (しえらったよお) しませんでした せざったなあ 参照

せざったれ。せざったわい (しえらったわい)。 せざったれな (女性語)。せざったわれ しませんでした

せざったんなあ (しえらったんなあ) しなかったのです
ね せざったんなあ参照

せざったんよお しませんでした

せざって (しえざって、しえらって) しなかって [会
話] しやざって (しなかって) 言うのを、セザッテ、
しなかつた言う事を

せしめる (しえしめる) 【他マ下一】 うまく立ち回って
自分の物にする。まんまと手に入れる 盗む (志 (布
施田)) [会話] まあ あれ セシメル 言うてなあ。
人のもん (物) を なつとも (何とも) 言わんとなあ
(言わずに) 持て (持って) 来ると、まあ あや (彼
は) セシメテキタかして (と見えて) あやあれ言うて。
盗んで来るとなあ。極端に言う と 盗んで来る言う事
やけど (だが)、そやけど (それだが) あやまあ セ
シメテタレ (行った) まあ言うて ぬすでた (盗んで
いった) 言わんと (言わずに) セシメテタレ 言う。

せしゅ (しえしゅ) (施主) 【名詞】 せいしゅ 1) 葬儀
を主人役として行う者 2) 物事を行う人 特に建築
主 3) 家の主人 (張) 4) 初盆会の男女の最年長の
者がせしゅ (施主) が当たり、盆の行事を進行させる
役を務める [会話] 4) セエシユ言うのは、初盆のお
り (時) ん (に) 一番年長の人な (が)、男とおなご
と (女) セエシユや (と) 言うてなあ 世話役やなあ
(です)、皆の。2) セエシユな (が) 大将ん (に) な
って、あんげん (あんなに) しよおや (しましやう)
こんげん (こんなに) しよおや 言うて、決めた事を
皆 あんで (あれで) すんの (するのを) セエシユや
(だ) 言うてなあ。1) 葬式の時 セシユ (と) 言
うねんなあ (言うのです) 喪主。今しや (今は) 葬儀
部長や (と) 言うねんなあ。昔は セエシユ (が)
言うて、中心の人を 言うんなあ (言うのです)。あ
の人な (が) セエシユや (だ) 言うな (のは) 死んで
くと (いくと)。3) 家の主 (主人) は セシユ 言
うやんかい (言います)。

せすい (しえすい) 【形容詞】 ずるい ずる賢い (伊)
[会話] なんでも わがと (自分) よけ (多く) した
り、さいめん (境界) せせったり (つついたり) しと
んねやわい (しているのです)。わり (悪い) のやっ
て、わがと (自分) ええ (よい) の したり、おっき
い (大きい) のしたり 物 分ける時ん (に) するや
んない (でしょう)。あや (彼は) セスイねよってん
(のだから) 言うて、セスヨモ やよってん (だか
ら) 言うて。

せすじ (しえすじ、せすぢ) (背筋) 【名詞】 1) 背中の

中心に有るくぼんだ線 中心線 2) 衣服の背中の中
心に有る縦にのびた縫目 [会話] 1) 土性骨やてやら
(だとか) 背骨やてら セスジやてら。

せすよも (しえすよも) 【名詞】 ずるい人 せすい参照
[会話] すこい (狡い) のおを (のを) セスヨモや
(だ) 言うてな。人のめえ (目) くらまして (誤魔化
して)、あや (彼は) セスヨモ やよって (だから)。
なんやかや (いろいろ) こそうり (内緒売り) ん
(に) 行くと、あの家や (は) セスヨモで めえ
(目) くらまして 百め (匆) 有っても こや (これ
は) 五十め (匆) しか (より) 無いわれ (です) 言う
てな、めえ (目) くらます (のをな、あの家や (は)
セスヨモやよってなれ (だから) のらな (お前達が)
いても (行っても) めえ (目) くらまされんど (誤魔
化されるぞ) 言うて、よお (よく) 言うわい (言いま
す)

ぜぜ (じえじえ) 舌がもつれ、発音のはっきりしない
人。あぜこぜ

ぜぜ (じえじえ) 【名詞】 銭 ゼニ (銭) を略して重ね
た語 (大言海) (志、鳥、員、津、一、上、阿、張、
名)

せせかう (しえしえかう、せせかふ) 【自ハ五】 苛める
苛めからかう (松、北)

せせかし (しえしえかし) 【形容詞】 面倒臭い、もどか
しい、うるさいほど煩わしい、細かい、忙しい (志
 (片田、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国
府、安乗)) [会話] セセカシ言うて こまかし
(細々) した事を、ややくし (面倒だ) 言う事やんか
い (です)。こまかしすん (する) のを セセカシよ
お (です) 言うてなあ、ややくし 言う事を セセカシ
言うのなあ。ああ セセカシよお 言うて。

せせくる (しえしえくる) 【他ラ五】 1) ほじくる 隠
したものをほじり出す 2) 触る (志 (鶴方、神明、
立神) 3) 蚤などが刺す [会話] 2) なぶる (さわ
る) 事を セセクル 言うけどな (言いますが)。よ
け (あまり) せせんなまあ言うて、ひい (火) 焚いて
も、ひい ぼつか (ばかり) なぶつとると (さわって
いると) よけ (あまり) ひい セセンなマ (るな)
けぶたい (けむい) のん (のに) 言うて、ひい (火)
せせり ちんぼ (陰茎) せせり言う もんやれ (もの
だ) 言うて。ひい (火) 焚いても (ていても) 火箸
離さんと (さずに) ひい を なぶつとる (さわって
いる) にげ (人間) な (が) あんねてや (有るので
す)。ひい 当たつても (ていても) おおた、よけ

(あまり) ひい セセンナマア 言う時な (が) 有る
わい (有ります) そしてまあ ひい (火) せせり ち
んぼ せせり言うとして、とと (夫) な (が) ちんぼ
ばっか (ばかり) せせつとんねやんない (ているのだ

ろう) 言うてな、セセクル なんやかや (いろいろ)
なぶる (さわる) 事を セセル言うて、よけ (あま

り) セセンナマア 言うて、なぶると (さわると) さ
いご (その時) 子供らな (が) 大人のもの (物) なん
やかや (いろいろ) なぶると よけ (あまり) そいな
もん (そんな物) セセンナマア 言うて わるう (叱

る) やんか (ます)
ぜぜくる (じえじえくる) 【自ラ五】 発音が明瞭でない。
あぜる。あぜこぜ (伊)

せせこまし (しえしえこまし) 【形容詞】 1) 面倒臭い
うるさいほど細かい (志 (鶴方、神明、立神、志島、

甲賀)) 2) 狭苦しい 狭い (志 (布施田)) [会話]
2) セセコマシ言うのは、ちっそおて (小さくて) ほっ
そい (細い) よおなとこ (所) 入ってく (行くの)
セマクロシ (狭苦しい) 言う事か (ですか)。セマ

クロシ 言うな (言うのは) 言うけど、こまかし (細

えれば) メメズナ デテクル言うて、例え話に 言う
やんかい (言います)。せせなげは汚いもんで (の

で) みみずな 出て来んねやろなあ (出て来るのでし

ょう)。底の方な (を) でんぐり返すと (ひっくり返

す) なんな (何が) 出で来るやら (か) 判らせん (判

て(思つて)彼女な(が) あんねてわい(有るのだそう
うだ)あのひたあ(人は) あんげん しておつて(し
ていて)だんまりべ(屁)は臭い 言うて、おなごな
(女が) あんねてわい(有るのだそうだ)。そいな
(そんなのを)セセラワライ言うてなあ 陰で笑うの
を。

せせり(しえしえり)【名詞】いじる。さわる。又はそ
の人。せせる参照

せせりさがす(ししえしえりしゃがす) あちらこちら
探し廻る せせるに同じ さがすは行く 盛んに行く
の義 [会話] よけ(あまり) せせんなまあ言うて、
なぶる(さわる)事を なんやかや(いろいろ) よけ
(沢山)いろいろと よけ せせんなまあ言うて、セセ
リサガスは よけ あれなぶり(さわり)此れ なぶ
り するとなあ。

せせる(しえしえる)【弄】**【他ラ五】** 1) いじくる も
てあそぶ 触る などで(志(布施田、鶴方、神明、
立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥) 2) 他人の土
地を侵す 侵略する(志(鶴方、神明、立神、志島、
甲賀、国府、安乗)) 3) ほじる(志(浜島)、上、阿、
張、名、南、熊) 4) 蠅や蚊や蚤などが刺す(志、
鳥) [会話] 1) セセル言うな(のは)、ととな(夫
が) よさり(夜) かか(妻)を セセツテ 寝ささせ
んな(寝させないのだ) 言うて よお(よく) 言うや
んかい(言います)。まあなあ 仕事して くたばつ
とんのおに セセリン(に) 来ると 知らんわ(知ら
ない) 思て(思つて) 相手にしやせんねやんかい(し
ないのです)。そいなのおを(そんなのを) セセル。
4) よさり 蚤や かあも もそもそすると よんべや
(昨夜は) 蚤な(が) セセツテ 寝やれざつた(寝れ
なかつた)とか、蚊な(が) セセツテ 寝やれざつた
とか 言うてなあ こお もしよもしよすんのを(す
るのを) セセル 言うのなあ。昔の人ら(は) よお
(よく) 言う。いっちょ(一丁・一度) せな(しな
ければ) 寝やれん(寝れない) 蚤や蚊な(が) セセル
言うて。一丁 したると(してやると) ええんけど
(よいが) それ せんと(しなないと) 蚤や蚊な(が)
セセル よおん(ように) もしよもしよばつつか(ばか
り) 動いて、昔の人ら(は) よお(よく) 言うわい。
そげん(そんなに) 言うて。

ぜぜる(じえじえる)【自ラ五】舌がもつれて発音が不
明瞭になる あぜる(志(布施田、鶴方、立神、志島、
甲賀、安乗)、鳥(鳥羽)、多、度、伊、尾、南、熊)
[会話] 舌な(が) ゼゼル 言うてなあ、あぜつとる

と(ていと) あぜこぜで もの言うのな(言うの
が) 判らん、呂律な(が) 回らんの(回らないのを)
ゼゼル 言うて。

せせんな(しえしえんな) 触るな 触れるな [会話]
なんやかや(いろいろ) なぶる事を せせる言うて。
子供らな(が) 大人のもん(物) なぶると、よけ(あ
まり) そいな(そんな) もん(もの) セセンなまあ
言うて 子供らを わるうやんかい(叱ります)。

せだい(しえだい)【名詞】海魚 かまだい 真鯛の老
成魚

せたけ(しえたけ)【背丈】**【名詞】** 1) 踵から頭頂まで
の距離、身長、又、植物などの高さ 2) 着物の見頃
の出来上がり寸法 [会話] 2) セタケな(が) みじこ
(短く) なつて(なつていつて) 言うて。 きもん
(着物) でもなあ、せえ(背) な(が) 子供らは 伸
びるもんで(ので) セタケな(が) みじこなつてたなあ
(短くなつていつた) 言うて、せえ(背) な(が)
伸びてきたの(のを) 言わんと(言わずに) セタケな
(が) みじこなつてたなあ(短くなつていつた) 言う
の、1) きい(木) でも 竹でもなあ なあごお(長
く) になると、セタケな(が) 伸びてたなあ(ていつ
た) 言うてな。

せだつた(しえだつた) しなかつた(志(布施田)) [会
話] セダツタ しなかつた言うのを セダツタ

せだつたれ。せだつたわい。せだつたわな(女性語)。
せだつたわれ しませんでした

せだつたんなあ しなかつたのですね

せだつたんよお しませんでした [会話] せえ(しな
さい) 言うたねやつたのん(のだったのに)、忘れた
て(てしまつて) ま、セダツタン よお

せだつて しなかつて [会話] しなかつた 言う事
なんも セダツテ

せちいれる(しえちいれる)【切】努力する。ひたすら
一心に行く。心を込めて行く。[会話] なんやかや
(いろいろ) セチイレテ まあ こまかい(小さい)
事 言うてな、きい(気) つけてなあ あれも どげ
んせえ(どんなにしなさい) これも しとかな(して
おかなければ) はざん(いけない)、こやま(これ
は) こいな(こんな) 事 したら はざん 言うてな、
こまかい とこい(所へ) 気な(が) つくのをなあ
あんまり(あまり) こまかい とこい(所へ) 男の人
らな(が) きい つけると おなごら(女) よわんね
(困るのです)。セチイレテ いっしょけんめ(一生
懸命)で まあ仕事して セチイレル。

せちおとこ (しえちおとこ、せちをとこ) 【**節男**】【**名詞**】正月の男の人の忙しいのを言う語 新年の諸行事を行う男の意より せちは、節 くぎり 【**会話**】盆 おなご (女) に セチオトコ言うて、しょんがつ (正月) は 男らな (達が) 年始まいりや (まわりとか) なんや するもんで (ので) 忙しし (忙しい)。

せちがう (しえちがう、せちがふ) 【**他ハ五**】 からかう いじめる (度、北、熊) 【**会話**】 からかう 言うよおな 意味やなあ (です) セチガウ 言うのは

せちがわれる (しえちがわれる) 苛められる ねだられる (安)

せちよお (しえちよお) 【**名詞**】遠洋漁船員の給与明細書

せつ (しえつ) 【**節**】【**名詞**】尾頭付き 一匹まるのまの魚。多くの方言を集めたのには、切身と有るが意味が違う (志 (鶴方、志島、甲賀)) 【**会話**】セツ言うのは 魚のまるつぼ (まるのまま) を 頭の付いたのおを (のを) セツ 言うの。イッセツや (だ) 言うてなあ。おつごも (大晦日) ん (に) になると、切ったらんと (切らずに) まるつぼんのおを (のを) セツや (だ) 言うて、セツ すわって (据えて) 今日と言うて。尾頭付きを 今日ではまあ お正月 おつごもやよってん (だから) 皆ん (に) セツ 据えて言うてなあ。昔や (は) ちっちゃい (小さい) 魚でも 一匹んつ (ずつ) よお (よく) 付けおつたなあ (付けて居ました) おつごもん (に)。びんぼ (貧乏) で、魚よお買わん時や (買えない時は) 鯛でも一匹、鯛なあ (が) ちっさい (小さい) 鯛な (が) あんね (有るのです)。尾頭付きや (だ) 言うて、まるつぼごち (まるのまま) 付けんのなあ (付けるのです) おつごもん (に)。小豆飯炊いて セツ付けて、煮しめもん (物) して、とふ (豆腐) や あげ (油揚げ) や な んや (なにか) いろんなもん (物) 牛蒡や蓮根 煮しめて その上へ据えて (置いて)。

せつ (しえつ) 【**節**】【**名詞**】時 そのセツは

せつかく (しえつかく) 【**副詞**】気の毒に感じる事 わざわざ 【**会話**】セツカク こい (に) 迄 持て来たのん (持って来たのに) 言うてなあ。セツカク 来たけど おらせん (居ない) とかなあ。セツカク 持て来たのん いなん (要らない) 言うとか 言うのなあ (言うのが) セツカク。わざわざ 持て来たのおん、逢いに来たけど おらせん とかなあ、そお言う時に使う言葉やなあ (です)。セツカク来てくれたけど おらんでのお (居なくて) 言うて返し (返事) はなあ。

せつかくやけど (しえつかくやけど) 生憎だが、骨を折らしたが (名) 【**会話**】 せつかくしたのん (に) う ちやつたて (壊してしまって) とか、セツカクヤケド その事は まあ白紙ん (に) してくれるかい (くれますか) とかな。お前な (が) そげんして (そんなに) して 心配して くれたけど (が) 言うよおな時ん (に) 使うな (使います)。せつかく よんで (招待して) くよ (くれよう) 言うたけど (が) まあ おれげや (俺家は) 今日では 都合な (が) わりいて (悪くて) セツカクヤケド 行かれやせんわい (行けません) とかな

せつから 【**名詞**】【**形容詞**】せきから 急き勝ちの転か落ち着きがなく先へ先へと急ぐ事、又そのさま、そのような性質の人 せかせか参照 セキカチ (急勝) の転 (広辞苑) 【**会話**】 気が短い事 セツカチ なあ (だ) 言うやんかい (言います)。あや (彼は) セツカチで。なんもかも (何もかも) 早いめ早いめん (に) するとか、気な (が) かせわし (急がしい) 人を セツカチな (だ) 言うなあ。セツカチなもんで (ので) なんでも 人より 先い (に) せな (しなければ) はざんで (いけないので) とかなあ、そいな (そんな) 時ん (に) 言うやんかい (言います)。

せつからかす (しえつからかす) 1) 急がす 2) 咳がひどく出る (北)

せつき (しえつき) 【**節季**】【**名詞**】 1) 十二月末の事 今は盆と年末 (志 (浜島、甲賀、鶴方)、四、南) 2) 年末 (志、鳥) 【**会話**】 1) セツキ 今し (今・十二月) セツキやんかい (です)。セツキな (が) 来た。『セツキ言うきい (木) 掛けとり 言う鳥な (が) 止まって 野暮と言う棒で かりたおした』 言うやんかい (言います)。昔や (は) 二十五日ん (に) になると 掛けとりな (が) 回って来いおって (来て居て) そおすとなあ (そうすると) 断り言うの 上手な家や (は) ええけど (いいが) よお言わんと (言えないと)、まあ ほん おとつしゃ (ああ) 何の因果やか (だろうか) 思いおつた (思いました)。常 (日常) 出さんと (出さない) かつとくと (借りておくと)、こんだなあ (今度は) セツキになると、出すのに (支払うのに) 弱んねやんかい (弱ります・困ります)。セツキは盆のセツキと しょんがつ (正月) のセツキと 二回なあ (です)。昔や (は) 帳面で 物をとる (買う) 家な (が) 有りおつたわい (有りました)。かよい (通い帳) こさいといて (作っておいて)、盆と正月に 払うよって (から)。すぐに 払らわな

(払わなければ) はざん (いけない) やんない (でしよう)。その時 金な (が) ありや (あれば) ええけど (いいが) 無いと まあ 断り 言わんならんやんない。隣な (が) 出しぎたのおて (汚くて) 出し汚い 言うな (言うのは) 払い汚い。払い 汚のおて (汚なくて) おぞげ (全身の毛・鳥肌) な (が) 立つて来て、ほんと (本当) たんの (堪能・飽きた) した 言うて、まあ 払い汚のおて おぞげな (が) 立つ位。セッキ バライ 言うのをは セッキ になると 払らわな はざんの (いけないのです)。つね (平素) 借りまくって いて (多く借りて) 常 欲しもな (物を) 銭 出させんね によって (出さないのだから) 借って (借りて) 来る、そすと (そうすると) セッキ になると こんだ (今度は) 払わな ならん (ならない)、こんだ 断り 言うの (言うのに) 弱る (困る)。泣き払いに は るて (払って)。泣き払い 払いたのおても (払いたく無くて) 払わな (払わなければ) しよおな (仕方が) ないよおん (ように) になって くんの (来るのです)。向こお (相手) は せめてくるし (催促してくるし) やんない (でしよう)。取り ん (に) いても (行っても) 出させんし (払わない) やんない。

せづき (しえづき) (瀬附) 【名詞】鯉が島の周辺に群をなして居る状態。島の周囲に集まって居る鯉の群 (北)

せつきばらい (しえつきばらい、せつきばらひ) (節季 払) 【名詞】盆と年末に貸借の精算をする事 せつき 参照 (張)

せつきよお (しえつききよお、せつけう) (説教) 【名詞】小言 叱責 宗派の教えを信者に説き教える事よりの転

せつく (しえつく) (責付) 【他カ五】しきりに催促する 責付く せきたてる (志 (片田 布施田)、員、津) [会話] 掛け (借った金銭) 取りに いて (行って) 責める事な あ (です)。くれえ (下さい) はよ (早く)、はよ 今日やなけな (でなければ) 明日やなけな 言わんと (言わずに) 今日 くれえ、明日 取りん (に) 来るよって (から) 言うのを セツク 言うの。セツカレテ まあ 言うて。催促する 催促 をな あ。仕事しても 大工 に はよ (早く) してくれえ 急ぐよって 言うのも、セツイて はよ してもろた (してもらった)。

せつく (しえつく) (節句) 【名詞】三月三日 五月五日 九月九日 [会話] あいのセツクに や (は) よごめ (蓬) 餅 言うて、セツク セツクに ごつつお

(御馳走) して 食わして (食べさせて) 言うて な 三月は セツク の月で モモノセツク 五月は ショウブノセツク 九月 あ (は) 菊のセツク やもんでな (なので) 三つな あ (です)。昔や (は) セツク に や (は) 皆 親許へ れえ (札) に行く 言うて な 重箱 い (へ) 米 入れて な 行きよおたけど (行って居ましたが)、今しや (今は) なんも (少しも) そいな (そんな) 事 しやせんけど (しないが)。わしら (私) 嫁 した じぶん (頃) は な あ 親許いな あ (へ) セツク ん (に) になると 重箱 い (へ) 米 入れて な もてきよおったね (持っていきました)。そげん (そんなに) して せな (しなければ) 親許い (へ) 行くよおな 事も 無かったん やろな あ (のでしよう) いそがして (忙しくて) いそがして、そやもんで (それで) そ 言う時を かづけに (かこつけて) 親許い (に) 行きよおったん やろな あ (行って居たのでしよう)

せつくじお (節句潮) 【名詞】旧三月三日頃は潮が最もよく干く事から (志 (志島 布施田)) [会話] 旧三月のセツクジオ 節句 あ ま 泣き 潮 言うの。節句 朔日 とと (魚) 食わず 言う節句。節句 ついたち (朔日) とと (魚) 食わず 言うのは な あ その時分 (頃) は 節句 びより (日・天候) や (と) 言うて 雨天の ひい (日) な (が) 多いわい (多いのです)。節句 や (とか)、ついたち (朔日) は、雨天の日が多い もんで (ので) 魚 な (が) 獲れやせん (獲れない) もんで、魚 な (が) 食われん (食べれない) 言う事 や わい (です)。どの節句でも 節句日 和 言うて 昔 や (は) 五月の節句でも つゆり (梅雨) やんない (でしよう)。三月の せつかあ (節句は) 三月も つゆり (菜種梅雨) な (が) 有るし。九月に なりや (なれば) 九月の時化 な (が) して 来る やんない。そやもんで (それだから) 節句月は いつでも ぐずつくの な あ (ぐずつきます)、天気 な (が) 節句日和で。節句 言うのは 三月、五月、九月 みいくらな あ (三度)。ついたち (一日) 言うのも ついたち 降り や (だ) 言うて ついたち に よお (よく) 雨 な (が) 降る もんで (ので)。”一日 降り す や (すれば) 二日 降る 三日に 止んだ 試 し なし 四日 降る 雨 や (は) いっ も 降る むつかし (むつかしい) 日和 や (だ) 長い 日 や (だ)” 言うの。(一〜七迄の教え歌)。そして 十日 降り ほつかぶり (ほうかぶり) や (だ) 言うて な あ。一日 降る 月は 雨 な (が) 多い 言う事 や な あ (です)。とと言うのは 魚の事。昔 や (は) 言い お

ったねよってんなあ (言っていましたから)。ちっさい (小さい) 子供ら (達) に とと 食えよお (食べなさい) 言うやんない (でしょう)。

せつくついたちととくわず (しえつくついたちととくわす) 【俚諺】 節句や月始めは天候の悪い日が多く、漁に出られないため魚が食べられない事を言う。(志(布施田)) [会話] セックツイタチトクワズ言うて 日和な (天候が) そげな (そんな) じぶん (頃) に わり (悪い) もんで (ので) 魚な (が) あがらせんもんで (獲れないので) 言うんやろな (の) でしょう)。セックツイタチトクワズ言うて、昔から 言うけど その時分 (頃) に 天気ななあ (が)、せつくびより言うて よお (よく) 日和な (天候) 落ちる (悪くなる) やんない (でしょう)、節句はなあ 日和な (天候が) わりいて (悪くて) こや (これは) せつくびよりやなあ (だ) 言うて、雨な (が) 降ったりすると 言うんやんかい (言います) こやまあ (これは) せつくびよりで なあがいねやれ (長いのだ) 言うてなあ。そやもんで (それで) 魚な (が) あがらせんもんで 言うんやろなあ セックツイタチトクワズ 言うのは、病気でも せつくの月にすると やむのん (病むの) に なあがい (長い) たら (とか) 言うて せつくの月ん (に) 病気すると はざん (駄目だ) 長びく (長くなる) 言うて

せくばたらき (しえつくばたらき) (節句働) 【名詞】 普段怠けている人が、祝祭日等に働いている事 又、その人 (張) [会話] どじもんぐさ (怠け者) のセックバタラキ言うてなあ、節句やよってん (だから) はよ (早く) おこや (終わりました) 言うても、節句でも よさ (夜) 迄 仕事しとんと (していると) どじもんぐさのセックバタラキ言うの。節句やよってん (だから) はよ おいて (終わって) 言うのん (の) に 節句や (だと) 言うと どじもんぐさの もん (者) は 又、せえ (張り合い・元気) な (が) 出て 来んねやろなあ (来るの) でしょう。節句に精出して 働くもん (者)、あや (彼は) どじもんぐさ (怠け者) のセックバタラキして。怠けとる (ている) に げ (人間) なだ (が) 仕事すると そげん (そんなに) 見えんねわい (見えます)。つね (平素・普段) せんとおって (せずに居て) 節句や (と) 言うのん (の) に いっしょけんめん (一生懸命) なって働くと そげん (そんなに) 思っておったんやろなあ (思っ居たの) でしょう。人な (が) 休んどる (でいる) 時に働く。節句にや (には) 休む。昔やなあ (は)、

節句や 紋日 (祝い事の有る日は) すんばこすじも 頼って 休んだり ごっつお 食うたり (食べたり) しいおったわい (して居ました)。すんばこすじも頼って言うのは 紋日を 今日 は 節句やよって (だから) 今日 神社やよって (神社の祭だから) そいなのを (そんなのを) 頼って (名目に) して ごっつおして (御馳走して) 食わな (食べなけば) ごっつお 食う事な (が) 無かったもんで (ので) そんで (それで) すんばこすじでも、神社や (だ) 言うても、節句や言うても なんでも そいな (そんなのを) かずけて (かこつけて) ごっつおしたり、休んだり すんのを (するのを) 昔や (は) そんげん (そんなに) 言いおったんねわい (言っ居たの) でしょう。ちよつとしたのおも (少しの事) かずけて 大きな祭や (で) のおても (無くても) それへ かずけて、ごっつおしたり 休むのおを (休むのを) すんばこすじでも頼って休む。紋日言うのは じんじ (神事・和具の祭の呼び名) とか 天長節 (天皇誕生日) 紀元節 (建国の日) やとか (だとか) 言うの。そいなのおを (そんなのを) 紋日。なんか (なにか) 事な (が) 有ると 紋日や (だ) 言うて、祝い事やなあ (です)。人の休んどる (休んでいる) 紋日に働いて言うて よお (よく) 言う。

せつくびより (しえつくびより) (節句日和) 【名詞】 節句の頃の天候 雨が多い せくじお参照

せつけい (しえつけい) (設計) 【名詞】 1) 計画 2) 考え方 [会話] 1) セッケイ。あれもして これもして どげん (どんなに) して、仕事する段取り (準備) すん (の) でも セッケイやわいなあ (です)。仕事の段取り すんのも セッケイする言うて 言うなあ (言います)。今日はあれして 今日これはして どげん (どんなに) して言うてなあ 計画して 段取り すんのも それも セッケイのうちやわい (です)。段取り言うな (のは) 今日 は こげんしといて (こんなにして) 明日は どげん (して) 言うのをなあ。さんだん (考える) するのをなあ 段取り。葬式でも 段取り部長な (が) あって 葬儀部長な (が) お前この役 (役目) おまや (お前は) この役言うて すんのを 段取り部長。なんでも 決めんのをなあ (決定するのを)。いろんな事を決めて 計画する言うのを セッケイすんの (するのです)。2) そや (それは) わいと (あなた) な (の) セッケイかい (ですか) 言うてお前の考えか 言うよおな時んも (にも)。

せつこむ (しえつこむ) 咳を激しくする 咳こむ せきこむの訛 (桑市) [会話] よけ (沢山) 咳する、咳な

(が) 出んのなあ (出るのです) セッコム 言うて。
せつこむ (しえつこむ) 急いで事をする。慌てる。(桑市) [会話] セッコム いっしょけんめ (一生懸命) で、せかして (急がせて) くんのを (来るのを) せきこんで来て 言うのな (が) 急がず事をなあ。
せつしよ (しえつしよ) 【**名詞**】殺生 せつしよ むごい事 ひどい事 せつしよの末尾母音の省略 (員、鈴市、多、上、名、伊) [会話] 殺生な事すんな (するな) 言うて、苛めたり 畜生を殺したりすると よけ (あまり) そいな (そんな) セッションな事すんな 言うてな
せつしよな (しえつしよな) 可哀相な 無茶な (鈴市、安、松、多、上、阿、張、名) [会話] セッション言うのは かわいそげな (可哀相な) 事をなあ、すんな (するな) 言うんやろな (言うのでしょうか)。猫 やどけを (などを) どいらいめえん (ひどい目に) したり、子供らな (が) 遊びもん (なぶり物) に すると、そいな (そんな) セッションな事 すんな (するな) 言うて、かわいそげな事 すんな 言う事 やろ んなあ (でしよう)
せつせ (しえつせ) 【**副詞**】休まず一生懸命に行うさま 精を出しているさま 早く行く様 [会話] セツセと したけど (が) 言うてなあ。仕事いっしょけんめ (一生懸命) だと セツセと 言うやんかい (言います)。セツセと せな (しなければ) いかんわれ (駄目だ) 言うて せえ出して (一生懸命) せえ (しなさい) 言う事をなあ
せつせと 精を出してよく働く せつせ参照
せった (雪駄) 【**名詞**】竹皮草履の裏に皮を張ったもの。せきだ [会話] せきだの事 を セツタ 言うね (言うのです)。セツタの 裏の金 言うよってなあ (言うから)
せったい (しえったい) (接待) 【**名詞**】 1) 客をもてなす事 2) 施し
ぜったい (じえったい) 【**形容詞**】必ず 本当に (桑郡、三、鈴市、安)
ぜつちよお (じよつちよお、ぜつちやう) 【**名詞**】 1) 山頂 (志、鳥 (国崎)) 2) 転じて最も高い所 最も盛んな時 [会話] 1) 山の峠。2) かねもちや (金持ち) でも ものすごい (大変な) 金持ちん (に) になると ゼツチョオい (へ) 登ったなあ 言う。こんな (これが) ゼツチョオ やなあ (だ) 言うて ま、峠の事を ゼツチョオや (だ) 言うてな、にげな (人間が) 成功すんのでも (するのも) せんぎり (十分)

成功すると、こんな (これが) ゼツチョオ やれ (だ) 言うやんかい (言います)
せつない (しえつない) 【**他ラ五**】苦しがる 切ながる 胸がしめつけられるような気持ちになる。つらくやるせない つらい 苦しい (志、鳥、桑市、員、名) [会話] セツナイ思いで悲しむ、悲しむ言う事や (です)。セツナイなあ言うて。ものすごい (大変) 悲しい事を。セツナイ 言うなあ、どいらい (大変) セツナイ思いた言うてなあ。つらい時になあ セツナイ思いをした 言うんよってなあ (言いますから)。ものすごお 悲しい時とか 情けない時とかなあ そお言う時に 使うね (使うのです)。気持ちが苦しい時 そいな (そんな) 時も、セツナイなあ言う時な (が) 有るなあ どいらい セツナイ思いすんな あ (するなあ) 言うてなあ。
せっぱ 【**名詞**】海女の道具 用具不詳 現在の海女は知らない。
せっぱつまる (しえっぱつまる) (切羽詰) 【**自ラ五**】物事が差し迫ってどうにも切りぬけられなくなる。追い詰められて全く窮すせっぱ 切羽 刃の鏝 差し迫った困難 極めて困難な時 [会話] セツパツマツテ、責められるのを セツパツマル言う。セツパツマツテ まあ 借金で 責められて セツパツマツテ なんもかも (何もかも) 売りはろた (売り払った) とか、そいな (そんな) 時 使うやんかい (使います) 困った事を セツパツマル。追い詰められるよおな状態 それも一緒やわな (です)。
せつめいがき (しえつめえがき) (説明書) 【**名詞**】 1) 明細書 2) 薬などの効能の書いて有る物 [会話] 1) ほんと (本当) の勘定 (計算) なら五万円 当たん ねけど (受けとるのだが) 三万ぐらい あてがいぶちん (に) セツメイガキ せんと (せずに)。
せど (しえど) (背戸) 【**名詞**】家の裏 家の後ろ (志 (布施田、鶴方、志島、甲賀)、鳥 (神島)、南) [会話] 家のセド 言うのなあ (言います)。後ろの事セド言うのなあ 裏の周りをなあ。セドの方も 掃除 しとけよお (しておけ)。セドも えごつと (充分に) 掃除して言うて。
せともん (しえともん) 【**名詞**】瀬戸物 愛知県瀬戸市を中心に産出される陶磁器、転じて陶磁器の総称 (桑郡、桑市、員、四、鈴郡、鈴市、安、一、松、上、阿、張、名、伊、鳥、南) [会話] 茶碗や皿かい (ですか)。セトモン 茶碗や皿や てびき (大皿) や (とか)。てびき 大つきい (大きい) の、魚 盛つ

たり、鮪 盛ったり。昔せ (は) 嫁取り (結婚式) ん (に) になると てびきを三十 四十つ (位) 膳へ並べて、そして替わり出して しいおったよって (して居たから)。

せともんや【名詞】 瀬戸物を商う家、又はその人

せどり (しえどり) (瀬取り)【名詞】 大船から小舟に荷を移す事。又その舟 [会話] はしけ舟のことなあ (です) セドリフネやなあ (です)。なんやかや (何やかや) 荷物 舟から おか (陸) へ 揚げて来たり、おか (陸) から 舟へ持てたり (持って行ったり) すんの (するのを) セドリ、言うのなあ。舟でセドッた言うてなあ。はしけ はしけの事を 瀬取り舟や (だ) 言うてなあ。

せどり【名詞】 舟を碇で固定して漁をする事

せどりぶね (しえどりぶね) (瀬取り舟)【名詞】 親船の積荷を小船に移し取る事 又、その小船 瀬取り舟港で沖懸りにしている大型船から積荷を瀬取りする小型の荷舟 はしけ せどり参照 (志)

せどる 移す 物を他に移動させること (志 (布施田、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)) [会話] 舟でまあセドラな (なければ) はざんわれ (いけない) とかな、車でセドットカナ (ておかなければ) はざんわれ とかな言うて、せごす (移す) 言う事や (です)、舟から解い (へ) 降ろして、おか (陸) い (に) 舟で セドル言うて、セドッて もろて (貰って) 言うて。船から降ろして、おか い (に) もてきい (持って来る) すんのをな (するのを) 舟で セドル 言うて よお (よく) 言うわい (言います)。そして 秋 (農村) の方い (へ) いてもなあ (行っても)、川からセドン (る) のを、たあ (田) から 川舟な (が) 有って、その舟い (へ) 積んどいて (でおいて) おか い (に) セドッて くんのを (くるのを) セドル 言うのな (です)。川舟 つこてなあ (使って) 車 曳かん と (曳かずに) 川をなあ 舟で積んで、セドッて くんね (来るのです)。舟で セドッて もろて 言うて。

せとろ【名詞】 背びれの骨につく肉 えんがわ

せな (しえな) しなければ (志、桑市、員、亀、一、久、上、阿、張、度、伊、南) [会話] えごつと (充分に) ことわけて (説明して) セナ わからせんわれ (判りません)。

せなが (しえなが)【名詞】 むろ鯆 アジ科の海魚 全身約30cm マアジより丸味を帯び細長い測線上の楯鱗は、体の後半だけにしかない。背方は青緑色、腹方は銀白色を帯び体側中央に幅広い赤褐色で死後は黄

色になる縦筋が走る (志、鳥) [会話] 鳥山な (鳥の群れが) 出来たよってん (から)、あや (あれは) 鯛な (が) わいたんなあ (群れた)。セナガな (が) わいたんなあ 言うて ムロ鯆の事。

せななあ (しえななあ) しなければ

せなならん (しえなならん) しなければいけない (鳥)

せなはざわん。せなはざん (しえなはざん) しなければいけない (志、鳥) [会話] セニヤナラン。これも したらな (してやらなければ) はざん (いけない) 言う事を、此も セニヤナラン セナナラン言うて。此も したらなはざんし センナランし (しなければいけない) 言うね (のです)。セナナラン言うのを セナハザン言うね (言うのです)。

せなんだ (しえなんだ) しなかった (志、伊、桑郡、桑市、員、三、松、多、上、張、度、尾、南)

せなんだけど しなかったが (志)

ぜに (じえに)【名詞】 銭 お金 特に金銀銅で作られた貨幣 字音センのンをニと訛ったもの (広辞苑) (志、鳥、桑市、員、四、鈴市、安、一、飯、松、多、上、張、名、伊、南、熊) [会話] ゼニ。ぜん稼がな (なければ) はざんし (いけない) 言うてな。

ぜにいれ (じえにいれ) (銭入れ)【名詞】 巾着 財布など銭を入れるもの (上、阿、南) [会話] ゼニイレ。財布かい (ですか)。財布も有るし、ぜにばこ言うて、きい (木) の箱で 入れよおったやんかい (入れていたでは有りませんか)。店屋の家やなあ (は) ぜにばこやなしん (でなくて) ぜんばこへ 入れとけ (ておけ) 言うて、きい (木) の箱に 錠 (鍵) な (が) おちるよおん (かかるように) して有って ぜんばこや (だ) 言うて、今しで (今で) 言うて 金庫やろん (でしょう)

ぜにかね (じえにかね) (銭金)【名詞】 金銭 同じ物を重ねて言い強調する

ぜにぎり (じえにぎり)【名詞】 魚をそのまま輪切りにしたもの 切り口が丸くなり、銭の形を思わせる。せこぎり参照 [会話] さいら (秋刀魚) の ぜんぎり ゼニギリ 言うて、さいら を まるっぽのお (まるごと) を、うっすう (薄く) 切んね (切ります) 骨ごち (ごと)。

ぜにばこ (じえにばこ) (銭箱)【名詞】 金を入れる施錠出来る木箱 金庫の代わり、ぜにいれ参照

せにやならん (しえにやならん) しなければいけない (志、鳥) [会話] これも したらな (してやらなければ) はざん (駄目だ) 言うことをな セニヤナラン言うて。

せぬき (しえぬき) 【名詞】 1) セすじ 背骨 2) 着物の背中の縫い目 [会話] ¹⁾ セヌキな (が) まあるう (丸く) なってくんのな (来るのです)、年寄りな (が) 太鼓橋みたよん (のように) まあるう なって、猫な (が) 背中丸めたよん (のように) しとるもんで (している)ので 猫 おおできた (負んで来た)。

せばあい (しえばい) 狭い 非常に狭い (津)

せばい (しえばい) (狭) 【形容詞】 狭い 狭し せまし しの古形 せまい (志 (鶴方、神明、立神、国府、志島)、鳥 (鳥羽、石鏡)、員、鈴郡、鈴市、三、安、津、一、久、松、多、上、阿、名、張、度、伊、北、南) [会話] セバイ言うて、こいな (こんな) セバイとこ (所) 言うてなあ、ほっそい (細い) とこ。にげ (人間) が ぎちぎちにしとると (一杯にしていると) セボオテ (狭くて) おるとこも (居る所) ねえない (ない・ありません) 言うて、よけ (沢山) おると (居ると)。あの家 いたけど (行っただけど) セボオテ 入るとこ も ねえわれ (有りません・無い) 言うてなあ。狭い言わんと (言わずに) セバイ言うね (言うのです)。

せばくろし (しえばくろし) 狭い 狭苦しい [会話] せばい (狭い) のをな、セバクルシ とこや (所だ) てやら (とか)、セバクルシ とこ (所) やけど (だが) どおぞ 言うて、人な (が) 来てくれても せばいと (狭いと) さいご (その時) 気の毒な (だ) おもて (思っ)て セバクルシとこで 気の毒ななあ (です) 言うて。

せばくろし (しえばくろし) 狭い 狭苦しい せばくろしに同じ (志 (布施田))

せばど (しえばど) (狭門) 【名詞】 狭い所 狭所の略

せばまる (しえばまる) (狭) 【自ラ五】 狭くなる

せばり (しえばり) 【名詞】 瀬張り 四艘の舟を瀬 (暗礁) の上、四カ所に配置して、その間に綱を張り魚を網に、追い込んで獲る漁法 [会話] セバリ 言うのは 四点張りん (に) しといて (しておいて) すんのなし (するのです)。よてんばり 四カ所に錨を入れ舟を固定してその間に綱を張ることや。

せびき (しえびき) 【名詞】 舟の上で海の魚を探す役目 [会話] めえ (目) な (が) よお (よく) めえる (見える) 人な (が)、セビキや (だ) 言うて、せんど (船頭) して。

せびらき (しえびらき) (背開) 【名詞】 魚を背から切り開く事 [会話] 魚の開き、さんまのひらき 鯨の開き。セビラキ 腹開き 言うて、せえ (背) から開

くな (開くのは) セビラキ、腹から 開くな 腹びらき。腹びらきん (に) すんな (するのは) おやいびの (親指) 腹でするし、セビラキ言うな (言うのは) ほつちよ (包丁) で 背すじから開くのを セビラキや (です)。

せびる (しえびる) 【他ラ五】 せがむ ねだる (志 (浜島、布施田))

せぶし (しえぶし) (背節) 【名詞】 1) 鯉の背の肉を鯉節にしたもの 本節 (度) 2) 魚の背側の肉 [会話] ¹⁾ 鯉のセブシ、セブシ 腹節言うて 背中の方をセブシ、腹の方をはらぶし。そして まるっば (丸のまま) 割らんと (ず)に あんな (あるのは) かめぶし

せぶる (しえぶる) 【他ラ五】 せびる 金や品物をくれるように無理に頼む ねだる (員、安、上、阿) [会話] セブル。あの人から ぜん (銭) せびって来た言う。 ぜん (銭) 貸せとか、くれとか 言うてなあ すんの (するのを) せびられて 弱ったよお (困った) 言うて。貸せとか、くれとか言うて、ことわり (断る事) な (が) 言われんのおを (言えないのを) セブラレテ言うてなあ (言います)。

せばおて (しえばおて) 狭くて

せまくろし (しえまくろし) 【形容詞】 狭苦しい 狭い 苦しいと感ずる程狭い (熊) [会話] せこ道 (小さな横道) みたいな (のような) とこ (所) 入れ込むと (入り込むと)、セマクロシて 嫌なよお とこ (所) や (だ)。

せみ (しえみ) 【名詞】 滑車 高い所に物を引き揚げる際に用いる小さい滑車 和船の帆柱などに取り付けて帆や 荷物を上げ下ろしする滑車 形が蟬が木を抱いて居る様だから (大言海)

せみ (しえみ) 【名詞】 蟬海老の略 ウチワエビ科の大型のエビ 房総半島以南の20m程の岩底に住む、体長20~30cmの平圧された形で甲殻は厚くて固い。全体に紅褐色で尾扇は黄褐色、食べられる

ぜめ (じえめ) 【名詞】 鯨など体中央のとがった鱗 (志 (布施田)、度) [会話] ゼメ 鯨のゼメかい (ですか)。鯨のゼメ、ゼメな (が) あんななあ (あるのは) 鯨だけやなあ (です)。ほかのもん (物) も ちよいちよい (少し) 有りもするけど あんげん (あんなに) かっかないもん なあ (硬くありません)。鯨のゼメな (が) 一番 かったい (硬い) なあ (です)。

せめたくられる (しえめたくられる) 激しく催促される [会話] せかれて (急がされて) まあ はよしてくれ まえ (早くして下さい) 言うのなあ (です)。 せかれ

て(急がされて)言う時も 有るしなあ、セメタクラ
レル言う時も有るしなあ。

せめたくる(しえめたくる) どこ迄も無理に責める
[会話] セメタクル言うな(言うのは)、貸した金
おこせ(返せ・よこせ)とか、なんか(何か)くれた
もん(物)返せとか 言うて、セメタクルのおを(る
のを)責めんのおなあ(るのを)。田地でも 貸しと
ても(ていても)のけ(どきなさい)言うても(言っ
ても)のかせんの(どかないのを)責めるのをなあ。
何遍も 何遍も とことん(最後)迄 追いつめてく
の(ていくのを)責め折檻や(だ)言う。毎日 返せ
とか 戻せとか言うのを 言うんやろなあ(言うので
しょう)。

せめて(しよめて)【副詞】最低限(志(布施田))

せめのせったく(しえめのしえったく) 何度も繰り返
して請求する(志(布施田))[会話] それを言うて
ばっか(ばかり)おんのをな(居るのを)、何回でも
繰り返して セメノセッタクン 逢おた(逢った)言
うてな。あの人ん(に)金 貸したや(ら) とんのん
(取るのに) せえらく(苦労) したれ(しました)、
まあ あれん(彼に)金貸したや 弱ったれ(困りま
した) だしぎたのおて(拂い汚くて) せえだく(苦
労) したれ(しました)言うてな

せめやい(しえめやい、せめあい、せめあひ)【名詞】

攻めあう事 争う事 喧嘩

せめる(しえめる)【實】【他マ下一】1) 急がせる せ
きたてる 催促する 2) 物を欲しがってせがむ ね
だる 強要する 3) 人の行為や罪などをとがめる
[会話] 1) 急がす言うよおな、はよ(早く)来てくれ
え(下さい)言うて、セメン(に) いて(行って)そ
して まだ 来やせんない(来ない)言うて、せめま
くつといて 来い言うてな。3) 相手の欠点を とがめ
るのも あれん(彼に)セメラレテ せめ殺されたよ
お言うて、苛められる事をな 此 したら はざんや
んか(駄目だ) 此れもしたら はざんやんか 言うて、
何事によらず 意地のわり(わるい) こと言うのをな
セメル。

セメン(シエメン)【名詞】1) セメントの略 石灰を
主成分とする土木建設用の無機質接着剤 2) 腸内の
寄生虫を下す薬 [会話] 1) コンクリの事も言うし、
2) 虫下し セメン飲まな(なければ) はざん(いけない)。
虫下し セメンエン 言うねやんかい(言うの
です)。昔や(は)セメンエン 飲みよおったのおん
なあ(飲んで居た)。

セメンエン(シエメンエン)【名詞】 蛔虫 駆除の薬
サントニンを重とす ポルトガル語 セメンシーナ
(Semencinae)の語か(大言海)[会話] むしくだし
セメンエン言うて。菓子になつてて(なっていて)昔
や(は) せめん 飲みおった(飲みました)

せもて(しえもて) 狭くて(尾)

せやけど(しやけど)【接続詞】しかし かししながら
(鈴市、安、一、松、上、阿、張、名、伊)[会話]
そやけど 言うんなあ(言います)セヤクド言うのを。
そやけどなあ そげん(そんなに) せな(しなければ)
しょおな(仕方が) ねえもんなあ(無いから)言
うて、そやけど 言うたり しやけど言うたり、しや
けど言うにげ(人間)も有るしなあ(有ります)。そ
やけどな そげん(そんなに) せな(しなければ)
しよなねえもん したれ(しました)言うてな

せらい(しえらい、せらひ)【競合】【名詞】1) 無風
で波のおこる様(志(志島、甲賀))2) 東風と西風
が衝突して無風となる事(志(志島、甲賀))

せらった(しえらった) しなかつた(志(甲賀))[会
話] なんも(全く) わり(悪い)事 セラッタ。

せらったれ。せらったわい。せらったわな(女性語)。
せらったわら。せらったわれ(しえらったわれ)。し
なかつた しませんでした [会話] これまあ せな
(しなければ) はざん(いけない)言うたけど(が)、
暇な(が) のおて(無くて)セラッタレとか、したの
おて(したくなくて)セラッタレ そげな(そんな)
まん(ものは) したないわれ(したくないです)言う
たりな。セラッタレ言うたり、せざったれ 言うたり、
せだったれ言う。しなかつた言うの(のを)あのひた
(人は) なんも(少しも) セラッタやんか(でない
か)言うて。仕事、人な(が) せんと(しなくて) お
ってもなあ(居ても) そや(それ) なんも(少しも)
セラッタやんか あのひた 言うたり。

せらって(しえらって) しなかつて [会話] セラッ
テ言うのを しやざった(しなかつた) 言うね(言う
のです)しなかつた事を なんも(少しも) セラッ
テ。

せりあう(しえりあう、せりあふ)【競合】【自ラ五】競
う 競争する(志(布施田))

せりぐい(しえりぐい)【競合】【名詞】1) 食べるのを
競う事 2) 卑しく早く食べる様

せりせり。ぜりぜり(じえりじえり)【副詞】喉の感じ

せりふ(しえりふ)【台詞】【名詞】1) いいぐさ 理屈
いいわけ 2) 常日頃からのいいぐさ きまり文句

3) 喧嘩 争い 勝負事 [会話] セリフ 芝居のセリフじゃないけれど 言うて、しばや (芝居) みたいに (のように) 言うのをなあ セリフ。2) あんな (彼の) セリフで こげん (こんなに) 言うて、あげん (あんなに) 言うて言うのを、あんな (彼の) セリフ やてや (だ) 言うなあ。いいぐさとか 言うた事とか そいな (そんな) のおを (のを)、あや (あれは) あんな (彼の) セリフ やなあ (だ) 言うて、はた (周囲) の もん (者) が 聞いてとて (聞いていて) 言うのをなあ。

せりやい (しぇりやい、せりあい) 【名詞】 口喧嘩 せりあい [会話] 口争い しとる (している) 時も、なんやら やっさもっさ 言うて セリヤイ しとたなあ (していた)。

せわ (しえわ) (世話) 【名詞】 せわ 世話 気を配って面倒を見ること 手数を掛けて援助する事 骨が折れる事 中に入って取り持つ事 仲介 手数が掛かって苦労する事 1) 看護 見守る 面倒を見る (南) 2) 厄介 迷惑 苦労 心配 (志、南) [会話] 1) セワヤキ セワヤク 結婚の セワヤキ (仲人) とかなあ、仕事すんのを (するのを) どげんせえ (どうしなさい) こげんせえ (こんなにしなさい) 言うて、セワヤくとか、よばれて (招待されて) 来てても はよ (早く) 食え 飲め言うて セワやかせん (やかない) やかざった (やかなかった) とか、よお (よく) 言うてなあ、おたあ あの家 いたてて (行っても) 誰んも (誰も) セワやいてくれる もん (者) な (が) のおて (無くて) 言うてなあ。2) セワやかしたのお (やかせました) とか、厄介 (面倒) かけてとか セワかけてのお (かきました) 言う時も 有るし。なんか (なにか) やっかいになると こなんだ (この間) セワかけたなあ言うて、頼んだりするとなあ。心配させて (させて) 言うよおな時も そいな (そんな) 時でも 言うしなあ (言いますし)。

せわかける (しえわかける) 自分のために他の者に面倒な思いをさせる せわ参照

せわくさい (しえわくさい) 面倒だ (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗))

せわし (しえわし、せはし) (忙) 【形容詞】 忙しい せわしない 用事が沢山有って気持ちが落ち着かない。忙しくてゆったりした気分になれない。動作などが、せかせかして見ている者、聞く者を落ち着かせない。(志 (浜島)、鳥 (国崎)、桑市、三、鈴市、伊) [会話] セワシも せわしないも 一緒やけど (ですが)、

言い方が ややこし (難しい) 言うのと。セワシ言う な (のは) 忙し (忙しい)。せわしないのも 忙し、せわしのおて まあ 言うて。仕事 な (が) よけ (沢山) 有ると 今日 は遊びん (に) いこか (行きましようか) てや (とさえば) わしげや (私の家は) せわしのおて言うて、仕事 な (が) あるとなあ。せわしない言うのは セワシ 忙し事を せわしない言うの。忙して (忙しくて) いかれやせん (行けない) 言うの (のを)、せわしのおて 行かれやせん (行けません)。せわしない言うて 忙しない (忙しくない) 言う よん (ように) 聞こえるけど、そやないね (そうではないのです) 忙しのおを (のを) 言うね (言うのです)。せわしない言うて ものすごお (大変) 忙し言う事を せわしない言うもんなあ。

せわしがる (しえわしがる、せはしがる) (忙) 【自ラ五】 忙しがる 面倒がる 忙しくてせき立てるような様子をしきりにする [会話] おら (俺は) まあ 忙して (忙しくて) 忙して (忙しくて) 言うのをなあ セワシガル 言うてな。

せわしげ (しえわしげ、せはしげ) (忙) 【形容詞】 忙しそうにしている状態 [会話] セワシゲ 言うな (言うのは) 忙し そおん (そうに) しとる (している) 言う事 やなあ (です)。

せわしけない (しえわしけない、せはしけない) 【形容詞】 忙しい 面倒だ (三、鈴郡、鈴市、安)

せわしない (しえわしない、せはしない) (忙) 【形容詞】 せわしに同じ 忙しい、ないは有る せわし参照 (志 (浜島、布施田、甲賀)、鳥 (国崎)、員、三、鈴市、鈴郡、安、松、上、阿、張、名、南)

せわしながる (しえわしながる、せはしながる) せわしげ 忙しい様子である 忙しがる (志) [会話] セワシナガル 言うねんなあ (言うのです)。べつんも (特に) セワシナガッテ。今日は まあ あんな (彼の) とこ (所) い (に) いたや (行ったら)、忙し忙し言うて セワシナガッテ言うてなあ、いそいそ しとる (している) 事を。遊びん (に) いたや あんな (彼が) 忙しがって しとるもん (で) (している)ので 言うてなあ。いそいそする言う な (のは) そわそわと出たり入ったり 立ったり座ったり すん (の) (するのを) いそいそして。せわしげ 言うな (言うのは) 忙し そおん (そうに) しとる (している) 言う事 やなあ。忙しそおで 遊びん (に) いたけど (行つたが) あんな (彼が) いそいそ 忙し そおん (そうに) しとて (している) 今日 はまあ 遊ばんと (遊ばずに) 来た

とか 言うのな (言うのです)。忙し 忙しげな言うのな 忙しそおに しとた (していた) 言う事やなあ (です)。

せわしのおて (しえわしのおて、せはしのおて) 忙しくて [会話] 遊びん (に) 行こか (行こうか) てや (とえば)、わしげや (私の家は) セワシノオテ 言うて 仕事な (が) 有ると。

せわずき (しえわずき) (世話好) 【名詞】 1) 好んで人の面倒を見る事 又その人 2) おせっかいな人 出しゃばり

せわする (しえわする) 面倒を見る 看護する (志 (神明、浜島、鶴方、立神、志島、国府))

せわな (しえわな) 面倒な 世話のやける せせかし参照 (志 (鶴方、立神、志島、国府)、鳥 (桃取)) [会話] セワナ、おおた (ああ) くそせせかし (面倒だ) 言うて。セワナがんの (がるのを)。こいな (こんな) せせかし事 (面倒な事) うそせせかし (面倒だ) せんで (しなくて) ええわれ (よろしい) 言うてなあ。こまかし (細かい) した事 せせかし 言うのな (言います)。こまごました事 すんのを (するのを) せせかしのん (のに) そいな事 (そんな) せんで ええわれ 言うて。めんどくさい (面倒臭い)、セワナ (が) やける。こいな (こんな) こまごました事 めんどくさい 言うてなあ、めんどくさい事を 言うんなあ (言うのです)。

せわない (しえわない) 簡単だ (熊)

せわながる (しえわながる) 面倒臭がる (志) [会話] せわな も一緒や (です)。セワナガル 言うのも、せせかし めんどくさい (面倒臭い) 言うてなあ。こまごました こた (事は) セワナガル言う事やわいなあ (です)。

せわなし (しえわなし) (世話無) 【名詞】 面倒でない 簡単だ [会話] そいな (そんな) こた (事は) なんも (少しも) 世話ねえ ちょいちょいと 出来るやんかい (出来ます)。なんも (全く) セワナシや (です)。

せわなやける (しえわなやける) 面倒である その人や事柄に対し他からの手助けが必要で手数がかかる [会話] セワナ ヤケンナア (やけます)。こげん (こんなに) したれ (してやれ) 言うても、よおせんで (出来なくて) そや (それ) 又 こげん せえよお (しなさい) 言うて、おせたり (教えたり) いろいろな事 おせても (教えても) よお せざったり (出来なかつたり) すると、セワナ ヤケル せわやかすな あ言うて。その反対な (が) 世話やかせる 世話や

かしてなあ言う。セワナ ヤケル言うのは してやる方やし (ですし)、世話やかせる言うのは してもおた (してもらった) もんな (者が) 世話やかしてなあ言うて。

せわになったなあ。せわになったのお (しえわになったのお)。**せわになってのお** 世話かけました 心配させました 別れる時の挨拶 (熊) [会話] 医者に病気で セワニナッタナア 先生言うて、男の人ら (は) セワニナッタノオ言うし、おなご (女) の人ら セワニナッタナア言うしなあ。セワニナッテノオ言うて、使うな 目下の人に言う時に。目上のひた (人は) セワニナッタナア 言うとくんけどな (言うておくのです)が) なあも のおも一緒の事や

せわにん (しえわにん) (世話人) 【名詞】 1) 団体や組織会合を運営する時、その面倒を見る人 (熊) 2) 結婚式の仲人 (志、上、阿、度、伊) [会話] ① 寺のセワニン、しとんねてや (しているのです)。なんやかや (いろいろ) の役 しとる (している) 人を セワニン。あの人な (が) セワニン やてない (だそうだ) 言うてな。② 嫁の世話やくのも (仲介するの)も 嫁の下見行くのをなあ セワニンな (が) 来て言うてな。観音さんの セワニンや (だ) 宮さんの セワニンや (だ) 言うてな みな、世話する人をなあ。

せわねえ (しやわねえ) 簡単である [会話] なんも (何にも) そいな (そんな) こた (事は) セワネエ レ (ありません) 言うのな (言うのです)。簡単な事 言うねわい (言うのです)。世話 ねえやんか (ないではありませんか) そいな (そんな) もんは (物は)、じっきん (すぐに) 出来るれ (出来ます)。そいな こた (事は) なんも (なににも) セワネエ ちょいちょいと 出来るやんかい (出来るでないか) とか、なんも 世話なしや (だ) そいな もな (物は) 言うて。

せわのやける 手数が掛かる、面倒だ

せわやかし (しえわやかし) 【名詞】 誰にでも面倒かける人 [会話] せわやかして あの人な (が) 言うて、誰ん (に) でも 世話 (面倒) かけて しとる (している) 人を セワヤカシやなあ (だ) あひた (人は) 言うて、そいな (そんな) 人な (が) 有るもんやわい (もの)です)。

せわやかす。せわやかせる (しえわやかす) 世話やかせる 人に面倒を掛ける 厄介をかける 心配させる [会話] よけ (あまり) セワヤカス 言うて。あんまり (あまり) えんりよ (遠慮) して 此れ食べえ (食べなさい) 言うても、私や (は) そや (それは) ええ

わい (よろしい) ええわい 言うると (言っている) やんない (でしょう)、そすと よけ (あまり) セワヤカスなまあ あっさり せえまあ (しなさい) 言うて、あんまり セワヤカスと (ていると) ごおな わいて (腹が立って) 来て。

せわやき (しえわやき) (世話焼) 【名詞】 1) 仲人 仲介人 (志 (布施田)、一、度) 2) 宴席などで座につかせたり飲食を勧めたり面倒を見る事、又、その人 3) 仕事などを指図する人 4) 人に世話をやきたがる人 出しゃ張り者 [会話] 1) 結婚のセワヤキとか、³⁾ 仕事すんのも (するの) どげんせえ (どんなにしなさい) こげんせえ (こんなにしなさい) 言うて、セワヤキ。2) よばれてても (招待されても) はよ (早く) 飲め 食べ言うて せわやかせん (面倒見ない) とか言うて。

せわやく (しえわやく) (世話焼) 心配する 面倒を見る [会話] セワヤク言うな (言うのは)、それ 煙草も吸わんかい (吸いなさい) 茶も飲まんかい (飲みなさい) 言うて、すんのを (するのを) セワヤク言うんなあ。さぶい (寒いです) やんかい 炬燵へ入れえ (入りなさい) 言うて セワヤクのなあ。

せわやく (しえわやく) (世話役) 【名詞】 世話をしてくれる人 主になって指図する人

せわやける (しえわやける) 厄介だ 面倒だ せわなやけると同じ [会話] セワヤケル こお (子) やなあ (だ) 言うて、言うても 言うても聞かへんとなあ (ないと) セワナヤケルなあ 言うて そして、嫁でも出たり 入いったりすると おおた せわやかしてなあ (面倒かけて) 言うて、心配さしてなあ (させて) 言う事を。おれげ (俺家) の嫁な (が) 戻つたね (て行ったのだ) 言うて なことおや (仲人) な (が) 上手ん (ん) 言うて そげん (そんなに) しと ても (していても) はざんよつてん (駄目だから) はよ (早く) 来たて (来てやって) くれよ (下さい)、行たて (行ってやって) くれよ 言うて、連れて来て。セワヤケル言うのは 面倒ばっか (ばかり) かける言う事を

せわやったなあ。せわやったのお (しえわやったのお) 面倒かけました

せわんなる (しえわんなる) 自分の生活や仕事のため他人の助けを受ける 面倒をかける 心配させる [会話] セワナツテナア言うて。せわかけるのおを (のを) セワ>NNナル。せわしてもろた (貰らった) もんななあ (者が) 礼 言う時や (です)。セワ>NNナル

ナア言うて、ことわり (許し) 言うのな (が) ほんと やけど (本当だが) そいな (そんな) にぎや (人間は) めったん (絶対に) 言わせんしなあ (言いません)。

せん (しえん) (疝) 【名詞】 せんき 疝気 下腹痛 腹痛 漢方にて大、小腸 腰 腹の病 (大言海) [会話] せんな (が) おこつて言うて、せんしゃくな (が) おこつて まあ せんしゃくで もみきつてたん (死んでしまった) てわれ (そうだ) 言うて。男の人はなあ せんや (だ) 言うて、おなご (女) は すんばこ。すんばこなおこつて 寝とられ (寝ている) 言うて よお (よく) 言よおつたね (言っていました)。

せん (しえん) (先) 【名詞】 以前

…せん …しやせん (しえん) しない 否定の言葉 行かせん 言わせん おらせん 泣かせん せぬ。せ成 施 ン 打ち消しの助動詞ぬの転 (三重県全域) (志 (布施田)、度) [会話] なんも (何も) しや せん。今日も仕事もセント (せずに)、しや (それ) 遊んでばっか (ばかり) おつて (居て) なんも しや せん。神い (へ) も行かせん (行かない) 仕事も しや せん。どげん (どんなに) しや せん こげん (こんなに) しや せん なんも センと 言うのを、しや せん 言うてなあ。行かせん 言わせん こんのも (来ないのも) 来やせん言うのなし (言うのです)。

ぜん (じえん) 【名詞】 ぜに 銭 貨幣一般の俗称 かね 金銭 (志 (布施田、浜島、磯部、鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、鳥 (鳥羽、国崎、石鏡、浦村)、員、三、久、一、飯、多、上、阿、張、名、度、伊) [会話] お金の事 ぜん。ぜん無い 金無い かいしよ (甲斐性) 無い、かいしよどころか 家も無い、来てみりや 土瓶の蓋も無い言うて。札でも ぜんや (だ) 言うね (言うのです)。お金の事をぜんや (だ) 言う。

ぜん (じえん) (膳) 【名詞】 一人前の料理 料理 食べ物 台の上に整えられた飲食物 宴会の席 [会話] あの人ん (に) なんもかも (すべて) ぜんの用意して もおて (もらって)。

ぜんあせぎ (じえんあしえぎ) 【名詞】 金稼ぎ、金儲け [会話] 稼ぐ事をあせぎ 金あせぎなわりいて (が悪くて) 言うて 金稼ぐ事を、かねあせぎ 金あせぎな (が) のおて (無くて) まあ 言うてなあ。働くとこな (所が) 無いとなあ あせぎん (に) いとんね (行っているのだ) おらぎや (俺の家は) とおさんな (夫が) 言うてなあ 稼ぐ言わんと (言わずに) あせぐ

言うてなあ ゼンアセギや (だ) 言うて。

せんいち (しえんいち) (千一) 【名詞】 虚言家 千三同じ 千の一つ せんみつ 本当の事は千のうち三つより無いの意 ほらふき 嘘つき (志 (国府)、度、一、多) [会話] センイチ (千一) まんがら (万空)、嘘 言い (嘘つき) 千の一つも ほんと (本当) な (が) 無い言うの (のを) センイチ。センイチ せんそつ ぼり 言うなまあ (言うのは) 千 言うても ひとつ も (一つも) ほんと (本当) な (が) 無い言うの (のを) せんそつ ぼり、センイチ まんがら 言うて 嘘 言い (嘘つき) の事なあ。

せんいちまんがら (しえんいちまんがら) (千一万空)

【俚語】 嘘 つき 虚言家 [会話] センイチ マンガ ラ 言うの そや (それは) 皆 嘘 や (だ) 言うの。 なん (何) 言うても 皆 嘘 ばつ か (ばかり) 言う事。センイチ マンガ ラ 言うな (言うのは) 千 言うても 一つも ほんと (本当) の事な (が) 無い言うのを 言うね (言うのです)。

ぜんうしない (じえんうしない、ぜんうしなひ) 【名

詞】 銭失い 浪費家 無駄遣いすること [会話] 安物買いのゼンウシナイ言うて。安い言うて買うと じ つき ん (すぐに) わり (悪るく) なつてく も ん で (て行くので)、こ や ま あ (これは) や す う て (安くて) 言うて、飛 び つ い て 買 う と じ つき ん わり な つ て (なつて行って)、な ん や と (なんでも) か あ や と (かあでも) み た も ん か い (見た物を買う人) や な あ (だ) 言うて。

せんか (しえんか、せんくわ) (仙花) 【名詞】 仙花紙 楮を原料とした和紙 伊予の国、兵藤太郎左衛門 (泉貨) 創製した 極めて強く帳簿、袋紙、合羽の地紙などに用いられた (員)

せんか (しえんか) 1) しなさい (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、度、鳥、尾) 2) しませんか (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) [会話] 1) それ し た ら ん か い (してしまいなさい) とか、セン カ イ 言うて。煙 草 吸 わ ん か い (吸いなさい) 言うて言うの。しなさい言う事や (です)。お茶でも 飲 ま ん か い (飲みませんか・飲みましょう) 煙 草 吸 わ ん か い、とか言うのなあ、しなさい言う事を。飲 ま ん か い 食 わ ん か い。セン カ レ 言うのも 一 緒 や わ い (です) これしなさい言うのを セン カ レ。セン カ イ 言うな (言うのが) 大人に 言う言葉な し (ですし)、セン カ レ 言うと 子供らでも お な ご (女) でも 目下のも ん (者) に 言うのな あ (言い

ます) セン カ レ。セン カ イ 言うのは お と な し (おとなしい)、セン カ レ 言うた時は 命令するよ ん な あ (ように)。

せんかあ (しえんかあ) しなさい

せんかい (しえんかい) しなさい せん か 参 照 (志、伊、南)

せんがき (しえんがき) 【名詞】 大根を薄く短冊状に切ったもの、千切の巾の広いもの。(志 (布施田)) [会話] セン ガ キ、だ い こ (大根) の き ぞ だ の (刻んだのを) セン ガ キ。せん ぎ り も 一 緒 や (です) せん ぎ り も 旨 い ん て や (旨いのです) はりはりするとのお。セン ガ キ と 若 布 と 入 れ て 三 杯 酢 で。

せんがけ (しえんがけ) 【名詞】 先駆け (志) [会話]

セン ガ ケ。先 い (に) 約 束 す る 事 を、セン ガ ケ や (だ) 言うねよ つ て (言うのだから) 先 い (に) お ん な (俺の) 方 な (が) セン ガ ケ ヤ イ や も ん (から) 言うと、先 い (に) 頼 む 事 を セン ガ ケ や (と) 言う。セン ガ ケ ヤ イ 言うてなあ 先 い (に) こ げ ん (こんなに) し て く れ え (下さい) 言うて、頼 ん ど く (頼んでおく)。そ す と (そうすると) 又 あ と か ら 人 な (が) 来 て、わ し げ も (我が家も) こ げ ん し て く れ え 言うても、先 の 人 な (が) 早 か つ た も ん で (ので) セン ガ ケ 言うて、セン ガ ケ ヤ イ 言うて、先 い (に) 話 し 掛 け た 事 を セン ガ ケ ヤ イ な あ (です)。後 か ら 来 た も ん (者) は う な し (同じ) か け よ て も (掛け合っても・話し合っても) セン ガ ケ い (に) 先 い (に) や つ と い て か ら (やっておいてから) 残 つ た ら や る わ い (あげます) 言うよおなも ん や (ものです) 先 駆 け 先 い (に) し た も ん (者) を、セン ガ ケ 言うなあ。

せんがけやい (しえんがけやい) 【名詞】 先に頼んだ頼む事 せん が け 参 照

ぜんかせぎ (じえんかしえぎ) (銭稼) 【名詞】 収入を得る事 仕事する事 [会話] ゼン カ セ ギ か か つ て 来 て (するようになって) 一 代 (ひとしろ。一人前) 当 る (得る)。

せんかった (しえんかった) しなかつた (志)

せんかて (しえんかて) しなくても (志) [会話] そ い な (そんな) 事 セン カ テ え え や ん か (よろしい) 言うてな。そ い な 事 せん て て (しなくても) 言うの を な あ セン カ テ え え や ん か 言うけど (言います)。そ い な (そんな) 事 せん て て だ い じ か れ (かまわない) 言うて、せん で も (しなくても) え え わ れ (よろしい) 言うのを、せん て て な あ 言うて。し

なくてもよろしい言うのを 薬飲まんかて 治つてかれ (行く) 言うて。

せんかてええ しなくてもよろしい

せんかな (しえんかな) しなさい (志) [会話] 此れ センカイ (しなさい) 言う時も有るしなあ。それ センカレ 言うて 目下の人ん (に) 言うけど (が)、それ したらんかれとか (してやりなさいとか) センカレ とか 言うてな 上の人や (だ) となあ、まあ 此れ せええ (しなさい) センカナ 言うて。

ぜんかねんかかわらん (じえんかねんかかわらん) 損得勘定して居る状態で無い、義理を盡さなければならぬ。(志 (布施田))

ぜんかもん (じえんかもん、ぜんくおもん) 【名詞】

1) 前科者 前科のある者 2) 以前に余り好ましくない事をした事のある者 [会話] ① ゼンカモン。監獄から来るとなあ、あや (彼は) ゼンカモンやよつて (だから) おとしんどお (怖いのだ) かまうなよお (相手にするな) 言うて、おとしがよおつた (怖がって居ました)。

せんから (しえんから) 【副詞】 先程 以前から [会話] センカラ言うたとた (言っていた) 事 やけど (だが)、前から 言うたとた事や (だ) 言うのをな、センカラ言うたとたのん (言っていたのに) まだ せんとおんのか (せずに居るのか) 言うてなあ。ずっと前から、言うてあんのん (あるのに) せんとおんのか 言うて、はよっから (早やくから) 言うてあんのん 言うてな。

せんかれ (しえんかれ) しなさい せんかな 参照 (志 (片田、立神)、鳥)

せんき (疝気) 【名詞】 神経痛 せん (疝に) 同じ [会話] センキ すんばこ 昔や (は) 神経痛の事 センキ 言よおつたんかいなあ (言って居たのでしょうか)。センキ すんばく 血の妙薬 言うて。センキ すんばこ 言うて、今し (今) で言うて、神経痛やろなあ (でしょう)。センキ すんばこ 血の道 言うて 言よおつたんよつて (言っていたから)。センキヤミ、センキモチ センキな (が) 起つてばっか (ばかり) おる (いる) センキ持ち 言うんなあ (言います)。

せんぎ (しえんぎ) (詮議) 【名詞】 原因を追究する 責めて白状させる 疑い 詮は理を明にする意 [会話] センギ かけられた 言うてなあ、調べられる事を 言うねんなあ (言うのです)。センギ された 言うよつてなあ (言うのだから) 警察でせんぎり (充分) センギ されてなあ 言うて、責められる事を いろいろの

事を追及される事をなあ。

せんきすじ (しえんきすじ、せんきすぢ) 【名詞】 1) 少しの手掛かり 2) 見当違い (上、阿)

せんぎだて (しえんぎだて) (詮議立) 【名詞】 いろいろ調べたり、批判したりする事 [会話] センギダテ 言うのは 詮議しやれて (されて) 言うて、けえさつ (警察) い (に) 呼ばれて 詮議しやれて。調べられて言うのをな。なんやかや (いろいろ) 問いつめられん (る) のを なあ センギダテ しやれて (されて) 言う。

せんきぼら (しえんきぼら) 【名詞】 法螺の一種 あかにし アクキガイ科の巻き貝、高さ 15~20 cm、殻の口は大きく、内面は美しい赤色、肉は食用 [会話] センキボラ 言うな (のは) 中な (が) あつかい (赤い) のおな (のが) センキボラ 言うの (のです)。と びきぼら と違う。まるくたい (丸い) よお でああ、中のみいな (身が) あっこお (赤く) て、おいしいのお (のを)、センキボラ 言うな (言うのは)、茶色 みたよな (のよな)、さざい (栄螺) みたよん (のよな) に しとんねけど (しているのだが) あんまり (あまり) なあがない (長く無い) まるくたいの (丸いのです) 浦ん (に) よお (よく) 有るやんかな (有ります)。

せんきもち (しえんきもち) (疝気持) 【名詞】 神経痛を持病とする人 よく疝気をおこす人 [会話] せんきやみ センキモチ せんきな (神経痛が) おこつて ばっか (ばかり) センキモチ

せんきやみ (しえんきやみ) (疝気病) 【名詞】 せんき 疝気を病む人 せんき 参照

せんぎり (しえんぎり) (精限) 【副詞】 充分 沢山 精限り 力の及ぶ限り 一生懸命 精切。せん 千 数の多い事。ぎり 名詞 きり 切 限から主として話し言葉で用いられる語で ある事柄についてその態度を限定し、それ以上は及ばない事を表す。まるっきりの形でそのまま全部の意を表す (志 (片田、立神、志島、安乗)、度、北、南、熊) [会話] センギリ てや (とは) なんやな (なんですか) 言うたや (言ったら) だいこ (大根) の きぞだのお (刻んだの) やれ (だ) 言うて。センギリ 言うな (言うのは) 沢山 言う事を センギリ 言うねやんかい (言うのです)。センギリ 食うたよお (食べました)、センギリ よばれたわい (頂きました) 言うてなあ、沢山 食べた 言う事をなあ。センギリ 言うな (言うのは) 腹一杯 食べる 言う事だけや (で) 無しん (に)、センギリ 働い

た、力一杯働いた、それも センギリ言うの。センギリ働かされて センギリ働いて 腹な(が)減って、腹な 減って センギリ食うたれ(食べました)。食べるのは沢山食べた 言う事やわな(です)。働く時は いっしょけんめ(一生懸命)に働いた 言うんなし(言うのです)。センギリ言うのと 充分に 目茶苦茶によっけ(沢山)食うた言うのを センギリや(です)。働く時でも充分に働いた いっしょけんめ で働くと センギリ働いた言うて、センギリ 働かされたとか言うて。そこに あんの(有るのを)センギリもてかんかれ(持って行きなさい) 言うて よおけ(多く)、おもさま もてけ(持って行け) 言うてなあ。おもさま 思う存分に言うよおな意味やろなあ(でしょう)。おもさま 言うて よっけ(沢山)貰うねよって(のだから)。まあ 思う存分に もろた(貰った) 言う事やわいなあ(です)。おもさま くどけ(食べなさい)、おもさま よばれて(御馳走になつて)、ごっつお(御馳走)も おもさま もろて(貰って) 言うて、よけ(沢山)貰うとなあ。センギリ言うのは よお(よく)使うのお(使います)。センギリ 食うた(食べた) 言うたり(言ったり) センギリ した言うたりなあ。センギリ怒られたとか センギリは よお(よく)使うなあ。

せんぎり(しえんぎり)(千切)【名詞】 大根を薄く切つて干した物(志(浜島、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥(鳥羽、答志)、員、鈴市、安、上、阿、名)

ぜんぎり(じえんぎり)【副詞】 沢山 充分に 精切 せんぎりに同じ [会話] おびや(出産後)におると わりな汁(里芋の茎の汁)食べると ええね(よいのだ) 言うて おびやど(産婦)は、ぜんぎり 食べよった(食べました)。

ぜんぎり【名詞】 小魚の輪切り ぜにぎり

せんぐ(しえんぐ)【名詞】 遷宮 せんぐう 神殿を造営改築する時、神座を移す事 末尾母音の省略 [会話] 伊勢のゴセング。遷宮言わんと セング。他所の人ら(は) 遷宮や(だ) 言うな(言います)。宮さんの ゴセングや(だ) とか、伊勢のゴセングとか 言うてな ゴセングい(へ) 参いってこやんか(参いって行きましょう) 言うてな。

せんくち(しえんくち)(先口)【名詞】 順番が先である事 それより先に申し込んだり約束したりしたもの [会話] センクチ 言うな(のは)、先い(に) たのだ(頼のんだ) 人を、センクチ言うのな(です)。せんがけや(だ) 言うてな、始めに 一番に 頼む人を

せんがけや(だ) 言うのな(です)。そいな(そんなのを) センクチ 言うんやろな(言うのでしょうか)。

ぜんぐみ(じえんぐみ)(膳組)【名詞】 膳の上に料理を並べる事 膳として並べる料理の種類、品数をととのえる事 又、それを並べる事 [会話] ゼングミして、昔やなあ(は) 本膳を くみよったもんで(組んでいた)ので ゼングミして貰らうのん(のに) 言うて、料理人たのでなあ(頼のんで)、嫁 もおたり(貰らったり) すると、本膳で あの家や(は) ゆおたんでない(祝ったそう)だ 言うて ひら(皿)、やって 親の椀やって 汁腕やって(置いて) 言うてな ゼングミスんのなあ(するのです)。

せんくら(しえんくら)【名詞】 千回 何度も くらは度数を数える語 [会話] センクラモ 通よたなあ(通よった) 言うてなあ、嫁 貰らいん(に) いても(行つても)、くれにくい(くれ難い) 家な(が) 有ると、おおた センクラモ あの家い(へ) いても(行つても) センクラモ 行かへんねけどだ(行かないのだが) 五回か六回行くんけど(のだが) それを まあ センクラモいても 聞いてくれやへんわ(くれない) 言うて言うのな(です)。何回言うて 一回や二回ならええけど(よいが) 何回となしに 行くもんでな(ので)。

せんこ(しえんこ) 1) しなさい こ、かの変化したものの 女性言葉 2) しませんか [会話] 2) これセンコ、わいも(お前も) 言うて。これ センコ、そやあら(それ) 言うてなあ。せんかれ(しなさい) そやれ(それ) 言うよおな事を センコ しゃあら言うて。男の人は使わんと(使わずに) おなご(女) な(が) こやら(これ) センコ言うな(言います)。おなご(女)の言葉。

せんこ(しえんこ)【名詞】 線香 末尾母音の省略(員、三、鈴郡、鈴市、一、多、上、阿、名、北) [会話] かかあ(妻よ) センコ 立て 蚊帳吊れ 臍隠せ

ぜんこ(じえんこ)【名詞】 銭

せんごく(しえんごく)【名詞】 農具 籾を米と籾殻に仕分ける道具 選穀(志、員、鈴市)

ぜんこじいも(じえんこじいも)【名詞】 薩摩芋の一種 [会話] ゼンコジイモ。あや(あれは) ぜんこじ(善光寺) から もて(持って) 来たんやろなあ(のでしょう)。まっかな(真っ赤な) のおでなあ(の) 旨いねてや(のです)、あつさりとしてな。ゼンコジイモで きんこ(煮切干) すると 旨いねやんかな(の

です)。そして 飯ん (に) 炊いても 旨いんでや (のです)、真っ白ん (に) なってなあ あっさりと あく (灰汁) な (が) のおて (無くて) 旨いねてや。

ぜんごさえ。ぜんごしゃえ (じえんごじゃえ) 【名詞】

宴会の料理を膳に並べる事

せんこだい (しえんこだい) (線香代) 【名詞】 1) 少しの金銭 2) 玉代 (上、阿) [会話] 1) センコダイ言うな (言うのは) ほとくさん (仏さん) へ せんこ (線香) をなあ、磯い (へ) いても (行っても) なんも なあ (何にも) 大漁な (が) 無いとなあ センコダイも はざあざった (駄目だった) 言うて、せんこ (線香) 買うほども ならざったよお (ならなかった) 言うのなあ (のを)。2) おやまさん (女郎) 買いにいた (行った) 時に せんこいっぽ (一本) であの いっぽな (一本が) 燃えるうち (間) な (が) 時間や (だ) 言よおった (言っていました)。始めに言うた センコダイ 言うな (言うのは) ちょいと (少し) より (しか) 無いの、なんも無い。ほん (本当に) ちょおいと (少し) なった (稼いだ) 時は、まあ ほん センコダイだけやったよお (でした) とか言うなあ。昔や (は) せんこな (が) 安かったんやろあ (安かったのでしょうか)。せんこ だ (は) さんかだ (たかだか・せいぜい) 二銭か三銭で買われよおった (買えて居た)。

せんこたて (しえんこたて) 【名詞】 1) 線香立て 線香を立てて焚く器物 2) 線香を入れておく器 [会話] 2) センコタテ。竹の此の位いん (の) のおを (のを) 切つといて (ておいて) センコタテや (だ) 言うて、束ん (の) のおを (のを) さばいて なあ、そして 朝ごつと いっぽ (一本) にはほお (二本) つそれ つけんの (つけるのです)、それ 入れてあん の (有るのを) センコタテ。せんこ入れて 焚かんと (焚かずに) あんのをな (有るのを) せんこ 入れとくのを (ておくのを) センコタテ言うの (のです)。今しゃ (今は) 買うと ええのな (よいのが) 有るけど (が)、昔や (は) 竹 切つといて なあ (ておいて) それい (へ) しよおったなあ (して居たのです)。1) 墓の センコたてんな (るのは) センコタテ あやまあ 砂入れてなあ せんこ 焚くの (のを) こおざら 言うてな こおざらや (だ) 言うね (言うのです) あれを こおざらも ええの (よいのを) こおて (買って) 言うてなあ。

せんこはなび (しえんこはなび) 【名詞】 線香花火 こよりに火薬をひねり込んだ小さな花火 [会話] 花火

ばちばち ばちつとなあ 子供らな (が) すると、紅葉みたよん (のように) になって、美しのおな (のが) 有るやんかいなあ (有ります)。センコハナビや (だ) 言うね (言うのです)。

ぜんざい (じえんざい) (善哉) 【名詞】 つぶし餡の汁粉

ぜんざいもち (善哉餅) の略 或る人始めて小豆の汁に餅を入れて、一休禪師に供するに一休賞して「善哉此汁」と言った事から (大言海) 小豆にて煮たる餅をゼンザイ餅と言うは、出雲の国にて毎年十月神在月と称して家毎に餅を作り、小豆にて食う祝儀なる俗ありて、此の月日本国中の諸神は皆是国に存す祝いなりとて、神在餅と言うなるを訛りてゼンザイと言うなりと、白井宗因が神代巻私説に云えるよって。此の煮餅を往畿内以西にては、善哉と唱え、東国にては汁濃と呼べり。吾神境にても近頃まで汁濃と唱えしに今は専ら善哉と呼ぶめり。(椿葉随筆) (鈴市、安、張、伊、鳥) [会話] ゼンザイ 汁粉のことなあ (です)。今し (今) の人ら汁粉や (だ) 言うけどなあ、昔や (は) ゼンザイヤ (です)。ゼンザイか、ずるやなあ (です)。とびき (ときび・唐黍) の こお (粉) を入れると、ずる。ゼンザイ言う時は 小豆潰しといて (ておいて) 有る。そして 団子でも 餅でもいれんの (入れるのを) ゼンザイ。小麦の団子でも 餅な (が) あや (あれば) 餅 入れるしなあ (入れます) 白玉粉 捏ねといて (ておいて) 入れると うまいわい (美味しいです)。あや (あれば) 餅よりうまいわい、やいこおて (柔らかくて) 正月の十一日ん (に) になると のべ餅 (延餅) や (だ) 言うてなあ ゼンザイ すんのも (するもの) 鏡餅を割つといて (ておいて)、焼いといて 入れて 十一日には 浜へ まつりん 行くのなあ。浜い (へ) みいくら (三回) も よおくら (四回) も まつりん (祀りに) 行くねやんかい (行くのです)。十一日や (は) おおび (鮑) のくちあげ なあ (口開けです・解禁日)。おおびのはな くれや (下さい) 言うて 貰いん (貰いに) 行くひい (日) なあ (です)。みいくらなあ (三度) まつりん (に) 行くね (行くのです)。始め 磯口 あけんいて (開けに行つて)、それから こんだ (今度は) まえもん 持っていて (行つて)、こんだ ゼンザイして みいくらも まつりん (に) 行くね。十一日は、まえもん言うてなあ 鏡餅と あの 飾るやんない (でしょう)。かぶち (橙) やとか、だいこ (大根) や、さざえ (栄螺) や さざえは かなつぽ (金壺) 言うて 海老も据えて。そして 二日前ん (に) はやす (切

る) 言うて、二日に まえもん はやして (切つて) 一つ おいて (おいておいて) そして 十一日の磯口 あけんのん (あけるのに) 持てきおった (持って行きました)。わしらげや (私の家は) 磯鏡 (海女の供える鏡餅) を取る もんで (ので) 磯鏡 を 置いといて (置いておいて) まつりん (に) 行きおった。物置 い (に) 磯桶 い (に) 大きな こいなのおを (こんなのに) しといて (しておいて)、それを まつりん (に) 行きおったの (行って居たのです)。その時に飾る さざえを かぬつぼ、かなつぼ 言うの。

ぜんさき (膳前) 1) 晩酌 (熊、南、熊) 2) 引き出物 [会話] 2) ゼンサキ い (へ) つけて 言うてな、ひきでもん (引出物) をなあ。一の膳、二の膳言うてすると その先い (へ) ひきでもん (引出物) つけんの (付けるのです)。1) ゼンサキ い (へ) 一本 ゼンサキ い (へ) つけとく (付けておく) 銚子をなあ 銚子を 付けとくのをなあ (ておくのを) ゼンサキ い (へ) 付けるなあ。

せんさし (しえんさし) 【名詞】 真珠母貝の口に栓を差し込む事 その作業、核入れをするのに 真珠貝の口を開けておく必要が有る。

せんしええ (しえんしええ) 【名詞】 先生 (鳥)

せんじぐすり (しえんじぐすり) (煎薬) 【名詞】 植物の根、実、皮などを煎じて用いる医薬 [会話] じつぽおさん (実母散)、中将湯やら (とか)、じつぽおさん を煎じて、センジグスリ。風邪引いた言うても 飲みよおった (飲みました)。こお (子) もおけた (産んだ) あた (後は) じつぽおさん を 煎じて飲ましてなあ。

ぜんしだい (じえんしだい) 金次第 金銭の多少によって物事の事情がどうにでも変わる事、又そのさま [会話] なんでも ゼンシダイ やれ (だ)。地獄の沙汰も 金次第 言うて、ぜん (銭) さえ有りさいしゃ (有れば) まあ なんでも (何でも) 出来る 言うんや わいな (言うのです) ゼンシダイ や (だ) 言うてな。

せんしゃく (しえんしゃく) (疝癪) 【名詞】 胸、腹、腰などが急に差し込んで痛む病気 [会話] センシャク な (が) おこった 言うてなあ。センシャク な (が) おこつて、もみきつた (きつていった) 言よおった ね (言つて居たのです)。腹 な (が) 痛い ね (のだ) 言うてなあ。センシャク で もみきつた 言うてなあ、急に死んでくと (いくと) 言よおったん (言っていました)。昔の急病 センシャク で もみきつた んで ない (もみきつていったそうだ) 言うてなあ。今で言

う 腸閉塞やら 盲腸そいなねやろ。

せんしゆ (しえんしゆ) (船主) 【名詞】 舟の所有者 船の持ち主 [会話] センシユ 船の大將 センシユ、持ち主。船の ふなのし、ふなのしや (と) 言うね (言うのです)。ふなぬし、ぬしや (だ) けど (が) ふなのし 言うの なあ (です)。

せんしゅうらく (しえんしゅうらく、せんしゅうらく) (千秋楽) 【名詞】 最後 物事が終わりになること [会話] 終いの事 なあ (です)。ま、こんで (これで) センシユウラク やどお (だ) 言うて、終い ん (に) になると 言うんかい (言います)。すもとり (相撲取り) の センシユウラク。なんやかや (いろいろ) 終ると、こんで (これで) センシユウラク や なあ (だ) 言うてな。なんもかも (すべて) して ああ おもて (思つて) 言う時 な (です) 終りや (です)。しまいの事、なんでも (何でも) 終りん (に) になると ま センシユウラク や なあ (だ) 言うて。

せんしゆ せんど (しえんしゆしえんど) (船主、船頭) 船の持ち主で、しかも漁船で中心となって指図する人 [会話] 船主 ふなぬし (船主・船を持っている人) の事 や なあ (です)。そすと (そうすると) せんど (船頭) は乗つて舟で指揮する人 せんど や (と) 言うて な (言います) センシユ センド 言うて舟持 とる (ている) 人が せんど しとる (している)。〇〇の〇〇さん が病気になる前 舟に乗つて ていて せんど (船頭) して 乗つた。そいなのおを (そんなのを) センシユ センド、そいなのおは (そんなのは) よけ (多く) ないわい (有りません)。〇〇の爺さん も、〇〇 でも、〇〇さん かも 皆 行き おつた (行って居ました) よつて んなあ (から)。

せんじる (しえんじる) (煎) 【他ザ上一】 煎じる 煎ずるが変化した語 煮出す

せんすじ (しえんすじ、せんすぢ) (千筋) 【名詞】 千本 [会話] のおと (お前と) おると (いと) のどの ひぼ (紐) が センスジ あつても 皆 切れられ (切れる)。

せんずり (しえんずり) (千擗) 【名詞】 男性の自慰

せんせ (しえんしえ) 【名詞】 1) 先生 自分が師事する人 師として教える人、特に教育にたずさわる人 2) 教育者、医師、議員など尊敬して呼ぶ語 かなり高い敬意を表す (志、桑郡、員、三、鈴郡、鈴市、亀、一、松、上、阿、張、名、伊、尾、南、熊) [会話] 1) 先生 言わんと (言うのです) センセ 言うね なあ (言うのです)。センセ 言うてな ちよいと (少し)

言うけど(が)、どいらい(大変) もったいつけて(敬って)、せんせえさんや(だ) 言うて。センセ言うときや(ておけば) ええのん(よいのに) せんせえさん言うて。そすと じゅんさん(巡査)も じゅんさん言うときや ええのん じゅんさんさんや(だ) 言うて、昔はなあ(は) 先生や(とか) そいな(そんな) 人を どいらい(大変) たつとびおったもんで(尊敬して居たので) 先生さん言うて ま 道で逢うと れえ(礼)して どいらい たつとびおったけど(尊敬して居たが)、今しは(今は) 先生やら(か) せえと(生徒) やら(か) 判らせん(判りません)。

せんせ(しえんしえ) **しなさい** **さんせ**(志)

ぜんせ(じえんしえ) **【名詞】** 1) 先祖 2) この世に生まれる以前の世 [会話] 1) ぜんせな(前世が) わり(悪い) よってなあ(から) 言うけどなあ。先祖の事をなあ ぜんせな あのうちや わりねよってんなあ(悪いのだから) 言うてなあ 昔や(は) ゼンセで わり事 しとる(している) 人な(が) 有って、そやもんで(それだから) 今しや(は) まあ、子供らな(達が) あげなとか(あんなのだ) 言うて、言う家も有るし。

せんせえ(しえんしえ、せんせい) **【名詞】** 先生(志、鳥、員、四、安、一、阪、松、多、上、張、度、尾)

ぜんせえ(じえんしええ、ぜんせい) **【全盛】** **【名詞】** 羽振りのよい事 [会話] 家な(が) 繁盛しとる(している) 時や(は) ぜんせえやよって(だから) 言うしなあ。羽振りな(の) 時を あの家や(は) 今し(今) ぜんせえやなあ(です) 言うて。

せんせさん(しえんしえさん) **【名詞】** 先生様 **せんせ**参照

せんせん(しえんしえん) **【名詞】** 蟬(志(越賀)) [会話] しえんしえん 言うんかい(言うのですか)。センセン言うのかい(ですか)。蟬の事 しえんしえん。しえんしえん いくら しても しえん(しない) しえん言うて。せんぎり(精一杯) 尻 振っておって(いて) だらのきい(木)で尻振って しえんしえん(しない) しえんしえん言うて鳴いた。なんもせんとおって(何もしなくて) センセン言うて 鳴いて。なんも(何にも) いくら 尻振って わがた(自分) 鳴きもえとも(ていても) しえんしえん 言うて。だらのきい(木) 言うのは 針な(が) 有って しえんしえんな(が) 一番 よお(よく) すわる(止まる) 木なあ(です)。

ぜんぜんおくり(じえんじえおくり) 次第送り 順送り

[会話] ぜんぜんおくりや(だ) 言うてな、だんだん(次第に) してくのを(いて行くのを) ぜんぜんおくりや(です)。

せんそ(しえんそ) **【名詞】** 戦争(志、三)

せんぞ(しえんぞ) **【先祖】** **【名詞】** 仏様 [会話] 先祖代々。センゾサン センゾサンなあ(です)。孫爺さんから 曾孫爺さんから、ずうと センゾダイダイ言うてなあ。家の仏さんの(を) センゾダイダイ言うてなあ。仏さんをだ(だ、強調) センゾダイダイに ずうと代を頼って センゾダイダイや(です) センゾダイダイ 菩提のため。

せんぞがえり(しえんぞがえり、せんぞがへり) **【名詞】** 動、植物の改良品種が元の状態に戻ること。(鈴市)

せんぞさん(しえんぞさん) **【名詞】** 佛様 祖先(度) [会話] センゾサン。佛さん。先祖代々言うて自分達の親 孫爺さん 曾爺さん そお言う人を 先祖言うの(のです)。その人らが 亡くなったのを 佛さんの事を センゾサン 言うてな。

せんそつぱり(しえんそつぱり) **【名詞】** 嘘つき 虚言家 うそ言い、せんいちまんがら参照

せんだいかぼ **【名詞】** 仙台から持ち帰った皮膚病 主に梅毒を言う。遠洋漁船の水夫が仙台の娼婦から移って来て、妻や子供に移し、治りぬくい [会話] 毒言うのは 梅毒の事。仙台毒 言うたや(言ったら)、ここの人 仙台 行くもんで(ので) 皆 毒 うつつて来て、かから(妻達)も 毒うつつて、子らら(子供達)も かぼ(膿痂疹) な(が) 出来ると、センダイカボや(だ) 言うて。

せんだいどく(仙台毒) **【名詞】** 遠洋漁業の漁師が仙台中うつつてきた皮膚病 梅毒を言う **せんだいかぼ**参照

せんだいひら **【名詞】** はかま(南)

せんだく(しえんだく) **【名詞】** 洗濯 せんたくの古い語 衣服を洗って汚れを落とす事(鳥、員、三、鈴郡、鈴市、一、松、多、名、度、伊、北、南) [会話] 昔や(は) センダク すんのでも(するのでも) 灰の灰汁で しよつたねんなあ(して居たのです)。灰を袋い(に) 入れて 水い(に) 放り込んどいて(でおい)て そすと(そうすると) あく な(が) 出て その汁 しためて(しぼって) 石鹸の代りん(に) しよおつた(して居ました)。

せんだくいた(しえんだくいた) **【名詞】** 洗濯板 もみ板

せんだくこ (しえんだくこ) 【名詞】 粉石鹸 洗剤 洗濯の時汚れを落すために用いる粉末 [会話] センダクコ あらい粉 今で言うたら 洗剤や (です)

せんだくざお、**せんだくざわ** (しえんだくざわ) 【名詞】 物干し竿 (南) [会話] センダクザオ。竹のなあものほしざわ (物干し竿) をなあ、センダクザワ、竿やなしん (でなくて) ざわや (です)。

せんだくだらい (しえんだくだらい、せんだくだらひ) 【名詞】 洗濯桶

せんだち (先達) 【名詞】 案内人 先に立つ人 [会話] 先い (に) 立つ事なあ (です)。センダチサンな (が) 言う通りん (に) して、センダチン (に) 付いて いかな (行かなければ) 言うて、昔や (は) どおぎよおで (同行で) 四国 西国 皆 行きおったわい (行っていました)。そすと (そうすると) センダチサンな (が) あって、その センダチサンに 連れられて 皆 四国 西国めぐり や (です)。センダチサンな (が) たいしよ (大将) で 札所 札所をうって 歩いて した言うて。同行言うて 皆 連れ立って 五人、十人つ (ずつ) かたまって行くのを 同行。お おぜ (大勢) の同行 物 貰わず 言うてなあ、門い (に) 立っても 同行な (が) 多いとなあ ちよいとより (少ししか) 貰われやせんやんない (貰えないでしょう)。そやよって (それだから) おおぜ (大勢) の同行 物 貰わず言うやんかい (言うのです)。同行 いて (行つて) 十円 もろてもなあ (貰つても) 一人 やったら (だったら) 十円出来るけど 同行で行くと 何人も やもんで (なので) 五人も 十人も 同行で行くと そげん (そんなに) 皆ん (に) くれやせんし (くれないので)。一人か二人 貰うと まあ (もう) 貰わせんね (貰わわないのです)。そやよって (それだから) おおぜ の同行 物 貰わず言うて 昔の人の諺や (です)。昔や (は) 皆 同行でなあ、今し (今) で言うて 団体 やわい (です)。仲間で旅行でも するやんない (でしょう)。それ 同行でなあ、四国巡つた 西国巡つた 言うてなあ。

せんだつ (しえんだつ) (先達) (先立) 案内する 先導する

せんだつき (しえんだつき) 【名詞】 洗濯機 [会話] センダッキ 洗濯機 言うのを センダッキや (だ) 言うて、センダッキ い (へ) 放り込んどけ (でおい) 言うて。

せんだっこ (しえんだっこ) 【名詞】 洗剤 洗濯粉 粉になった洗剤 [会話] 洗濯粉 言うのをなあ、セン

ダッコ言うて。こお (粉) の事を、センダッコや (です) センダッコも 入れとけ (ておけ) 言うてな。

せんたぶね 【名詞】 欠損の出る事 [会話] センタブネで さがりこぎや (だ) 言うて。昔や (は) かとぶね (艇船) い (へ) いて (行つて) 仙太 言う人な (が) しとたんやかなあ (していたのでしょうか)。そんで (それで) ゆわく (理故) は 判らんけどなあ (判りませんが) 諺な (が) さがり漕ぐと、センタブネや よお (だ) さがり漕ぎや よお (だ) 言うて。手金 まあ 十円 かって (貸りて) みても その手金な (が) 戻されんで (戻せなくて) すると。らいね (来年) 目に その船い (に) 乗つて 払うと それ さがり漕ぎ言うの。去年の さがり漕ぎや (だ) 言うてなあ、十円 かって (貸りて) いたんけど (行つたが) 五円分より 漁な (が) のおて (無くて)、そすと (そうすると) 五円残つた もんで (ので) そんな (それが) さがり、五円 さがりな (が) いて (行つて)、そして らいねや (来年は) 又 その船い (に) 乗つて その さがりを 戻すもんで (ので) さがり漕ぎ。センタブネで さがり漕ぎや (だ) 言うて。さがりになる時に センタブネ その人 ばかや (ばかりで) 無いんけど (無いのだけれど) 何処でも 損さすと (させると) さがりや (だ) 言うんけど、仙太小父 なだ (が) はじめ (最初) やつたんやろなあ (だったので) しよう。そんで (それで) センタブネで さがり漕ぎや (だ) 言う。

ぜんだむし (じえんだむし) 【名詞】 丸く出来るたむし 皮膚病 ぜん 錢 ぜにたむし 銭田虫 [会話] ゼンダムシ 言うな (言うのは) ふち (周囲) な (が) あっこお (赤く) なつて わあ (輪) になつて まるく (丸く) おて (丸く) しとんの (しているのを) ゼンダムシ な (が) 出来た言うてなあ。

せんち (しえんち) 【名詞】 便所 雪隠 せついん せつちんの転 せつちん 雪隠。西浄 せいちんの転 便所 かわや 後架。せいちん 西浄 禅寺で便所 西序の人が用いるから。せいじよ 西序 禅宗寺院で 学徳にすぐれた者が占める職位 首座以下六頭士の事、又、その僧達が法堂に於て並び西側の位置。西班 (志摩市全城、鳥、尾、南、熊、桑郡、桑市、員、三、四、鈴郡、鈴市、安、津、一、久、飯、松、多、上、阿、名、張、度、伊) [会話] せんちや 便所の事 センチ、せんちや 言いおつたなあ (言っていました)。せんちやや (です)。センチや (と) 言わんと (言わずに)、せんちや い (に) いて来い (行つて来い) 言

うてなあ。“せんちやの女房 かげやまの女房 こじいき (乞食) くねんぼ 芋焼いて 食らえ “ 言いおったんなあ (言っていました)。乞食 くねんぼ 芋焼いて 食らえ言うて 遊ぶのに、遊びやてや (です) そんな (それが)。男とおなご (女) と ふたあり (二人) 並んどると (でいると) 男とおなご (女) と ぴっちゃんこ言うてなあ かもてなあ (からかつて) そして 男のとこ (所) へ おなご (女) のこお (子) が 座ると おなご (女) の中へよお入らんで (入れなくて) 男の中へ ちよいと (少し) 腰掛けた 言うて かまうねてや (からかうのです)。

せんちいく (しえんちいく) 大便に行く (志)

せんちづめ (しえんちづめ) 【名詞】 最後迄 追いつめる事 逃げ場のなくなる迄 追いつめる (志 (浜島)、上、阿)

せんちのむし (しえんちのむし) 【名詞】 蛆 せんちや のむし すご参照 [会話] センチノムシ すご (蛆) の事を

せんちや (しえんちや) 【名詞】 せんちに同じ 参照 (志 (神明)、鳥 (鳥羽、国崎、石鏡)、南)

せんちやがみ (しえんちやがみ) 【名詞】 便所紙 尻を拭く紙 落とし紙 [会話] 尻拭き紙 センチャガミ。 藁やったんよってなあ (だったのだから)。尻拭き藁や だ 言うて、すぐで (藁屑) 切って 尻拭き藁や

せんちやづめ (しえんちやづめ) 【名詞】 雪隠詰 逃げ場の無い所に追い詰めること [会話] 将棋すると センチャヅメン (に) おおた (逢った) 言うてな、逃げるとこな (所が) 無いよん (ように) 追いつめる。

せんちやのむし (しえんちやのむし) 【名詞】 便所のうじ虫 すご (南) [会話] センチャノムシ すご (蛆虫)。

せんちやばい (しえんちやばい) 【名詞】 銀蠅 黒蠅 [会話] ああおい (青い) 蠅な (が) ある。背中のあ あおいのな (青いのが) 有るやんかい、大きな。朋輩 (友人) あくばい (悪輩) センチャバイ言うて。ほおばいよい (呼び掛けの言葉) 言うて あくばいか 言うて センチャバイか言うて 言いおったなあ (言っていました)。ほおばい言うて あくばい センチャバイ言うて 昔や (は) 皆 朋輩 朋輩 言うてなあ、男の人ら (は) 言いおったね (言っているのです)。朋輩言うな (言うのは) 友達の事をなあ おい朋輩 言うてなあ、朋輩とか 兄弟とか言うて 友達の事を 言いおった (言いました)。そすと (そうすると) 兄弟言うて さいご (その時) ぶんろくきよおだい お

おぬすつと 言うてなあ かまいおったの (からかつて居たのです)。ほおばい言う時や (は) あくばい言ううんなし (言いますし) 兄弟言うとなあ きよおだい ぶんろく おおぬすつと 言うてなあ そげん (そんなに) 言うて かまいおったの。

せんちやばち (しえんちやばち) 【名詞】 くろあなばち ジガバチ科の蜂、体長3cm、全身黒色で顔に銀白色の短毛が有る。羽は透明、砂地に長さ1mにも及ぶ穴を振る

せんちよ 【名詞】 船長 末尾うの省略

ぜんちよく (じえんちよく) 正しくしている 几帳面な事 [会話] ゼンチヨクん (に) かんまえて (構まえて) 言うねな (言うのです)。きちんと しとるとな (している)、あや (彼は) まあ ゼンチヨクん (に) かんまえて 何処い (へ) 行くんどい (のだ) 言うてな。ゼンチヨク言うて 改まってなあ 床 敷いて 枕もして 言うてな、そげんして (そんなに)して ゼンチヨクな ねえかた (寝方) しやせんの (しません) 泊り屋い (へ) 行くて。

ぜんつかい (じえんつかい、ぜんつかひ) 【名詞】 1) 銭遣い 金銭を使う事 使い方 金遣い 2) 浪費家 [会話] 1) 金をよけ (沢山) 使う人を、あやまあ ゼンツカイな (が) あろおて (荒くて) 言うてな。ばあばあとまあ あれも買ひ これも買ひする人なあ、あや ゼンツカイな (が) あらいな (が) よくも ぜんもおけな (金儲けが) あんねなあ (有るのだ) 言うてな。どいらい (大変) ゼンツカイな (が) あらいねよお (荒いのだ) 言うたり、あや (彼は) 此の頃 どっからか (何処からか) 入いって来るとこな (所が) あんねなあ (有るのだ) 言うて、金使いの荒い事を。

ぜんつき 【名詞】 招宴の席につく事 ぜんつきうた参照

ぜんつきうた。ぜんつきのうた (じえんつきのうた)

【名詞】 招宴の時、客に席に着くのを促すための祝い歌 [会話] ゼンツキウタ。ゼンツキ言うて、座敷な (が) 始まるまで 昔や (は) 皆 膳 出しおったやんない (出していたでしょう)。そやよって (それだから) ゼンツキに (席に座るのに) 一つ やってくれ (歌って下さい) 言うて。三福一対を 歌いおったわい (歌っていました)。ゼンツキや (だ) 言うてなあ 座敷な (が) 始まる前ん (に) ゼンツキ 一つ うとてくれえ (歌って下さい) 言いおった (言っていました)。お膳へ付くまでに 三福一対を 昔や (は) しいおったけど (していましたが) 今は そいなこた (そんな事は) しやあせんなあ (しません)。今は

三福一対は歌うけど ゼンツキ 言う言葉 使わせんなあ (使いません)。その歌が済んでから はよ (早く) やってくれえ (飲食して下さい) なんも (なんにも) 無いけど言うて。

せんで (しえんで) (先手) 【名詞】 先に占有する事を行ふのに他の人の先を越す事 [会話] センテ打たれた言うて、先い (に) あんたな (貴方が) 思とる (思っている) 事を、わしな (私が) 先い (に) あんた (あなた) こげん (こんな) 思とんね (思っている) とか 言うのを、センテ打たれたよお言うてなあ。あんたな (あなたが) これ 聞こ (聞こう) 思とると (思っていると)、それを 私な (が) こや (これは) こおでなあ言うて、センテ取られた。先い (に) しやれる (される) 事を 自分が 思とる 事を 先い (に) 言うたり、したりするとなあ センテ打たれたよお言うて。

せんで (しえんで) しなくて

せんで (しえんで) しなくて (四、南)

せんである (しえんである) 支えて有る ふさいで有る [会話] 止めといて (ておいて) 川を、わが家のたあ (田) から 止めておこすねやんかい (よこすのです)。そすと (すると) わが家のことばっか (ばかり) 一杯ん (に) なって こっちやい (こちらへ) 流れて 来やせんやんない (来ないでしょう)。川センデ わがたあい (自分の田へ) 入れんねやんかい (入れるのです)。そやもんで (それで) こんだ (今度は) こっちや 怒って来て、センデアンの (有るのを) 取つといて来て (取り除いて来て) そげんして (そんなにして) 水取りやい (取り合い) すんのなあ (するのです)。

せんである (しえんである) しないで居る

せんでて。せんでてな (しえんでてな) しなくても

[会話] そいな (そんな) 事 センテテ だいじかれ (かまわない)。そいな事 センテテナ 言うてなあ。せんでも (しなくても) ええわれ (よろしい)、しなくても よろしい 言うのを そいな事 センテテナ ほつきや (ほおっておけば) なあってかれ (治って行く)

せんでも (しえんでも) しなくても [会話] そげん (そんなに) 苦に (気に) センデモ ええわい (よろしい)。

せんでもええ しなくてもよろしい

せんでもええわい。せんでもええわな (女性語)。 せんでええわら。せんでもええわれ。 しなくてもよろしい

せんと (しえんと) (銭湯) 【名詞】 大衆浴場 せんと の略訛 (志、鈴市、伊、鳥) [会話] セント。風呂屋の事なあ (です)。

せんと (しえんと) せずに (桑市、三、鈴市、安、多、上、張、伊、南) [会話] なんも (何も) セント (せずに) 言う事も 有る しなあ。しなかった 言う事 わしや (私は) 今日 なんも (なんにも) セント おつたよお (おりました) 言うて。

せんど (しえんど) (千度) 【名詞】 【副詞】 1) 沢山 千回 回数、分量などが多し事 たびたび なんども ひどく (志 (浜島、布施田、甲賀)、鳥、阿、一、南、熊) 2) 長い間 久しく 3) 一生懸命 (志 (甲賀)) [会話] 1) センド かよおて (通って) 言うやんかいなあ (言うではありませんか)。なんべんも かよて (通って) センド かよたけど (通ったけれど) まあ 言う事も よお (よく) 言うなあ。

せんど (しえんど) (船頭) 【名詞】 漁の指揮をする人 漁労長 せんと の末尾母音の省略 せんしゅ せんど 参照 (志、鳥、桑郡、三、鈴市、多、伊) [会話] 船のセンド。なんもせんど (何もしない) センド ひんよお (よく) 分けてくれ言うて。そら (それは) すけないなあ (少ないです)。魚 分けるよおん (ように) になると センド ひんよお (平等に) 分けてくれ え言いおつたてや (言っていました)。なんも (何も) ならんとおつて (役に立たないのに) さい (菜・副食・魚の内から当日の副食として魚を得る事) 分ける時だけ、さいら (秋刀魚) でも なんでも 終いに 家い来てから 分けるよおん (ように) になると、センドな (が) 分け番 (役) しいおつて (して居て)、センド ひんよお 分けてくれえ 言うて、しごた (仕事は) なんも ならんとおつて。ひんよお わかる 言うて 皆だ (が) うんなしよおん (同じ様に) 分けてくれ 言う事やわい (です)。上下せんと (多い少ない無しに) 貰うもん (もの) だけ なんもならんとおつて 菜 (さい) ん (に) になると いきつて くられ (勢いづいて来る) 言うて よお (よく) 言いおつた (言っていました)。

せんど (しえんど) (先途) 【名詞】 事の成否を決する大事の所

せんとあられ。せんとおられ (しえんとおられ) せずに 居ます して有りません [会話] してない 言う事、まだ セントオラレ 言うてな。せんと (しないで) あんのを (有るのを) 仕上がとらんのを (て居ないのを) セントオラレ セントアラレ 言うて。

せんどお (しえんどお、せんどう) 【名詞】 せんど (船頭) に同じ

せんとおけ (しえんとおけ) するな

せんとく (しえんとく) しないでおく (員、久)

せんとけ (しえんとけ) するな (員、久、一、張、北)

[会話] そいな (そんな) 事 せんでええわれ (しなくてよろしい) 言うのをな、セントケ 言うてな。そげな (そんな) 事せんでええない (しなくてよろしい) 言うて、そいな事、セントケ 言うて。

せんとこ (しえんとこ) 1) しないでおこう (員、張)

2) しないでおきなさい

せんとこに (しえんとこに) しないでおこう (張)

せんとぶろ (しえんとぶろ) (銭湯風呂)。**せんとや** (しえんとや) (銭湯屋) 【名詞】 せんと 大衆浴場

せんとどのるすごと (しえんとどのるすごと) 鬼の居ぬ間 主人のいないときに美味い物を食べたり遊んだりする事 [会話] たいしよ (大将) な (が) おらん (居ない) 時に、ごっつお (御馳走) して 食うたり、遊んだりすると センドノルスゴト 言うて。

ぜんとり (じえんとり) 【名詞】 1) 暴利をむさぼる事。

又その人。(志 (布施田)) 2) 男を騙して金をまき上げる女 [会話] ② あや (彼女は)、ゼントリヤなあ (だ) 言うて、おなご (女) な (が) 男の人ら 上手ん (に) 言うて しい (して)、又 他の人な (が) 来ても 上手ん (に) 言うてなあ 寄せ込んで すると、あや (彼女は) ゼントリヤよってん (だから) 言うてな、おなご (女) な (が) 男を騙すの ゼントリヤよってん (だから) 言うて。① 商売人 でも 掛値よけ (沢山) しとる (している) 人を、ゼントリヤよってん (だから)、あれも (彼も) ゼントリヤどお (だ) 言うて。

ぜんないくびない (じえんない、くびない) 金がないのは首がないのと同じだ。世間付き合いが出来ない (志 (布施田))

ぜんなし (じえんなし) (銭無) 金銭の無い事 貧乏な事 その人

せんならん (しえんならん) しなければならぬ ならん ならない なるの未然形ならに打ち消しの助動詞ぬの転であるんの付いたもの (志、四、多、張、南) [会話] あれ センナラン、これ センナラン 言うて。これ センナラン もんで (ので) いっしょけんめ (一生懸命に) なっとて (なっていて) センナラン。

ぜんに (じえんに) 以前に (志 (布施田)、上、阿)

ぜんになる (じえんになる) 売れる 儲かる

せんねんうずき 【名詞】 千年も痛い事 痛い拳骨

ぜんのつな (じえんのつな) (善綱) 【名詞】 棺の前につけて親類、縁者が引く晒木綿で作った綱 善の綱 開帳 常念仏 万日供養などの時に仏像の手などにかけて引く綱。一般に五色の糸が用いられる。葬式の時、棺桶につないで引く紅白、又は白色の綱 縁の綱 えんのつな 寺の開帳の時、本尊から供養塔に帳る白木綿の綱 それにふれれば 本尊にふれたのと同じ功德が在ると言う 善所に導く綱の意 (志、度) [会話] 死んだ おりん (時に)、道、道 (道中) 引いてく (引いて行く) やんない (でしよう) 晒を。あれ ゼンノツナ 言うの。今しや (今は) 家で切って 皆 頸へ巻いて 綱 危ないもんで (ので)。一反で あ ろかい (有りません・足りません) 親戚な (が) 多い うちや (家は) かたびらかぶりに 皆 一つうつ (ずつ) やんね (やるのです)。つな んどいて (つないでおいて) それ 引っ張って 行きおった (行って居ました)。

せんのとき (しえんのとき) 【名詞】 1) 非常に多忙な時 2) 非常に大切な時 せんのひい参照

せんのはたらき (しえんのはたらき) 【名詞】 大活躍よく働く事 (志 (布施田))

せんのひい (しえんのひい) 【名詞】 非常に多忙な状態又、重要な時 (志 (布施田)) [会話] センノヒイ (日) やなあ (だ) とか、センノトキやなあ (だ) 言うの。いっしょけんめ (一生懸命) で なんやかや (色々) したらな (してやらなければ) はざんひい (いけない日) を センノヒイ (日) やなあ (だ) 言うなあ。なんもかも (なにもかも) 片付けて はよ (早く) いっしょけんめ (でして) 片付けを したらな はざん、そお言うばやい (場合) を、今日は センノヒイ やなあ (だ) 言うてなあ。センノトキ も ひい (日) も 一緒なあ (です)。今日は なんも (何も) せん (しない) ひい (日) やなあ (だ) 言う日もあるし、そんで (それで) こや (これは) センノヒイ やなあ (日だ) 言う時は いっしょけんめ (で) したらな はざん。そやよって (それだから) 時は替れど日は替わらん言うて うなし (同じ) 事や (です)。

せんりのり (しえんのり) 【名詞】 船の役職名 遠洋漁船の寄港地に先に行つて餌を買い付けたり、荷揚げを、問屋と交渉したりする人、おかまわり、えさかい、参照 [会話] 餌買い 言うの、船 入れて来ると こい (所へ) いて (行つて) 餌 こおて (買って) かんま えとて (待ち構えていて)、船 な (が) 来ると すぐ

ん(に) 積ますよおん(ように)、ぼてん(生糞)に活けてあんのをなあ(有るのを)、わしとこい(私の所へ)これひとかめ 置いといて(ておいて)くれ(下さい)とか言うて、といや(問屋)と交渉して、そして船な(が)入れて来るとなあ、それをすぐん(に)積ますよん(ように)。ゆわし(鰯)、餌買いや(だ)言うの(のです)それをセンノリ。

ぜんばこ(じえんばこ)【名詞】 ぜにばこに同じ

ぜんぶ(じえんぶ)【全】【名詞】 皆 すっかり 全体 [会話] 皆 みんなの事を ゼンプ。ゼンプ 皆 言うて ありだけの事。

ぜんぶ(じえんぶ)【膳部】【名詞】 料理 [会話] 膳 しとる(している)。一人前の ゼンプ言うて、五人前のゼンプや(だ)今日は とか、言うてなあ よお(よく)言う、ゼンプン。五人前 料理とか 一人前のゼンプンとか 言うてなあ 一人前のゼンプンな(が) 幾らや(だ) 二千円とか 三千円とか やてわい(だそうです) 言うて よお 言うやんかい(言います)。注文する時 んなあ(に)。ゼンプン言うてなあ 膳へ 一杯 十品でも 十一品でも すんのな(するのが) ゼンプン、一人前のゼンプン。ゼンプで 切らんと(切らないで) ‘ん’ が付く。ゼンプン言うの。

せんぶり(しえんぶり)【千振】【名詞】 げんのしょうこう リンドウ科の二年草 高さ 20~30 cm, 茎は四角柱状で、暗紫色を帯びる。葉は対生し、長さ 3 cm 内外の線状披針形、秋、茎頂や上部の葉腋に白色で紫脈のある花をつける。花冠は直径約 2 cm で深く五裂する 全草を乾燥した物を当薬と言い 古くから健胃剤に用いられる。千回煎じてふり出しても苦味が残ると言うところから この名がある。(北、熊) [会話] センブリ飲んだよおな(ようだ) 言うて、苦いの 苦いもんでなあ(ので)。センブリ飲んだよおな顔 しとる(している) 言うて、苦い ねやろなあ(なのでしょう)、センブリ。苦い もんでだ(ので) 顔よおする(顔をしかめる) もんでなあ(ので) そんで(それで) センブリや(と) 言うて。

ぜんぶん(じえんぶん)【名詞】 膳部 一人前の料理 膳に乗せる食べ物や料理 ぜんぶ膳部と同じ参照

せんべ(しえんべ)【名詞】 煎餅 せんべい 干菓子の一つ 小麦粉に砂糖、鶏卵などを加え、型や鉄板に流して焼いた物 (志(立神)、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、松、多、上、阿、伊、北、尾、南) [会話] センベ せんべい ポリポリ囁む ポリポリ言うセンベ。飴屋の小母さんな(が) おんどりや(おのれ) せんべ

え(千屁) どころか まんべえ(万屁) や(だ) 言うて 屁ひとつ いて(ふっておいて) へえ(屁) 幾つも 続けて へつ いて せんべえ どころか まんべえ じやれ(だ) 言うて。

せんべげた(しえんべげた)【名詞】 履いて薄くなった下駄。(上、阿) [会話] センベゲタ、びたびたん(に) なる迄 履いとんのおを(ているのを) 言うんやろなあ(言うのでしょうか) はあ(歯) な(が) 一つも(全く) 無いよん(ように) なる迄 履きよった(履いて居ました) センベゲタ。

せんべつ(しえんべつ)【選別】【名詞】 より分ける事

せんべつ(しえんべつ)【餞別】【名詞】 旅立ちを祝って送る金品

せんべぶとん(しえんべぶとん)【名詞】 綿が少なく堅くて、薄くて、粗末な布団 [会話] センベプトン(煎餅布団) やなあ(だ)、こや(これは) まあ 言うて。うっすうい(薄い) 布団をなあ、よお(よく) センベプトン 言いおったわい(言っていました)。宿屋(旅館) のセンベプトンで言うて わしげや(私の家は) 昔 宿屋 しとたんでわい(してたそうです)。旅籠を。そやもんで(それだから) わしら 嫁ん(に) いたおや(行った時は) センベプトンな(が) よっけ(沢山) 有りおったわい(有りました)。うっすういなあ(薄い) 馬の腹当て みたよおな(のような) 布団な(が)。センベプトンや(だ) 言うて 宿屋 しいおった(していた) 時の布団や(だ) 言うて。

ぜんぼ(じえんぼ)【名詞】 ふじつぼの一種 ふじつぼ: 甲殻類 フジツボ亜目に属する種類の総稱 体は円錐形の堅い殻でおおわれ岩礁などに付着する。殻の直径は 5~30 mm 植物のつる状をした 6 対の足があり、これを殻口から出してプランクトンを捕食する。各地の潮間帯から深海に広く分布し、船底などに附着し速度を減退させるか、養殖貝にも、被害を与える。(志(鵜方、神明、立神、安乗)、桑市) [会話] ゼンボ言うとなあ、島の上に はえとる(はえている) つぶ な(が) 付くわい(付きます)。鮑や、さざえでも 獲て(獲って) くるとなあ つぶな(が) ちっちやいの(小さいの) 付いとるわい(付いています)。ゼンボな(が) 付いとる(ている) ゼンボおいねとる(背負っている) 言うてなあ。つぶの事を 言うの。舟 ひいとでも(引いていても、引き揚げても) 長い事(時間) 舟 しとると(していると) ゼンボな(が) 付いて来てなあ 舟、たでよおったやんかい

(舟たでました)。わしら(私達) 朝鮮行くと ふね
たて や(だ) 言うて、夏なか(夏の最中) ん(に)
なると 二回くらい、舟たで する。舟 ひきあげと
いて(引き上げておいて) 横倒しにしといて(してお
いて) 舟の底を こすつといて(こすつておいて)、
ゼンボな(が) 一杯 付いとてなあ(付いていて) そ
の ゼンボや、のり 落としといて(ておいて) それ
から、しだ(柴) 買おて(買って) 来て 舟を焚くの。
舟の底を たでる言うてなあ。重たいもんで(ので)
舟な(が) 潮(海水) くくどて(含んでいて)。それ
を 夏中 二回くらい 舟たで や(と) 言うてなあ、
全部 舟のもん(物) ほり出しといて(放りだしてお
いて) そして 舟 横倒しに してといて 舟の底を、
しだをおもさま(充分に) 敷いといて(ておいて) 焼
くの。舟たでる言うて 焼く事を たでる言うの。乾
かすの。ゼンボ言うな(言うのは) まるくとおて(丸
くて) もやがっとなな(盛り上がっています)、そ
んで(それで) 真ん中に穴が あいとる(あいていま
す)。餌とんのん(取るのに) いごいてきおったんや
んかい(動いていきました)。中から いごかしとり
おったやんかいなあ(動かしていました)。島に付い
とる(付いている) つぶ あれを どいらい(大変)
うまいね(美味のです)。鳴神(島の名称) のつぶ
はずして来て食うと あまづくうて。甘いのおを(の
を) あまづくい言うの。あまづくうて 味な(が) え
えのな(良いのです) つぶも茹でて食うとなあ、うま
いの ほんどん(本当に) おいしいわ あの、おおつ
ぶは。あまづくうて 味な(が) なつとも(なんと
も) 言えん(言えず) ええ(良い) 味な(が) すんね
(するのです)。つぶはなあ 今し(今は) とてきや
せんもんなあ(獲って来ません)。そして つぶは
昔でも あんまり 珍しかったねんなあ(のです)。
なかなか そんなもん(物) とつとる(獲っている)
ひまは無かったやろなあ(でしょう)。あんでなあ
(あれで)、そいなもんは(そんなものは) とらせん
の(獲らないのです)。うまいねけど(のですが) と
らせんの。そやけど(それだが) 潮な(が) 干いて
なんか 獲つたて(てやつて) 仕事な(が) なんも
(何も) 無いよおん(ように) なると 早よ(早く)
つぶ はずそや(はずしれよう) 言うて、磯桶い
(に) 半分位 獲て(獲って) 来て 炊くと、うまい
んでや(美味しいのです) どいらい(大変)。

せんまい(しえんまい)【洗米】【名詞】 神仏に供える
洗った米 水で綺麗に洗った米 アライヨネ(志(布

施田))【会話】 センマイ言うと、米の あろた(洗
った) センマイ。あろた(洗つておいて) 神さん
へ あげん(上げる・供える) のを あらいよね 言
うてなあ。あろたのおを(洗つたのを) 米 洗うもん
で(ので) センマイ言う。ごしんすい(御神水) と
神さんへ あげとけ(あげておきなさい) 言うて そ
の センマイと あらみず(新しい水) として ごし
んすい や(だ) 言うてなあ。水と米となあ つね
(常) 奉る時や(は)。節句や(だとか) なんの時や
(は) お神酒 こおて(買って) 来て するし。つね
に 神さん 掃除してする時や(は) ごしんすいと
あらいよね してとけ(しておけ) 言うて。年忌や な
んかで お寺へ あげん(供える) あれは あらいよ
ねとは 言わせんなあ(言いません)。あれは 寺い
(に) 持てく(持って行く) 米 かしとけよお(か
しておきなさい) 言うて。神さんへ 据えんな(供え
るのは) 洗いよね してとけよお 言うて。仏さんと、神
さんは区別して あらいよねは 仏さんへは しやせ
ん(しません)。仏さんへは飯するけどなあ。ここら
は ひがいかえる 言うて月一回いつ(ずつ) 全部、
勝手のもん(物) を あろて(洗つて) くど(火を炊
く場所) も なんもかも 皆 掃除して ひがいかえ
る言うて そげん(そんなに) しいおったもんで(し
て居たので)。ひい(火) 焚きおったもんで(焚いて
いたので) 鍋に 炭が一杯 付くやんない(でしょ
う)。そやもんで(それだから) その炭をな 皆 す
つて(こすつて) 綺麗にして 軽石で 皆 すつて
鍋も きんからこん(に) してなあ、そしといて(そ
うしておいて) 神さんへ すんねけど(するのです
が)、つねは 汚れたひい(火) おなごらな(女のひ
とが) 月のさわり(月経) ん(に) なると 汚れるや
んない(でしょう)。そやもんで(それだから) つね
のひいは 神さんへ 炊いたもん(物) を しやせん
の(しないのです)。神さん 掃除した時だけは 炊
いたもん するけど(します)。そすと(そうする
と) 仏さんは そげな(そんな) 無精な事は 言うと
らせんの(言っていない)。仏さんは いつでも
炊いたのお(のを) 供えるけど、神さんは 掃除した
時だけ 炊いたのお 供えんなあ(供えるのです)。
節句とか 正月とかなあ おつごも(大晦日) とか
正月になあ。正月三が日は 炊いたもん(物) 供える
けど、まあ その火な(が) 汚れる言うて 神さんへ
しやせんね。

せんまいづら(しえんまいづら)【名詞】 厚かましい人

図々しい人 [会話] 厚かましい人 面のかあ(皮) 千枚張り センマイヅラ言うの。顔は センマイヅラ。
せんまいどおし(しえんまいどおし) 錐、錐の針の部の長い物(上、阿)

せんまいばり(しえんまいばり)(千枚張)【名詞】1) 厚かましい人 2) 何枚も紙を張り重ねる事、又、その物 [会話] 2) センマイバリ言うな(言うのは) な ん やか や (いろいろ) 紙で張ったの言うなあ。センマイバリや(だ) 言うてなあ。はんぼ や て ら (だとか) さい と や て ら 言うのも センマイバリ ん (に) する や ん かい (します・するで有りませんか)。
こ お (粉) 挽く時なあ こ お 挽く時のはんぼ。はんぼ、紙を 挽臼を 据 え ん の な あ (置きます)。ほかの も ん (物) すると 粉 な (が) 付く も ん で (ので) 紙を何十枚も 張 っ と い て (張っておいて) 有って、あ っ つ う (厚く) し と い て (しておいて) そ れ い (に) 渋を ふ き お っ た わ い (塗りました)、柿の。かんかんに し と い て 挽臼 それへ 据 え て な あ 粉 挽く時 ん (に) 使 い お っ た (使っていました)。さいと や (だ) 言うて 籠の破れたのおえ(物に) 張って さい と い う て 有 り お っ た わ い (有りました)。つ ぶ も ん (粒物、雑穀) 入れたり 細 か い み い (実)、こ お (粉) の も ん (物) 入れたり、め え (隙間) も っ て く (漏れて行く) よ お な も ん (物) を さい と い (へ) 入 れ お っ た (入っていました)。そ や よ っ て (それだから) 頭 を は っ て (叩いて) さい だ い と ん (に) 言うて。頭を叩かれると お ら (俺は) は り ざ い と ん (に) お お た (逢った) 言うて 言 い お っ た の (言って居たのです)。昔 や (は) 籠 な (が) う ち や れ て 来 る と (壊れると) 二 重 か が り (籠の一種) う ち や れ た の お (壊れた物) とか、さいとに 張 っ と け (張っておけ) 言うてなあ 張 り お っ た ね (張っていたのです)。
1) 厚かまし(厚かましい) 人やなんや(かなにかは) 面の皮 センマイバリなあ 千枚面言うのなあ。顔の事 顔は千枚面 言うの。あ や ま あ (彼女は) ほん と ん (本当に) あ ば ず れ (横着で) 千枚面やれ(だ) 言うてなあ。

せんまいほどけ(しえんまいほどけ)(洗米程) 少し [会話] センマイ 言うて、神さん まつ ん の (奉るのに)、米を供える や ん ない (でしょう) ち よ お い ち よ い つ (少し)。そ や も ん で (それで) ち よ い と (少し) すると、じ ょ お 舟 (漁舟) の センマイホドケより も ら わ ら つ た (貰わなかった) 言うて、せんまいは ち よ お い ち よ い つ する や ん ない (でしょう) そ

や も ん で (それで) センマイホドケ も ろ た (貰った) 言うて。

ぜんまわり(じえんまわり、ぜんまはり) 膳の上 副食物

ぜんまわり(じえんまはり)【名詞】 銭回り 金銭が人の手から手へ回る事、転じて自分の手にする金の出入りの具合 ふところぐあい 金まわり

せんみつ(しえんみつ)(千三)【名詞】 嘘つき(南) [会話] 千 そ っ ほ り (すっかり) や な あ (だ) 言うて、嘘 ば っ か (ばかり) 言う に げ (人間) 千 そ っ ほ り (すっかり) や (だ) 言うて。あ や (彼は)、千言うても 皆 嘘 や よ っ て ん (だから) 言うて、そして 千 言う と 一 つ ほん と な (本当が) 有ると 千 一 や (だ) 言うて、セン ミ ツ 言う と 千 言う と 三 つ ほん と (本当) な (が) あ ん ね や ろ な あ (有るのでしょう)。

ぜんもおけ(じえんもおけ)【名詞】 金儲け 金銭を儲ける事 かねもうけ

ぜんもおけかしにやまいか(じえんもおけかしにやまいか) 金を稼ぐのは、死ぬ程の努力を必要とする(志(布施田))

ぜんもおけのひる(じえんもおけのひる) 金を稼ぐ絶好の機会 思わぬ大金の入る事(志(布施田))

せんもん。**せんもんや**。**せんもんやれ**(しえんもんやれ) しないものだ してはいけない(志(片田、布施田)) [会話] そ い な (そんな) 事 セン モン ヤ レ 言うて、す ん な (するな) 言う事を。したら は ざ ん (駄目) 言う事。そ い な 事 今日 は セン モン ヤ レ 言うて、縁 起 と っ て (かついで) 言う時もあるしなあ。し たら は ざ ん (してはいけない) 言う事を、セン モン ヤ レ 言うてなあ。

せんりょお(せんりょお、せんりょう) 植物 まんりょう(志、度)

せんりょおいわい(しえんりょおいわい)【名詞】 大漁祝い 漁獲高が千円になった事を祝う [会話] センリョウイワイ言うて、大漁して 千円になると、祝 い お っ た ん な あ (祝っていました) 和具中、牡丹餅して、こ ぼ り お っ た ん な あ (配りました)

せんりょおやくしゃ(せんりょうやくしゃ)【名詞】 有能な人 何事にも役立つ人